

砂子瀬遺跡Ⅱ 大川添(2)遺跡Ⅱ

－津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

2010年3月

青森県教育委員会

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成15年度から津軽ダム建設事業予定地内に所在する発掘調査を実施しています。平成20年度は、砂子瀬遺跡、水上(2)遺跡、大川添(2)遺跡の発掘調査を行いました。

調査の結果、砂子瀬遺跡では、縄文時代後期の土坑、埋設土器などの遺構や、同時期の土器、石器、土製品、石製品などの遺物が発見されました。大川添(2)遺跡は、調査区の大部分が削平されていましたが、川沿いの一部に遺構・遺物が残存していることが分かりました。

本報告書は、平成20年度に行われた砂子瀬遺跡と大川添(2)遺跡発掘調査事業の調査成果をまとめたものです。

この成果が今後、埋蔵文化財の保護と研究等に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている国土交通省 東北地方整備局 津軽ダム工事事務所に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成22年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 新岡嗣浩

例　言

1 本書は、国土交通省 東北地方整備局 津軽ダム工事事務所による津軽ダム建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成20年度に発掘調査を実施した西目屋村砂子瀬遺跡(一部21年度を含む)と大川添(2)遺跡の発掘調査報告書である。

発掘調査対象面積及び発掘調査面積は以下の通りである。

砂子瀬遺跡 発掘調査対象面積12,000m² 発掘調査面積8,200m²(平成20年度)

大川添(2)遺跡 発掘調査対象面積3,800m²(平成21年度)

大川添(2)遺跡 発掘調査対象面積29,400m² 発掘調査面積4,700m²

2 遺跡の所在地及び青森県遺跡番号は以下の通りである。

砂子瀬遺跡 青森県中津軽郡西目屋村大字砂子瀬川宮元 青森県遺跡番号 343008

大川添(2)遺跡 青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字大川添 青森県遺跡番号 343019

3 津軽ダム建設事業に伴う発掘調査報告書は、既に3冊刊行されており、本書は第4冊目となる。

4 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した国土交通省 東北地方整備局 津軽ダム工事事務所が負担した。

5 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間 平成20年5月7日～11月14日

平成21年5月7日～7月23日(砂子瀬遺跡E区)

整理・報告書作成期間 平成21年4月1日～平成22年3月31日

6 本書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター中嶋総括主幹、新山文化財保護主査、佐々木文化財保護主査、佐藤文化財保護主査、工藤文化財保護主査、菅原文化財保護主事が担当し、文末に執筆者名を記した。依頼原稿については、文頭に執筆者名を記した。

7 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

航空写真撮影 株式会社 シン技術コンサル

路線測量 株式会社 キタコン

石器の石質鑑定 国立大学法人 弘前大学理工学部教授 柴 正敏

放射性年代測定 株式会社加速器分析研究所

遺物の写真撮影 シルバーフォト、スタジオエイト

8 発掘調査成果の一部は、現地見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。

9 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。

10 発掘調査及び整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た(敬称略、順不同)。

青森県立郷土館、西目屋村教育委員会

泉 拾良(京都大学大学院)、岩井 浩介・岡本 康鶴・成田 正彦(弘前市教育委員会)、宇田川 浩一、菅野 美香子、加藤 朋夏(秋田県埋蔵文化財センター)、岡村 道雄(奥松島縄文村歴史資料館)、小笠原 雅行・永嶋 豊(三内丸山遺跡活用推進室)、小笠原 豊(平川市教育委員会)、児玉 大成、木村 淳一(青森市教育委員会)、小久保 拓也(八戸市教育委員会文化課)、佐野 忠史(つがる市教育委員会)

- 11 本書に掲載した地形図(遺跡位置図等)は、国土地理院発行の25,000分の1地形図「川原平」及び西目屋村役場発行の25,000分の1地形図「西目屋村管内図」を複写して使用した。
- 12 計測原点の座標値は、世界測地系に基づき、平面直角座標第X系による。
- 13 挿図中の方位は、すべて世界測地系の座標北を示している。
- 14 全体図等の縮尺は、各挿図毎にスケール等を示した。
- 15 遺構については、検出順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺構に使用した略号は、以下のとおりである。
- SI- 竪穴住居跡 SK- 土坑 SN- 焼土遺構 SQ- 土器埋設遺構
- 16 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付した。
- 17 遺構実測図の縮尺は、各挿図毎にスケール等を示した。
- 18 遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。
- 19 基本土層・遺構内堆積土層の色調表記等には、新版標準土色帖 2006年度版(小山正忠・竹原秀雄)を使用した。
- 20 遺物については、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺物に使用した略号及び記号は、以下のとおりである。
- P- 土器 S- 石器 C- 炭化材 ● 土器 △ 石器 ▲ 炭化材
- 21 遺物実測図には、挿図毎に1から通しの図番号を付した。同一個体と考えられる土器等には、図番号に小文字アルファベットを組み合わせて表記した。
- 22 遺物実測図の縮尺は、原則として縄文土器・礫石器は1/3、土製品・石製品・剥片石器は1/2に統一し、各挿図毎にスケール等を示した。
- 23 遺物実測図に使用した網掛けの指示は、以下のとおりである。
-  
- スリ範囲 (石器) タキ・凹み範囲 (石器)
- 24 遺物観察表・計測表に使用した略号等については、各表毎に指示内容を示した。土製品・石器等の計測値は、長さ×幅×厚さ(cm)・重さ(g)の順に表記した。()内の数値は現存値である。
- 25 遺物写真には、遺物実測図と共に図番号を付したが、縮尺は、統一していない。

目 次

序

例言

目次・図版目次

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経過	2
第2節 調査の体制	2
第3節 遺跡の位置と周辺の遺跡	4

第2章 砂子瀬遺跡

第1節 調査方法と整理方法	6
第2節 調査経過	9
第3節 検出遺構と出土遺物	
第1項 検出遺構(平成20年度調査分)	12
1. 竪穴住居跡 2. 土坑 3. 土器埋設遺構 4. ピット	
第2項 検出遺構(平成21年度調査分)	45
1. 土坑 2. 焼土遺構 3. 沢	
第3項 出土遺物	53
1. 土器 2. 石器 3. 土製品 4. 石製品	
第4節 理化学的分析	
1. 放射性炭素年代測定結果	66
第5節まとめ	69

第3章 大川添(2)遺跡

第1節 調査方法と整理方法	72
第2節 調査経過	74
第3節 検出遺構と出土遺物	
第1項 検出遺構	76
第2項 出土遺物	76
第3項 遺構外の出土遺物	78
1. 土器 2. 石器	
第4節まとめ	85
遺物観察表	86
写真図版	92
報告書抄録	127

図版目次

第1章 調査概要	
図1 津軽ダム周辺の遺跡	4
第2章 砂子瀬遺跡	
図2 基本土層	7
図3 遺構配置図	11
図4 第2号竪穴住居跡	12
図5 土坑(1)	14
図6 土坑(2)	16
図7 土坑(3)	18
図8 土坑(4)	21
図9 土坑(5)	23
図10 土坑(6)	26
図11 土坑(7)	28
図12 土坑(8)	30
図13 土坑(9)	32
図14 土坑(10)	34
図15 土坑(11)	37
図16 土坑(12)	40
図17 土器埋設遺構	41
図18 ピット	44
図19 土坑(1) (平成21年度調査)	46
図20 土坑(2) (平成21年度調査)	48
図21 土坑(3) (平成21年度調査)	50
図22 焼土遺構 (平成21年度調査)	51
図23 沢 (平成21年度調査)	52
図24 遺構内出土土器(1)	57
図25 遺構内出土土器(2)	58
図26 遺構内出土土器(3)	59
図27 遺構外出土土器(1)	60
図28 遺構外出土土器(2)	61
図29 遺構内出土石器(1)	62
図30 遺構内出土石器(2)	63
図31 遺構外出土石器(1)	64
図32 遺構外出土石器(2)・土製品・石製品	65
第3章 大川添(2)遺跡	
図33 基本層序	72
図34 トレンチ配置図	75
図35 土坑(A区)	76
図36 埋没沢(B区)	77
図37 沢(B区)出土遺物	77
図38 遺構外出土土器(1)	79
図39 遺構外出土土器(2)	80
図40 遺構外出土土器(3)	81
図41 遺構外出土石器(1)	83
図42 遺構外出土石器(2)	84

写真目次

写真1 砂子瀬・大川添(2)空中写真	92
写真2 砂子瀬地区空中写真	93
写真3 砂子瀬遺跡 竪穴住居跡	94
写真4 砂子瀬遺跡 土坑(1)	95
写真5 砂子瀬遺跡 土坑(2)	96
写真6 砂子瀬遺跡 土坑(3)	97
写真7 砂子瀬遺跡 土坑(4)	98
写真8 砂子瀬遺跡 土坑(5)	99
写真9 砂子瀬遺跡 土坑(6)	100
写真10 砂子瀬遺跡 土坑(7)	101
写真11 砂子瀬遺跡 土坑(8)	102
写真12 砂子瀬遺跡 土坑(9)	103
写真13 砂子瀬遺跡 土坑(10)	104
写真14 砂子瀬遺跡 土坑(11)	105
写真15 砂子瀬遺跡 土坑(12)	106
写真16 砂子瀬遺跡 土坑(13)	107
写真17 砂子瀬遺跡 土坑(14)	108
写真18 砂子瀬遺跡 土坑(15)	109
写真19 砂子瀬遺跡 土坑(16)	110
写真20 砂子瀬遺跡 土坑(17)	111
写真21 砂子瀬遺跡 土坑・埋設土器・基本土層	112
写真22 砂子瀬遺跡 土坑(1) (平成21年度調査)	113
写真23 砂子瀬遺跡 土坑(2) (平成21年度調査)	114
写真24 砂子瀬遺跡 土坑(3) (平成21年度調査)	115
写真25 砂子瀬遺跡 土坑(4) (平成21年度調査)	116
写真26 砂子瀬遺跡 土坑・焼土遺構・沢 (平成21年度)	117
写真27 砂子瀬遺跡 出土遺物(1)	118
写真28 砂子瀬遺跡 出土遺物(2)	119
写真29 砂子瀬遺跡 出土遺物(3)	120
写真30 砂子瀬遺跡 出土遺物(4)	121
写真31 大川添(2)遺跡A区・B区	122
写真32 大川添(2)遺跡C区	123
写真33 大川添(2)遺跡 出土遺物(1)	124
写真34 大川添(2)遺跡 出土遺物(2)	125
写真35 大川添(2)遺跡 出土遺物(3)	126

第1章

調査概要

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経過

岩木川総合開発の事業の一環として建設される津軽ダムは、昭和35年に完成した目屋ダムの度重なる計画規模を超えた出水による洪水や渇水の被害などを繰り返さないため、昭和58年から建設省東北地方建設局青森工事事務所による予備調査や実施計画調査が行なわれ、平成5年11月に「ダム基本計画」が公示された。

平成14年には、国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所から青森県教育庁文化財保護課へ、津軽ダム建設予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する協議の依頼があり、これを受けて同年7月に、津軽ダム工事事務所、県文化財保護課、西目屋村教育委員会の3者により、現地踏査と津軽ダム建設工事の工程・内容、津軽ダム建設予定地内の埋蔵文化財調査の進め方等についての協議が行われた。その後、文化財保護課による分布調査が実施され、津軽ダム建設予定地常時満水区域内の埋蔵文化財調査対象範囲を12地区、総面積約768,000m²と確定した。

発掘調査は、青森県埋蔵文化財調査センターが担当して実施することになり、平成15年度には、大川添地区と川原平地区に所在する遺跡の範囲・性格・内容等の確認調査、平成16年度～18年度には水上(1)遺跡の発掘調査、平成18年度に砂子瀬地区と美山湖右岸地区の確認調査、平成19年度には、砂子瀬遺跡・水上(3)遺跡と水上(4)遺跡の発掘調査が実施された。

平成20年度の発掘調査は、4月に津軽ダム工事事務所にて打ち合わせが行われ、津軽ダム関連の工事の進捗状況に伴い、砂子瀬遺跡と水上(2)遺跡の発掘調査、大川添(2)の範囲確認調査を実施することを確認した。

また、工事に伴う事前の準備や発掘調査時の安全管理及び設計変更に伴う調査区域の変更などについても、その都度関係諸機関と協議を行いながら調査を進めた。

第2節 調査の体制

平成20年度の津軽ダム建設に伴う発掘調査は、付け替え道路の橋梁橋脚部分として砂子瀬遺跡の発掘調査、周辺整備に伴う大川添(2)遺跡の範囲確認調査、骨材置き場としての水上(2)遺跡の3カ所で、5月7日から10月31までの期間で実施した。しかし、水上(2)遺跡は、現道から調査区への進入路の敷設やブレハブ用地整備などで遅れ、7月下旬から発掘調査が開始されたため、2週間延長して11月14日まで実施している。平成21年度は、国有林の解除申請遅れから調査できなかった砂子瀬E区の調査を平成21年5月7日から7月23日までの期間で行い、E区の調査は終了している。

発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

(平成20年度) 所長	伊藤 博文(現青森県総合社会教育センター所長)
次長	工藤 大
総務 G L	櫻庭 孝雄(平成21年3月退職)
調査第二 G L	畠山 昇
総括主幹	中嶋 友文

文化財保護主査	新山 隆男、工藤 忍、佐藤 純子
文化財保護主事	菅原 優太
調査補助員	館山 昌生(平成21年3月退職)、一戸 佐知絵、森山 裕行、 出町 好、森山 裕行、馬淵 恵理香、山上 猛、佐藤 裕香、 澤田 知里、森山 智絵、三宅 奈央子
(平成21年度) 所長	新岡 銘浩
次長	工藤 大
総務 G M	木村 繁博
調査第一 G M	成田 滋彦
総括主幹	中嶋 友文
文化財保護主査	新山 隆男、伊藤 由美子、佐々木 雅裕、佐藤 純子
文化財保護主事	菅原 優太
調査補助員	一戸 佐知絵(平成21年6月退職)、森山 裕行、出町 好、 山上 猛、佐藤 裕香、大田 雄、佐藤 大介、福田 南、坂本 真由美、中村 晃菜、白戸 このみ、岩佐 良子、山崎 淑恵

専門的事項に関する指導・助言

調査指導員	村越 澤 国立大学法人弘前大学名誉教授(考古学)
調査員	葛西 勲 前青森短期大学教授(考古学)
調査員	小杉 康 国立大学法人北海道大学文学部研究科教授(考古学)(平成20年度)
調査員	関根 達人 国立大学法人弘前大学人文学部准教授(考古学)
調査員	島口 天 青森県立郷土館学芸主査(地質学)

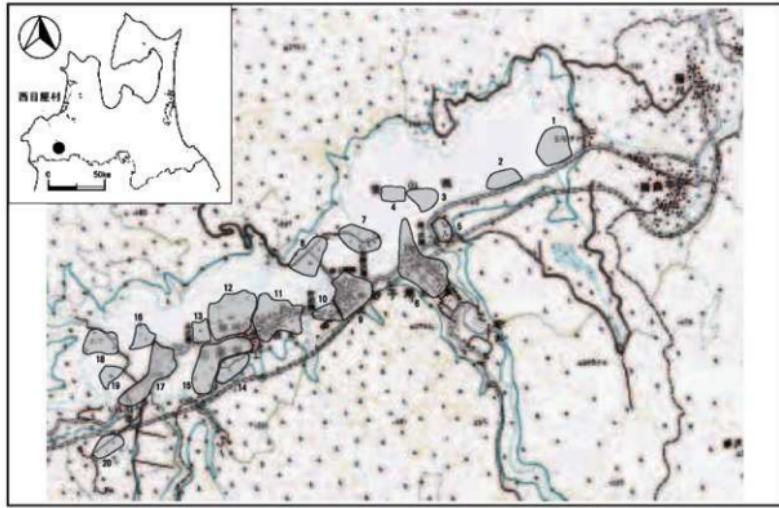


砂子瀬遺跡 E 区空撮 (平成21年度)

第3節 遺跡の位置と周辺の遺跡(図1)

西目屋村には現在29カ所の遺跡が登録(平成21年3月現在)されており、特に目屋ダムのある美山湖周辺に14カ所の遺跡が周知されており、今後確認調査が必要な区域も4カ所存在する。

平成3年に、青森県教育委員会が分布調査を実施し、砂子瀬地域では、水上遺跡、芋沢(1)・(2)遺跡、川原平地域では、大川添(1)・(2)遺跡、川原平(3)・(4)・(5)遺跡といった遺跡が新たに発見されている。平成18年度に実施された確認調査から、新たに水上(2)・(3)・(4)遺跡が青森県の遺跡台帳に登録され、従来の水上遺跡は水上(1)遺跡に名称が変更となっている。
(中嶋)



地図番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考
6	340001	利ヶ沢遺跡	西目屋村大字利ヶ沢字高崎	中世	城郭跡	
13	340002	田川遺跡	西目屋村大字田川字神田	縄文(後)、平安	散布地	
15	340003	村元遺跡	西目屋村大字村元字村元	縄文(後)、平安	散布地	
20	340004	市原遺跡	西目屋村大字市原字市原	中世	散布地	
5	340005	桶川上遺跡	西目屋村大字桶川字桶川上	縄文(後)	散布地	
6	340006	桶川下遺跡	西目屋村大字桶川字桶川下	縄文(後)	散布地	
7	340007	芦原遺跡	西目屋村大字芦原字芦原の上	縄文(後)	散布地	
10	340008	砂子瀬遺跡	西目屋村大字砂子瀬字宮元	縄文(中・後・晚)	集落跡	H 18 - 19・20調査
13	340009	川原平(1)遺跡	西目屋村大字川原平字福岡	縄文(後)	散布地	H 15調査
14	340010	川原平(2)遺跡	西目屋村大字川原平字福岡	縄文(後)	散布地	
5	340011	水ノ上遺跡	西目屋村大字水ノ上字水ノ上	縄文	散布地	
6	340012	大川添(1)遺跡	西目屋村大字大川添字大川添	中世	城郭跡	
7	340013	大川添(2)遺跡	西目屋村大字大川添字大川添	中世	城郭跡	
10	340014	砂子瀬村(1)遺跡	西目屋村大字行子字砂子瀬(目屋ダム周辺)	縄文(中)	散布地	H 18調査
11	340015	喜只遺跡	西目屋村大字喜只字喜只	縄文	散布地	
14	340016	川原平(3)遺跡	西目屋村大字川原平字福岡	縄文	散布地	
5	340017	水ノ上遺跡	西目屋村大字水ノ上字水ノ上	縄文(中・後)	集落跡	H 16 - 17・18調査
6	340018	大川添(3)遺跡	西目屋村大字大川添字大川添	縄文	散布地	
7	340019	大川添(4)遺跡	西目屋村大字大川添字大川添	縄文	散布地	H 15 - 20調査
10	340020	水ノ上遺跡	西目屋村大字水ノ上字水ノ上	縄文	散布地	
12	340021	芦原(1)遺跡	西目屋村大字芦原字芦原	縄文	散布地	
12	340022	川原平(4)遺跡	西目屋村大字川原平字福岡	縄文(中・後)	散布地	H 15調査
11	340023	川原平(5)遺跡	西目屋村大字川原平字宮元、平安	縄文	散布地	
3	340024	水ノ上遺跡	西目屋村大字水ノ上字水ノ上	縄文(後)、唐	散布地	
1	340025	水ノ上遺跡	西目屋村大字水ノ上字水ノ上	縄文(中)	集落跡	H 18 - 19調査
1	340026	西目屋村(1)遺跡	西目屋村大字ウツメ字西目屋	平安	散布地	
2	340027	西目屋村(2)遺跡	西目屋村大字ウツメ字西目屋	平安	散布地	
2	340028	水ノ上遺跡	西目屋村大字水ノ上字水ノ上	縄文(後・晚)	散布地	H 18 - 19調査
2	340029	大川添(5)遺跡	西目屋村大字砂子瀬字水ノ上	縄文(後・晚)	散布地	
2	340030	大川添(6)遺跡	西目屋村大字砂子瀬字水ノ上	縄文(後・晚)	散布地	
8	340031	未登録	西目屋村西目屋字大字砂子瀬			
8	340032	未登録	西目屋村西目屋字大字砂子瀬			
18	340033	未登録	大川添左岸			
19	340034	未登録	大川添右岸			

図1 津軽ダム周辺の遺跡

第2章

砂子瀨遺跡

第2章 砂子瀬遺跡

第1節 調査方法と整理方法

(1) 発掘作業の方法

平成19年度に青森県埋蔵文化財調査センターが実施した確認調査と、平成20年度に本調査と平行して行った確認調査で、縄文時代の遺物包含層と遺構(土坑等)が確認されたため、縄文時代の遺構調査に重点をおいて集落の時期・構造などを把握できるような調査方法を採用した。

[測量基準点・水準点の設置・グリッド設定]

平成20年度に、調査対象区域内に標準の座標を備えた実測基準点を測量業者に委託して設置し、これを基準として方位に合わせた4m×4mのグリッドを設定した。各グリッドは、南から北にアルファベット、西から東に算用数字をつけて、南北隅の組み合わせで呼称した。実測基準点となったグリッドの国土座標は、IIIK-50グリッドがX=59040.000・Y=-50000.000、III F-45グリッドがX=59020.000・Y=-50020.000、III F-50グリッドがX=59020.000・Y=-50000.000等である。測量原点には、№1-1(世界測地系でX=59447.727・Y=-49822.025)、№1-4(同X=59166.256・Y=-49781.934)を基準点として使用した。レベル原点も、既存成果の平成17年度県道西目屋・二ツ井線測量実施設計業務のBM.3(地盤高194.165m)、KBM.1(地盤高193.270m)を与点として各実測基準点に標高を設置し、必要に応じ実測基準点から移動して使用した。平成21年度の発掘調査においても、前述の実測基準点を使用した。

[基本土層]

砂子瀬遺跡では、平成18・19年度に県埋蔵文化財調査センターが行った発掘調査(平成20年度報告書刊行済み)で、調査区域C区における基本土層を把握しており、今回の調査においても準用した。

I層 10Y R 2/3 黒褐色土	10Y R 4/4 褐色土微量、礫(φ2~30mm) 少量、炭化物(φ2~5mm) 極微量含む。造成による盛土または畑作による耕作土。
II層 10Y R 3/4 暗褐色土	礫(φ1~10mm) 少量、炭化物(φ1~25mm) 微量含む。
III層 10Y R 4/6 褐色土	10Y R 4/3 にぶい黄褐色土少量、礫(φ2~25mm) 中量含む。
IV層 10Y R 5/6 黄褐色砂質土	礫(φ2~20mm) 少量、浮石多量、本層の上面で遺構を確認。
V層 10Y R 6/8 明黄褐色粘質土	礫(φ2~100mm) 少量、炭化物(φ2~10mm) 微量、角礫を多量に含む。

[表土等の調査]

平成19・20年度の確認調査により、表土から遺構確認面までは遺物が希薄であることが分かったので、重機を併用して掘削の省力化を図った。出土した遺物は、適宜地区単位でグリッド・層位毎に取り上げた。

[遺構の調査]

検出遺構には、原則として確認順に種類別の番号を付けて精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態、大きさ等に応じて、基本的には4分割又は2分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層には、算用数字を付けて、ローマ数字を付けた基本土層と区別した。遺構の平面図は、主に株式会社CUBIC製「遺構実測支援システム」

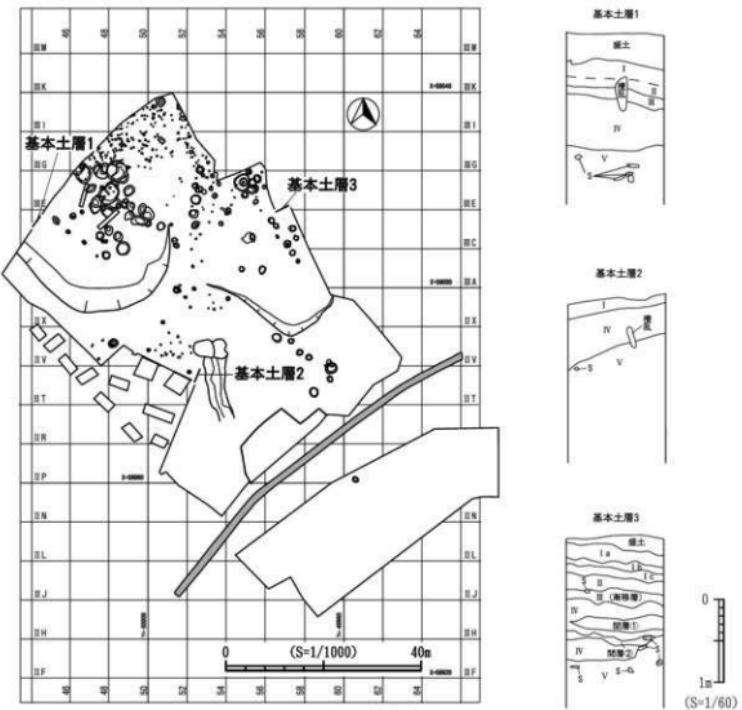


図2 基本土層

を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の堆積土層断面図、出土遺物の形状実測図などは、簡易造り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。遺構内の出土遺物については、遺構単位・遺構内地区単位で層位毎に堆積土一括で取り上げたが、床面(底面)や炉の出土遺物については、トータルステーションや簡易造り方測量により、必要に応じて縮尺1/20・1/10のドットマップ図・形状実測図等を作成した。

[写真撮影]

写真撮影には、原則として35mmモノクローム、35mmカラーリバーサルの各フィルム及び1220万画素のデジタルカメラを併用し、発掘調査状況、土層の堆積状況、遺物の出土状態、遺構の検出状況・精査状況・完掘後の全景等について記録した。また、業者に委託して、ラジコンヘリによる遺跡及び調査区域全体の空中写真撮影を行った。

(2) 整理・報告書作成作業の方法

平成20・21年度の調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡1軒、土坑100基、土器埋設遺構1基、焼土遺構1基、柱穴・小穴266基が検出され、土器・石器等の遺物が段ボール箱で27箱出土した。縄文時代の集落の時期・構造等を解明するため、竪穴住居跡をはじめとする各遺構の構築時期と集落の様相等

の検討に重点をおいて整理・報告作成作業を進めた。

[図面類の整理]

遺構の平面図は主にトータルステーションによる測量で作成したので、整理作業ではこれを原則として縮尺20分の1で図化し、簡易造り方測量で作成した堆積土層断面図との図面調整を行った。また、遺構台帳・遺構一覧表等を作成して、発掘作業時の所見等を整理した。

[写真類の整理]

35mmモノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、包含層遺物の出土状態、遺構毎の検出・精査状況等に整理してスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは35mmカラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付けた。

[遺物の洗浄・注記と接合・復元]

縄文時代の遺構出土遺物及び包含層遺物を優先的に洗浄し、接合・復元作業を早期に進めるようにした。遺物の注記は、調査年度・遺構名・出土区・遺構名・層位・取り上げ番号等を略記したが、剥片石器・金属器等、直接注記できないものは、収納したポリ袋に注記した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層等の整理を怠らないようにした。

[報告書掲載遺物の選別]

遺物全体の分類を適切に行なった上で、遺構に伴って使用・廃棄(放置)された資料、遺構の構築・廃絶時期等を示す資料、遺存状態が良く同類の中で代表的な資料、所属時代(時期)・型式・器種等の分かる資料等を主として選別した。

[遺物の観察・図化]

充分観察した上で、遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化した。また、遺構台帳・観察表・計測表等を作成した。

[遺物の写真撮影]

業者に委託して行ったが、実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

[理化学的分析]

平成20・21年度発掘調査で出土した、遺構内から出土した炭化物や種子の放射性炭素年代測定を業者に委託して行った。

[遺構・遺物のトレース・版下作成]

遺構・遺物の実測図やその他の挿図のトレースは、手作業と株式会社CUBIC製「トレースくん」を用いたデジタルトレースを併用した。実測図版の版下作成は、基本的に手作業を行い、写真図版の版下作成は、デジタルと手作業を併用した。遺構内出土遺物のうち、床面(底面)出土遺物や竪穴住居跡の炉跡出土遺物等については、原則として遺構の平面図にそのドットマップ図・形状実測図等を掲載した。

[遺構の検討・分類・整理]

各遺構毎に種類・構造的特徴・出土遺物・他の遺構との新旧関係に関するデータを整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

[遺物の検討・分類・整理]

遺物を時代・時期・種類毎に整理し、出土遺物全体の分類・器種構成・個体数等について検討した。基本土層の整理・統合に伴い、平成20年度調査時にIV層出土として注記した遺物は、本報告書ではIII層と変更した。また、発掘調査後の整理作業に伴い、発掘調査時に付した遺構やグリッド名の名称変更が生じた。本報告書記載の遺構名はすべて変更後の遺構名である。発掘調査時と報告時の遺構等名称の対応表を以下に示す。

発掘調査時名称	変更後名称(グリッド名)
第9号土坑	遺構外 (III-E-52)
第20号土坑	欠番
第21号土坑	遺構外 (IIIA-51)
第29号土坑・8号亂削木	遺構外 (III-E-45)
第50号土坑	遺構外 (III-E-47)
第62号土坑・7号亂削木	遺構外 (III-E-47)
第64号土坑	第55号土坑と同一
第66号土坑	遺構外 (III-H-46)
1号土器窯中域	第72号土坑
2号土器窯中域	遺構外 (III-F-46)
3号土器窯中域	第59号土坑
4号土器窯中域	第67号土坑
第2号竪穴住居跡内1号土坑	第90号土坑

[調査成果の検討]

遺構・遺物の検討結果を踏まえて、縄文時代の集落の時期・構造について検討・整理した。(工藤)

第2節 調査経過

(1) 発掘作業の経過

[平成20年度]

- 5月7日 試掘調査を開始した。E区の南部を中心に試掘坑を設定し、精査を行った。
- 5月中旬 試掘調査により平成20年度における本調査必要範囲を確定し、表土以下縄文時代の遺構確認面までは遺物の出土量がごく少ないと確認したため、重機を併用して効率的な掘削に努めた。
- 6月下旬 本調査区域北側において遺構検出作業を行った結果、土坑等の遺構を多数確認した。
- 7月上旬 検出した竪穴住居跡や土坑、土器埋設遺構の精査を開始した。精査の結果、縄文時代後期の遺物を包含する遺構群であることが判明した。
- 9月4日 ブラシン技術コンサルに委託して遺跡及び調査区域全体の空中写真撮影を行った。
- 10月2日 平成20年度砂子瀬遺跡E区の発掘調査を終了した。

[平成21年度]

- 5月7日～ 発掘調査を開始した。調査開始前に調査区南側の重機で掘削していた部分の遺構確認を行った。また、調査区南端部にトレーニングを設定し、重機の掘削後に遺構確認を行った。
- 5月下旬～ 調査区南側の緩斜面で遺物の出土と土坑等の遺構を確認、精査に入る。調査区南端部では重機でトレーニングを拡張し、また、調査北西部斜面に残っていた木を伐採し、重機で掘削後遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。遺構確認を行った結果、少量の遺物と土坑1基を確認し、精査した。
- 7月17日 今年度の遺構の精査がほぼ終了し、ブラシン技術コンサルに委託して、遺跡及び調査区全体の空中写真撮影を行った。

7月23日 平成21年度砂子瀬遺跡E区の発掘調査を終了した。

(2) 整理・報告書作成作業の経過

[平成20年度]

11月下旬 発掘作業で作成した図面類、また炭化物・土壌サンプル類の整理作業と遺物の洗浄
・注記作業を行った。

12月中旬 炭化材のサンプル等を整理して髪加速器分析研究所に理化学的分析を委託した。

[平成21年度]

4月上旬 遺物は洗浄・注記作業が終了した遺構・地区から、順次接合・復元作業を進めた。
併せて、遺構の検討・整理作業を開始した。また、遺構図面の修正作業も開始した。
5月上旬～ 遺物の接合・復元作業を集中的に行なった。この間に、石器・土製品・石製品類の報告書掲載遺物を選別した。

7月上旬 土器類の接合・復元作業が終了したので、報告書掲載遺物の選別作業を行なった。さら
に、遺物の検討・分類・整理作業を進め、遺物観察表等の作成を開始した。

8月上旬～ 選別した報告書掲載遺物の実測・拓本等の図化作業を進めた。併せて遺物台帳等を作成した。図化作業が終了した遺物から、順次トレースを行なった。

11月～12月 平成21年度砂子瀬遺跡E区で検出した遺構の図面修正を行なった。また、シルバーフォト、スタジオエイトに委託して報告書掲載遺物の写真撮影を行なった。また、調査成果を総合的に検討して、報告書の原稿作成を開始した。

12月中旬 平成21年度砂子瀬遺跡E区で出土した炭化材のサンプル等を整理して髪加速器分析研究所に理化学的分析を委託した。

1月上旬 原稿・版下等が揃ったので、報告書の割付・編集を行い、印刷業者を入札・選定して入稿した。

3月23日 3回の校正を経て、報告書を刊行した。最後に、記録類・出土品を整理して収納した。

(佐藤・工藤)

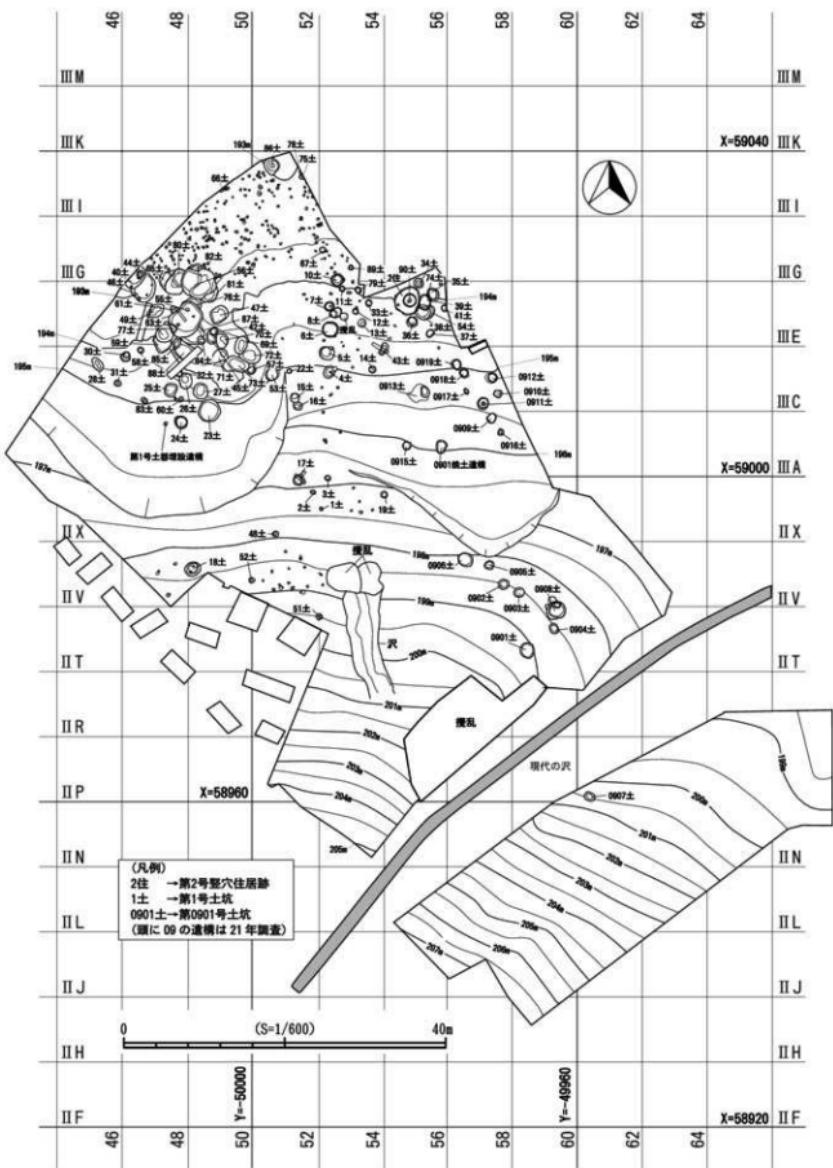


図3 遺構配置図

第3節 検出遺構と出土遺物

第1項 検出遺構(平成20年度調査分)

1 穴住居跡

第1号竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡は、第69・70・71・72・73号土坑に変更したため欠番とした。

第2号竪穴住居跡(図4・24・29)

[位置] 調査E区北東側のIII-F-54・55グリッドに位置している。

[重複] 第38・39・90号土坑・ピット280と重複し、本遺構が最も新しい。

[平面形・規模] 平面形は長軸約3m68cm、短軸約3m16cmの橢円形で、確認面からの深さは約46cmである。

[壁・床面] 残存する壁の高さは、約16~35cmで、底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦であり、硬化箇所は特に認められなかった。

[炉] 本遺構の中心部に長径約66cm、厚さ約3~5cmの円形に分布する焼土が検出された。周辺部に土器の埋設や炉壁に使用したと思われる石材は検出されないことから、地床炉と思われる。

[ピット] 壁が床面から立ち上がる箇所に、小ピットが5基、円形に周回するように検出された。深さは約7~14cm程度であり浅く、小規模なものである。

[堆積土] 暗褐色・褐色土を主体とする。下層には暗褐色土や褐色土、中層には暗褐色土と褐色土、最上層には黄褐色土が堆積し、下層の凹んだ中央部に中・上層が堆積する。遺物は特に暗褐色・黒褐色土層の2・5層、堆積土上層からの出土が多い。

[出土遺物] 堆積土から縄文土器の深鉢・壺・注口土器が出土し、炉跡の焼土層からは外面に条痕を持つ部断片が出土している。石器は石匙1点、石錐3点、叩石1点、削器11点、石核2点、敲磨器1点、二次加工や微細剥離痕を持つ剥片10点が出土している。また炭化物が堆積土から出土し、木炭

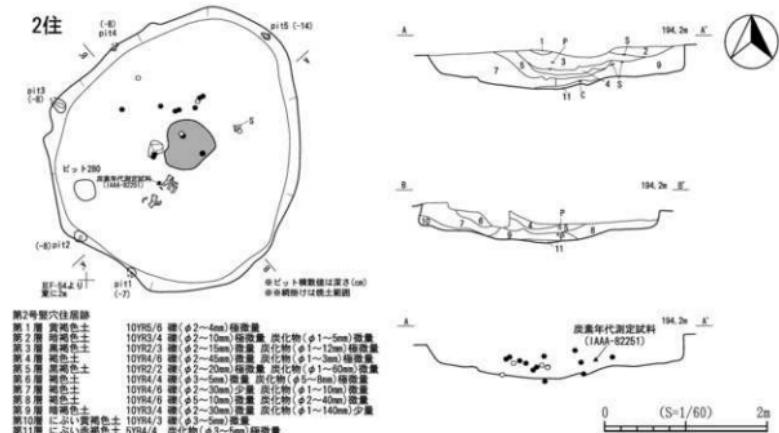


図4 第2号竪穴住居跡

の放射性炭素年代測定の結果、 2970 ± 30 yrBPの値が得られている（第2章第4節、IAAA-82251）。

[時期] 出土した土器や放射性炭素年代測定の結果から、縄文時代後期後葉に帰属すると考えられる。

(工藤)

2 土坑

第1号土坑（図5）

[位置] 調査E区のIIY・Y-52グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約50cm、短軸約45cmの円形で、深さは約13cmである。底面はなだらかである。

[堆積土] 暗褐色土を主体とし、礫を中量含む。人為堆積の可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第2号土坑（図5）

[位置] 調査E区のIIY-51グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約67cm、短軸約50cmの楕円形で、深さは約15cmである。底面は中央部が凹む形状を呈する。

[堆積土] 褐色土と暗褐色土を主体とし、礫を中量含む。人為堆積の可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第3号土坑（図5）

[位置] 調査E区のIIY・III A-52グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約75cm、短軸約70cmの円形で深さは約6cmである。底面は平坦である。

[堆積土] 暗褐色土を主体とし、角礫を少量含む。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第4号土坑（図5・24）

[位置] 調査E区のIII D-52グリッドに位置している。ピット129と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m63cm、短軸約1m34cmの楕円形で、深さは約63cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。底面の中央付近に長径約36cm、短径約27cm、深さ39cmの小ピット1基を検出した。ピット底部の断面形はU字型を呈する。

[堆積土] 炭化物を含む黒褐色土・暗褐色土を主体とする。層相から自然堆積の可能性がある。

[出土遺物] 堆積土から鉢と思われる縄文土器が出土しており、ピットの堆積土からも縄文土器鉢の破片や炭化物が出土している。

第5号土坑（図5・29）

[位置] 調査E区のIII D・E-52グリッドに位置している。ピット3と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m82cm、短軸約1m73cmの円形で、深さは約1m13cmである。断面形状は口が広いフラスコ型を呈し、底面は比較的なだらかである。

[堆積土] 最上層に黒褐色土、中層には灰黄褐色土、下層には崩落土と思われるにぶい黄褐色土が堆積する。

[出土遺物] 堆積土より叩石1点、削器1点、二次加工剥片1点、炭化物が出土している。

第6号土坑（図5・24・29）

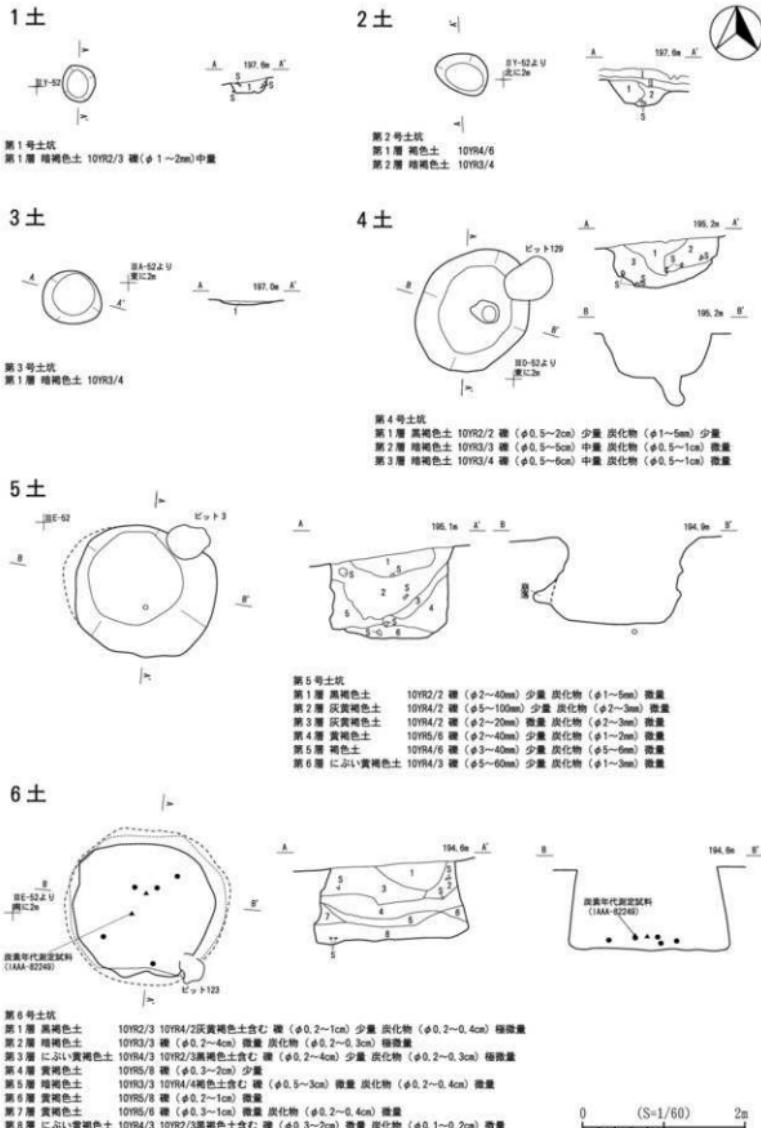


図5 土坑(1)

[位置] 調査E区のIII-E-52グリッドに位置している。第123ピットと重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m86cm、短軸約1m74cmの円形で、深さは約1m14cmである。断面形状は口が広いフラスコ型を呈し、底面は平坦である。

[堆積土] 最上層に黒褐色土、中層に崩落土と思われる黄褐色土、下層にはにぶい黄褐色土が堆積する。土器や木片、種子などの炭化物を含む暗褐色土層(5層)は、底面から約20cmの位置にレンズ状に堆積している。

[出土遺物] 繩文土器の鉢胴部破片が出土している。石器では削器2点、下層付近の5層より、木片や種子などの炭化物が出土している。木炭の放射性炭素年代測定の結果、 3060 ± 30 yrBPの値が得られている(第2章第4節、IAAA-82249)。

第7号土坑(図6・24)

[位置] 調査E区のIII-F-52グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m10cm、短軸約86cmの円形で、深さは約50cmである。断面形状はフラスコ型を呈し、底面は平坦である。底面中央部に長径約21cm、短径約17cm、深さ約7cmの小ピットを1基検出した。ピット底面は平坦である。

[堆積土] 最上層が崩落土の可能性がある黄褐色土、下層およびピットには、炭化物を微量含む黒褐色土が堆積している。自然堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 堆積土上層より、縩文土器の鉢口縁部が出土している。

第8号土坑(図6・24・29)

[位置] 調査E区のIII-E・III-F-52グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m42cm、短軸約1m15cmの楕円形で、深さは約36cmである。底面の一部が落ち込む箇所が認められ、別遺構の存在の可能性もあるが判断できなかった。

[堆積土] 締まりがない暗褐色土を主体としており、人為堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 堆積土下層より、縩文土器の鉢と思われる胴部破片が出土した。石器は石錐1点、削器2点が出土した。

第9号土坑・・・欠番

第10号土坑(図6・24・29)

[位置] 調査E区のIII-F・III-G-52グリッドに位置している。ピット2と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m56cm、短軸約1m33cmの不整円形で、深さは約71cmである。断面形状はフラスコ型を呈し、底面は平坦である。

[堆積土] 最上層は暗褐色土、下層は褐色土を主体とし、炭化物を含む。2層は崩落土と思われる。

[出土遺物] 堆積土より縩文土器深鉢や注口土器が出土し、石器はくさび型石器1点、微細剥離痕を持つ剥片1点、下層から炭化種子3点、炭化物が出土している。

第11号土坑(図6)

[位置] 調査E区のIII-F-52グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約75cm、短軸約69cmの円形で深さは約18cmである。底面には凹凸が著しい。

[堆積土] 明褐色土とにぶい黄褐色土を主体とする。

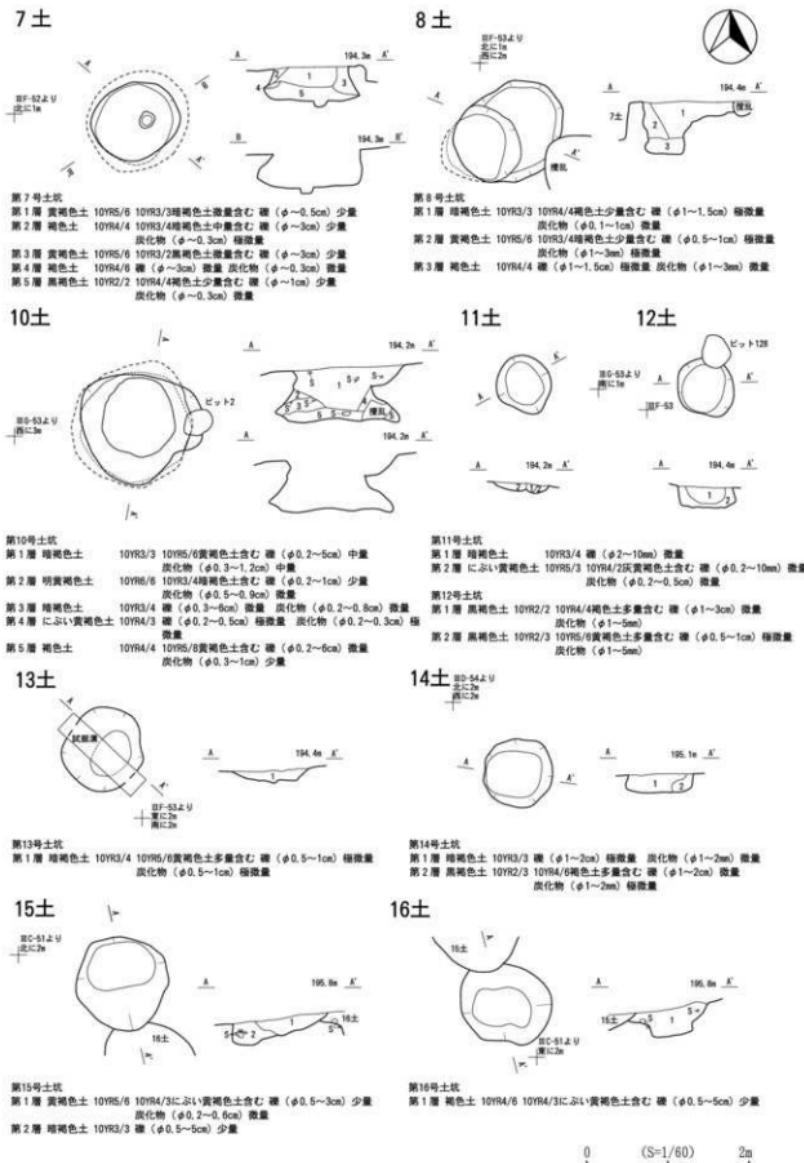


図6 土坑(2)

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第12号土坑(図6)

[位置] 調査E区のIII-E・III-F-53グリッドに位置している。ピット128と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約89cm、短軸約75cmの円形で、深さは約36cmである。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体とし、炭化物が含まれる。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第13号土坑(図6)

[位置] 調査E区のIII-E-53グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m24cm、短軸約1m9cmの円形で、深さは約25cmである。底面は中央部が凹む形状で、全体に凸凹がある。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第14号土坑(図6・29)

[位置] 調査E区のIII-D-53グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約93cm、短軸約86cmの円形で、深さは約30cmである。底面は平坦である。

[堆積土] 暗褐色土と黒褐色土を主体とし、炭化物が含まれる。

[出土遺物] 石器では削器1点が出土している。

第15号土坑(図6)

[位置] 調査E区のIII-C-51グリッドに位置している。第16号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m21cm、短軸約1m17cmの円形で、深さは約44cmである。底面は北側が深く、壁の立ち上がりは北側が急で南側が緩やかである。

[堆積土] 締まりがない黄褐色土と暗褐色土を主体とする。人為堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第16号土坑(図6)

[位置] 調査E区のIII-C-51グリッドに位置している。第15号土坑と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m17cm、短軸約1m3cmの円形で、深さは約56cmである。底面は中央部が凹んでいる。

[堆積土] 褐色土を主体とする。角礫が堆積土下層に多く堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第17号土坑(図7・24)

[位置] 調査E区のII-Y・III-A-51グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m13cm、短軸約1m4cmの円形で、深さは約77cmである。断面形はフラスコ状を呈し、底面は平坦である。

[堆積土] 最上層は黒褐色土、中層は暗褐色土を主体とし、最下層は暗褐色土や褐色土を主体とする。3層と4層は黄褐色土と褐色土であり、崩落土と思われる。

[出土遺物] 1層より縄文土器深鉢が出土している。

第18号土坑(図7)

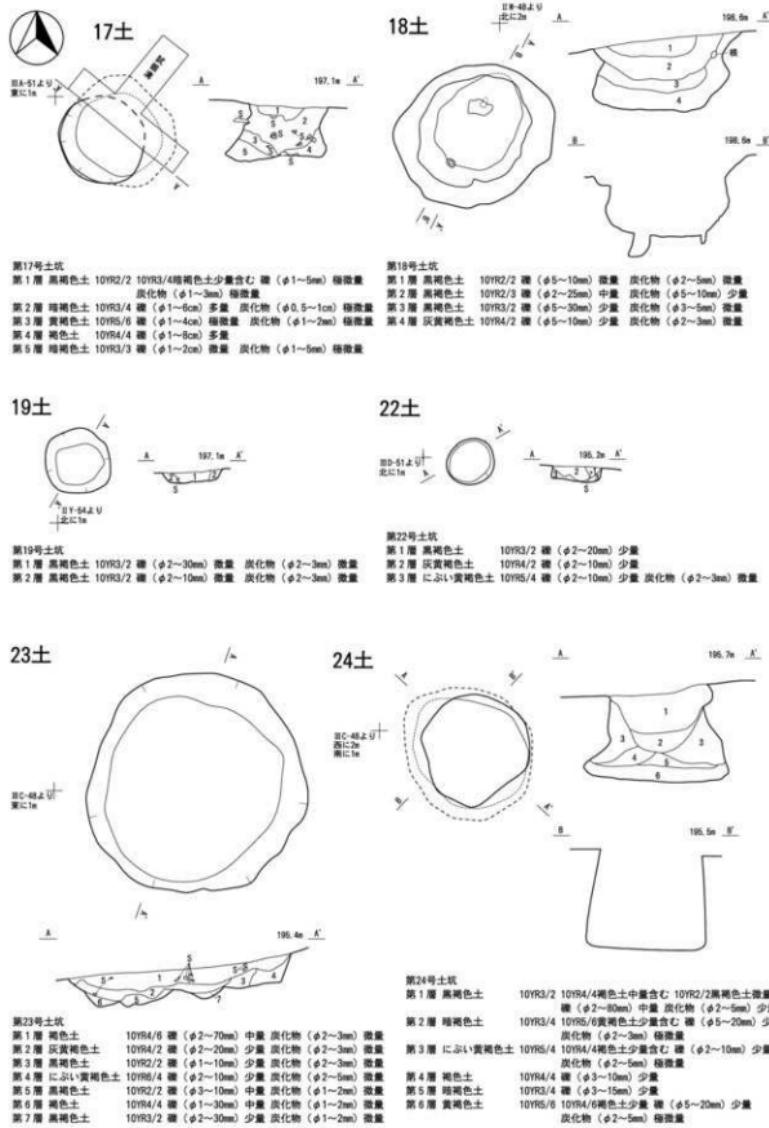


図7 土坑(3)

[位置] 調査 E 区の IIW-48、IIW-47・48 に位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約 2 m 1 cm、短軸約 1 m 65 cm の楕円形で、深さは約 99 cm である。底面はほぼ平坦であり、底面南端と中央部のやや北よりに、小ピットを 2 基検出した。規模はそれぞれ長径約 12 cm、短径約 8 cm、深さ 9 cm、長径約 30 cm、短径 18 cm、深さ 33 cm を測り、ピット底面の断面形状は前者が U 字型、後者が V 字型を呈する。後者の規模が比較的大きい。また、開口部付近では、周回するテラス状の段を検出した。

[堆積土] 黒褐色土を主体とし、特に最上層は黒色が強い。自然堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第19号土坑(図 7)

[位置] 調査 E 区の IY-53・54 グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約 83 cm、短軸約 80 cm の円形で、深さは約 19 cm である。底面は平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体とする。本遺構の堆積土と基本土層第Ⅲ層の層理面が明確であり、埋没してからの時間は比較的短いと思われる。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第20・21号土坑・・・欠番

第22号土坑(図 7)

[位置] 調査 E 区の III D-51 グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約 60 cm、短軸約 55 cm の円形で、深さは約 25 cm である。底面は中央部が凹む形状である。

[堆積土] 締まりがない黒褐色土や灰黄褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第23号土坑(図 7)

[位置] 調査 E 区の III B・III C-48・49 グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約 2 m 79 cm、短軸約 2 m 66 cm の円形で、深さは約 84 cm である。底面は平坦である。

[堆積土] 1 層が褐色土、2 層が灰黄褐色土、下層は黒褐色土を主体とする。1 層は、基本土層第Ⅳ 層の崩落土の可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第24号土坑(図 7・24・29)

[位置] 調査 E 区の III B-47・48 グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約 1 m 39 cm、短軸約 1 m 35 cm の円形で、深さは約 1 m 37 cm である。断面形状はフラスコ型を呈し、底面は平坦である。

[堆積土] 上層は黒褐色土や暗褐色土が堆積し、第Ⅳ 層の崩落土の可能性がある 3 層はにぶい黄褐色土、5 層は暗褐色土を主体とする。自然堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 堆積土中層より縄文土器の鉢破片が出土している。石器は削器 1 点が出土している。

第25号土坑(図 8・24)

[位置] 調査 E 区の III C-47 グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m78cm、短軸約1m61cmの円形で、深さは約42cmである。底面には凹凸があるが、ほぼ平坦である。

[堆積土] 黄褐色土を主体とする。

[出土遺物] 堆積土より繩文土器深鉢が出土している。

第26号土坑(図8)

[位置] 調査E区のIII-C-D-47・48グリッドに位置している。第32号土坑と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m93cm、短軸約1m52cmの楕円形で、深さは約57cmである。底面はなだらかで北側へ傾斜している。

[堆積土] 炭化物を含む黒色土・黒褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第27号土坑(図8)

[位置] 調査E区のIII-C-48グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約2m1cm、短軸約1m78cmの楕円形で、深さは約75cmである。底面には凹凸がある。

[堆積土] 最上層には黒褐色土が堆積し、中・下層には褐色土・暗褐色土が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第28号土坑(図8)

[位置] 調査E区のIII-D-45グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m88cm、短軸約1m12cmの楕円形で、深さは約30cmである。底面には凹凸が著しい。

[堆積土] 黄褐色土・褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第29号土坑・・・欠番

第30号土坑(図8)

[位置] 調査E区のIII-D-45・46グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m30cm、短軸約1m23cmの不整円形で、底面の北東側が一段低くなっている、最深部の深さは約58cmである。底面は平坦である。

[堆積土] 炭化材小塊を含む黒褐色土・暗褐色土を主体とし、自然堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第31号土坑(図8)

[位置] 調査E区のIII-C-45グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約91cm、短軸約80cmの円形で深さは約29cmである。底面は凹凸が著しい。

[堆積土] 最上層は黒褐色土、中・下層はにぶい黄褐色土層を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第32号土坑(図8)

[位置] 調査E区のIII-D-47グリッドに位置している。一部試掘溝に壊されている。第26号土坑と重複し、本遺構が新しい。

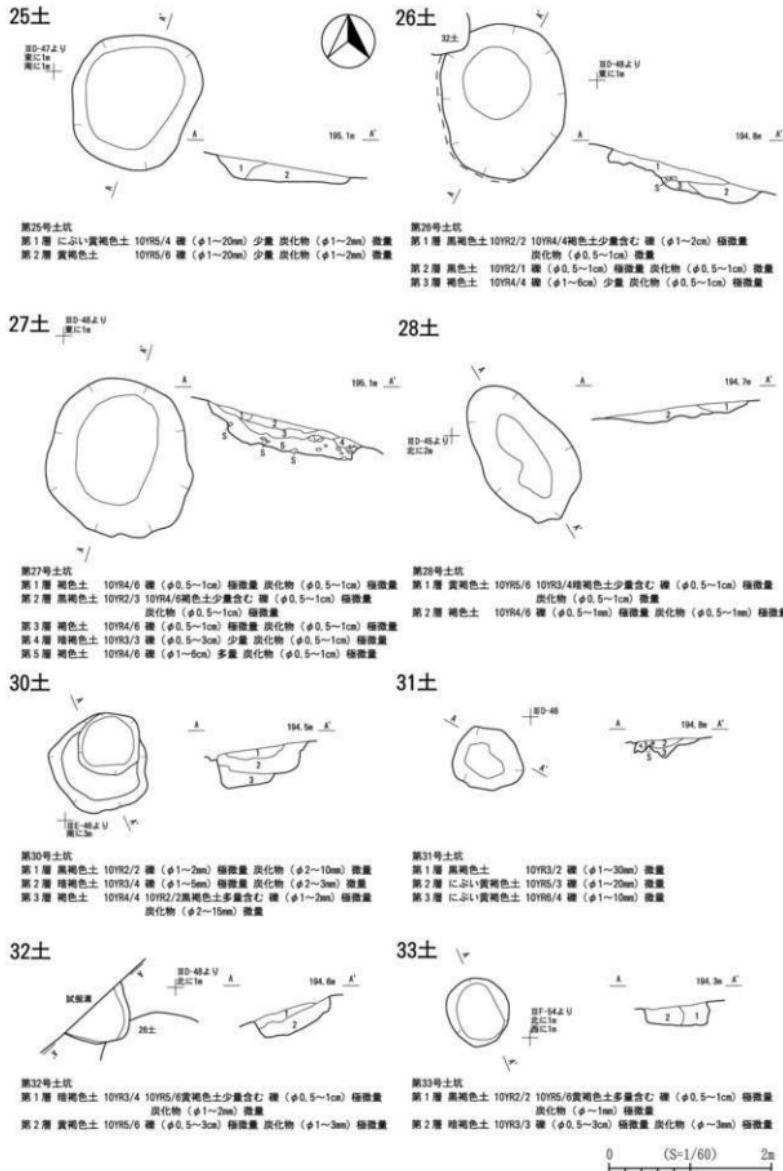


図 8 土坑 (4)

[形態・規模] 北西側を試掘坑に破壊されているため全体形状は不明であるが、平面形は橢円形と思われ、確認した長軸は約95cm、同短軸約57cm、深さは約45cmを測る。底面はほぼ平坦であり、壁はゆるやかに立ち上がる。

[堆積土] 上層は暗褐色土、下層は黄褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第33号土坑(図8・30)

[位置] 調査E区のIII F-53グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約93cm、短軸約74cmの円形で、深さは約37cmである。底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 黒褐色土・暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 堆積土から縄文土器破片と削器1点、二次加工剥片1点が出土している。

第34号土坑(図9)

[位置] 調査E区のIII F-G-54・55グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m26cm、短軸約1m14cmの円形で、深さは約56cmである。壁は底から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 上・中層は暗褐色土、下層は褐色土を主体とする。自然堆積により埋没したと思われる。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第35号土坑(図9・25・30)

[位置] 調査E区のIII F-55グリッドに位置している。第74号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m34cm、短軸約97cmの橢円形で、深さは約80cmである。断面形状はフラスコ型を呈し、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 上層から中層までは褐色土が堆積し、下層は炭化物(炭化種子)を含む黒褐色土が主体である。人為堆積により埋没したと思われる。

[出土遺物] 堆積土からは縄文土器注口土器・深鉢・壺破片が出土した。図25-5の深鉢は1層から横倒しの状態で出土した。石器は削器6点、石核1点、くさび型石器1点、石錐2点、石匙3点、微細剥離痕や二次加工痕を持つ剥片が14点、その他剥片2点が出土している。石核は剥片接合資料である。炭化物は中層から下層の出土が多い。木炭の放射性炭素年代測定の結果、 3050 ± 40 yrBPの値が得られている(第2章第4節、IAAA-82250)。

第36号土坑(図9)

[位置] 調査E区のIII E-54・55グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m17cm、短軸約87cmの橢円形で、深さは約82cmである。断面形状はフラスコ型を呈し、底面は平坦である。

[堆積土] 最上層は暗褐色土を主体とし、中層は崩落土、底面には褐色土が堆積する。自然堆積による埋没の後に人為的に埋められた可能性がある。

[出土遺物] 底面から、炭化板材が出土している。

第37号土坑(図9)

[位置] 調査E区のIII E-55グリッドに位置している。

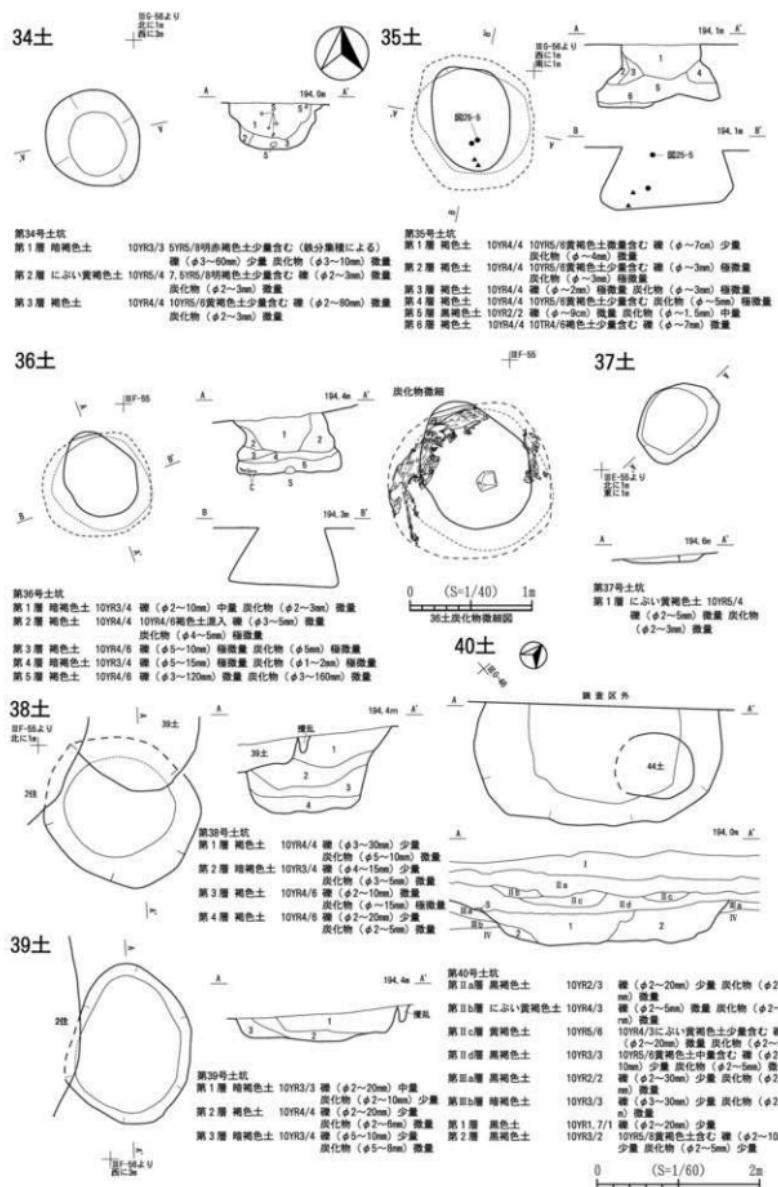


図9 土坑(5)

[形態・規模] 平面形は長軸約1m9cm、短軸約82cmの楕円形で、深さは約15cmである。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] にぶい黄褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第38号土坑(図9・24)

[位置] 調査E区のIII-E・F-55グリッドに位置している。第2号竪穴住居跡、第39・54号土坑と重複し、第2号竪穴住居跡・第39号土坑より古く、第54号土坑より新しい。

[形態・規模] 平面形は長軸約2m、短軸約1m73cmの円形で、深さは約1m5cmである。壁は底から急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土を主体とする。

[出土遺物] 堆積土から、縄文土器の鉢と思われる破片、下層から炭化物が出土している。

第39号土坑(図9・24)

[位置] 調査E区のIII-F-55グリッドに位置している。第2号竪穴住居跡、第38・54・74号土坑と重複し、第2号竪穴住居跡より古く、第38・54・74号土坑より新しい。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m98cm、短軸約1m58cmの楕円形で、深さは約42cmである。壁は底から急に立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 砕を少～中量含む暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 堆積土から縄文土器の深鉢破片が出土している。石器は二次加工の痕跡を持つ剥片1点、上層から炭化物が出土している。

第40号土坑(図9)

[位置] 基本土層第II層に覆われ、第III層を掘り込み構築されている。調査E区のIII-F・G-46グリッドに位置し、第44・46号土坑と重複し、第44号土坑より古く、第46号土坑より新しい。

[形態・規模] 一部が調査区外に存在するため全体形状は不明であるが、平面形は楕円形もしくは隅丸方形を呈するものと思われ、長軸約3m6cm、短軸は確認した部分で約1m4cm、深さは約54cmを測る。壁は底から急に立ち上がり、底面には凹凸があるが、ほぼ平坦である。また、底面からは2基の小ビットを検出した。本遺構の南西側に位置する第46号土坑に伴う可能性が高い。

[堆積土] 基本土層第II層が起源と思われる黒色・黒褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第41号土坑(図10・24)

[位置] 調査E区のIII-F-55グリッドに位置している。

[形態・規模] 南東部の一部が攪乱により壊されている。平面形は長軸約81cm、短軸約64cmの円形で、深さは約25cmである。壁は底から急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体とする。自然堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 堆積土から縄文土器の深鉢の破片が出土している。

第42号土坑(図10)

[位置] 調査E区のIII-E-48グリッドに位置している。第45号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 平面形は長軸約98cm、短軸約94cmの円形で、深さは約42cmである。壁は底面から急に

立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] にぶい黄褐色土を主体とし、直径3~4cm程度の礫をやや多く含む。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第43号土坑(図10)

[位置] 調査E区のIII-D・E-53・54グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m59cm、短軸約87cmの楕円形で、深さは約40cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面には凹凸が著しい。

[堆積土] 黒褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第44号土坑(図10)

[位置] 調査E区のIII-G-46グリッドに位置している。第40・46号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 精査時の錯誤により本遺構の南西部を破壊したため全体形状は不明だが、平面形は円形を呈する可能性が高い。規模は確認した長軸は約1m82cm、短軸約1m16cm、深さは約33cmを測り、壁は底面から緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 上層は黒褐色土、下層は褐色~暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第45号土坑(図10)

[位置] 調査E区のIII-E-48グリッドに位置している。第42号土坑と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m82cm、短軸約1m16cmの楕円形で、深さは約33cmである。壁は底面から急に立ち上がる。

[堆積土] 上層は褐色土、下層は暗褐色土を主体とし、全体に直径約5~6cm程度の角礫を含む。自然堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第46号土坑(図10・24)

[位置] 調査E区のIII-F・G-46グリッドに位置している。第40号土坑と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 全体形状は北西部が第40号土坑に壊されているため不明であるが、平面形は楕円形を呈する可能性が高い。規模は長軸約3m97cm、確認できた短軸は約3m3cm、深さは約45cmを測り、壁は底から急に立ち上がり、底面には凹凸がある。また底面からは、4基の小ピットを検出した。これらのピットは底面の立ち上がり部分に円形に位置し、隣接する第40号土坑の底面より検出されたピット2基に連続しており、検出状況や堆積土が類似しているため、本遺構に伴うものと判断した。

[堆積土] 暗褐色土と黄褐色土を主体とし、全体に基本土層第IV層起源の粘質土塊が多量に含まれる。

[出土遺物] 堆積土中層から縄文土器の深鉢と思われる破片が出土している。

[小結] 今回の報告では土坑として報告したが、豈穴住居跡の可能性も否定できない。

第47号土坑(図10)

[位置] 調査E区のIII-E・F-48・49グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約2m52cm、短軸約1m94cmの楕円形で、深さは約59cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面には凹凸がある。

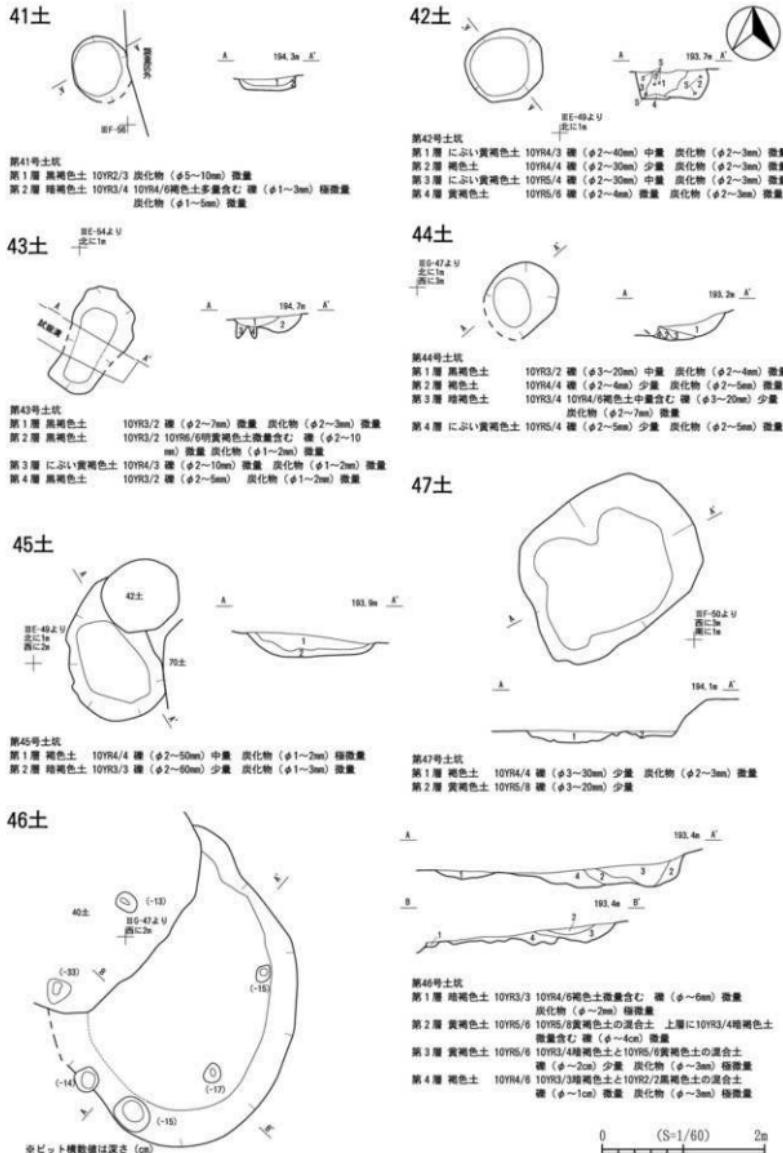


図10 土坑(6)

[堆積土] 褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第48号土坑(図11・30)

[位置] 調査E区のII X-50グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約75cm、短軸約61cmの円形で、深さは約37cmである。壁は底面から急に立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。

[堆積土] 締まりがない黄褐色土の小塊を微～中量含む暗褐色土を主体とする。人為堆積により埋没した可能性がある。

[出土遺物] 削器が1点出土している。

第49号土坑(図11)

[位置] 調査E区のIII E・F-46・47グリッドに位置している。

[形態・規模] 西部の一部を試掘溝に破壊されている。平面形は長軸約2m43cm、短軸約1m52cmの楕円形で、深さは約43cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 上層は褐色土や暗褐色土、下層はにぶい黄褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第50号土坑・・・欠番

第51号土坑(図11)

[位置] 調査E区のII U-51・52グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約80cm、短軸約66cmの円形で、深さは約30cmである。壁の立ち上がりは急であり、底面は中央部が凹み、柱穴状を呈する。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第52号土坑(図11)

[位置] 調査E区のII V-49・50グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約76cm、短軸約64cmの不整円形で、深さは約26cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面には凹凸がある。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第53号土坑(図11)

[位置] 調査E区のIII C・D-50グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m59cm、短軸約1m36cmの円形で、深さは約1mである。断面形状はフ拉斯コ型を呈し、底面は平坦である。

[堆積土] 上層は直径7cm程度の角礫を少量含む黒褐色土、中～下層は褐色土を主体とする。層相から中～下層は第IV層の崩落土の可能性がある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第54号土坑(図11)

[位置] 調査E区のIII E・F-55グリッドに位置している。第38・39号土坑と重複し、本遺構が最も古

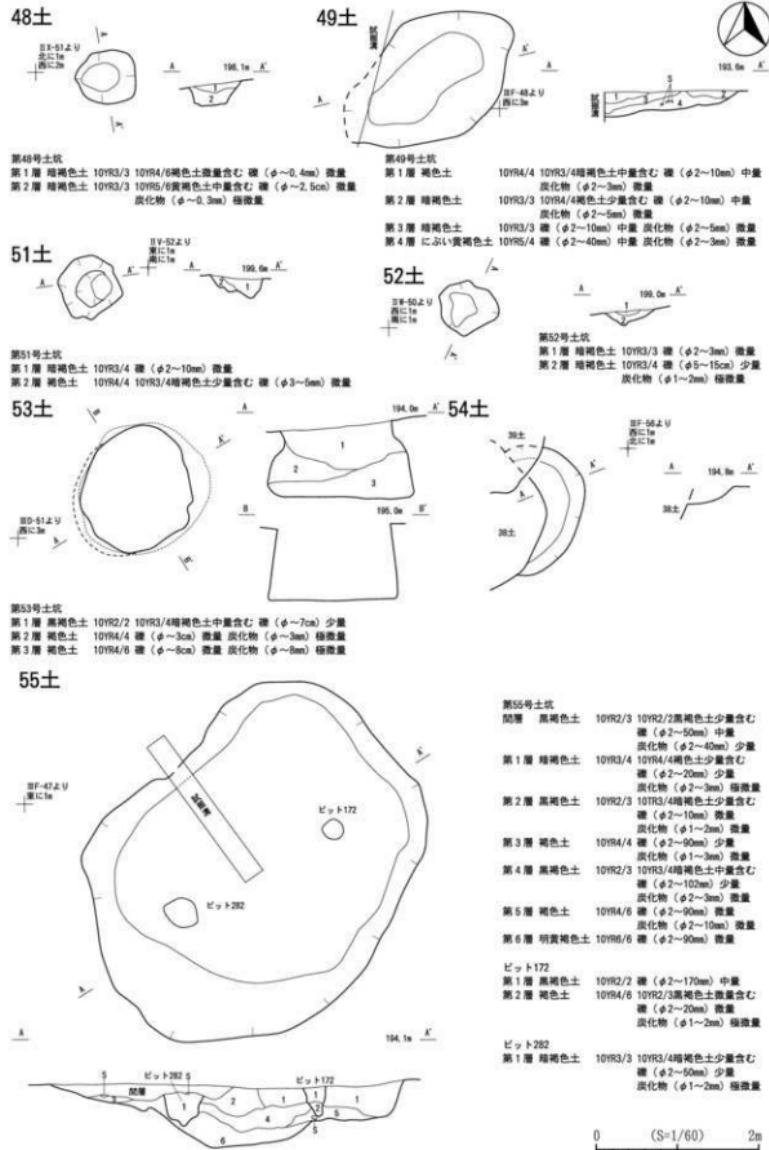


図11 土坑(7)

い。調査当初は第38号土坑を同一の遺構としていたが、精査の結果、別遺構と判断した。

【形態・規模】本遺構の西部を第38・39号土坑に壊されているため全体形状は不明であるが、平面形は円形である可能性が高い。規模は長軸約1m69cm、短軸約91cm、深さは約47cmを測り、壁は底面から急に立ち上がる。底面はなだらかである。

【堆積土】褐色土を主体とする。土層断面図は作成しなかった。

【出土遺物】遺物は出土していない。

第55号土坑(図11・25・30)

【位置】調査E区のIII-E・F-47・48グリッドに位置している。第61・63・76・77・87号土坑、ピット172・281・282と重複し、本遺構がピット172・282よりも古く、第61・63・76・77・87号土坑、ピット281よりも新しい。当初第77号土坑と同一遺構としていたが、整理段階で別遺構と判断した。

【形態・規模】平面形は長軸約4m71cm、短軸約3m75cmの楕円形で、深さは約47cmである。壁は底面から一部で急に立ち上がり、底面には凹凸が著しい。

【堆積土】上層から中層は黒褐色土や暗褐色土を主体とし、下層は褐色土や明黄褐色土を主体とする。全体に炭化物が混入している。

【出土遺物】堆積土全体から縄文土器が出土しており、1層からは鉢・注口土器、下層・3層からは壺、底面から鉢が出土している。石器は石箇1点、微細剥離痕を持つ剥片1点が出土している。

第56号土坑(図12・24・30)

【位置】調査E区のIII-F・G-47・48グリッドに位置している。第76・80・81・82号土坑、ピット70・174と重複し、第76・80・81・82号土坑より新しくピット70・174より古い。当初第65・80・81・82号土坑と同一遺構としていたが、精査の結果別遺構と判断した。

【形態・規模】平面形は長軸約4m40cm、短軸約3m78cmの楕円形で、深さは約98cmである。壁は西側では緩やかに立ち上がり、東側では急である。底面には凹凸がある。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。

【出土遺物】堆積土から縄文土器が出土し、下層から壺破片が出土している。石器は石錐が1点出土している。

第57号土坑(図12)

【位置】調査E区のIII-D-49・50グリッドに位置している。第72・73号土坑と重複しているが、検出段階の誤認のため新旧関係は判断できなかった。

【形態・規模】平面形は長軸約94cm、短軸約83cmの円形で、深さは約1m37cmである。断面形状はプラスコ型を呈し、底面は平坦である。

【堆積土】基本土層第IV層に類似する黄褐色土や明黄褐色土を主体とする。

【出土遺物】遺物は出土していない。

第58号土坑(図12)

【位置】調査E区のIII-D-46グリッドに位置している。

【形態・規模】平面形は長軸約81cm、短軸約71cmの円形で、深さは約29cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。

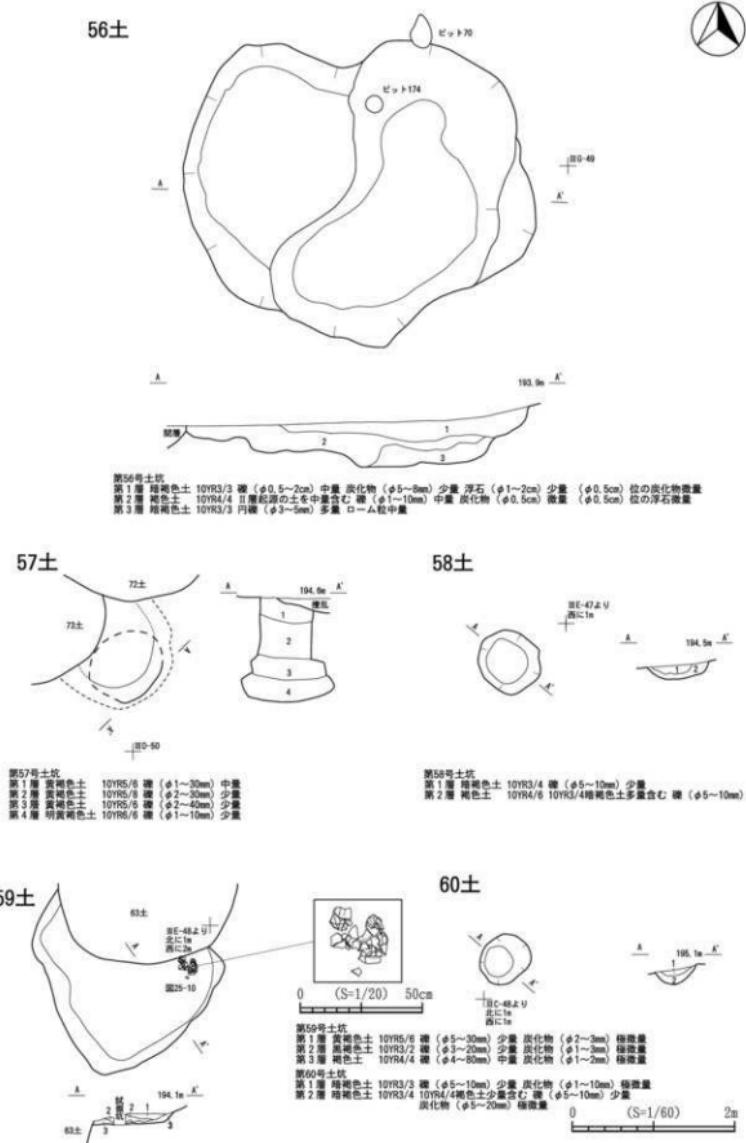


図12 土坑(8)

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第59号土坑(図12・25)

[位置] 調査E区のIII D-47・III E-46・47グリッドに位置している。第63号土坑と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 北側を第63号土坑に破壊されており、全体形状は不明であるが、平面形は橢円形を呈するものと思われる。規模は、確認できた長軸は約2m46cm、短軸約2m8cm、深さは約63cmを測る。壁は底面から急に立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 黄褐色土と褐色土が板状に堆積しており、褐色土を主体とする。

[出土遺物] 堆積土1層から、縄文土器の壺・鉢が倒立状態で出土している。

第60号土坑(図12)

[位置] 調査E区のIII C-47グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約64cm、短軸約55cmの円形で、深さは約30cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第61号土坑(図13)

[位置] 調査E区のIII F-47グリッドに位置している。第55号土坑と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 南東部を第55号土坑に破壊されるため全体形状は不明であるが、平面形は橢円形であると思われる。規模は確認できた長軸は約1m10cm、短軸約71cm、深さは約66cmを測る。壁は底から緩やかに立ち上がり、底面には凹凸がある。

[堆積土] 褐色土と暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第62号土坑・・・欠番

第63号土坑(図13)

[位置] 調査E区のIII E-47グリッドに位置している。第55・59・77号土坑と重複し、本遺構が第55号土坑より古く、第59・77号土坑より新しい。

[形態・規模] 平面形は長軸約2m29cm、短軸約2m17cmの円形で、深さは約79cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかでやや凹凸がある。

[堆積土] 暗褐色土と褐色土が互層を呈する。褐色土には直径約2~8cm程度の角礫が混入する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第64号土坑・・・第55号土坑に統合したため欠番

第65号土坑(図13)

[位置] 調査E区のIII F・G-47グリッドに位置している。第80号土坑と重複し、本遺構が古い。当初第56・80・81・82土坑と同一遺構としていたが、精査の結果、別遺構と判断した。

[形態・規模] 東側が第80号土坑に破壊されているため全体形状が不明であるが、平面形は橢円形と思われる。長軸約2m70cm、残存短軸約1m41cm、深さは約53cmを測る。壁面は底から急に立ち上がり、底面には凹凸がある。

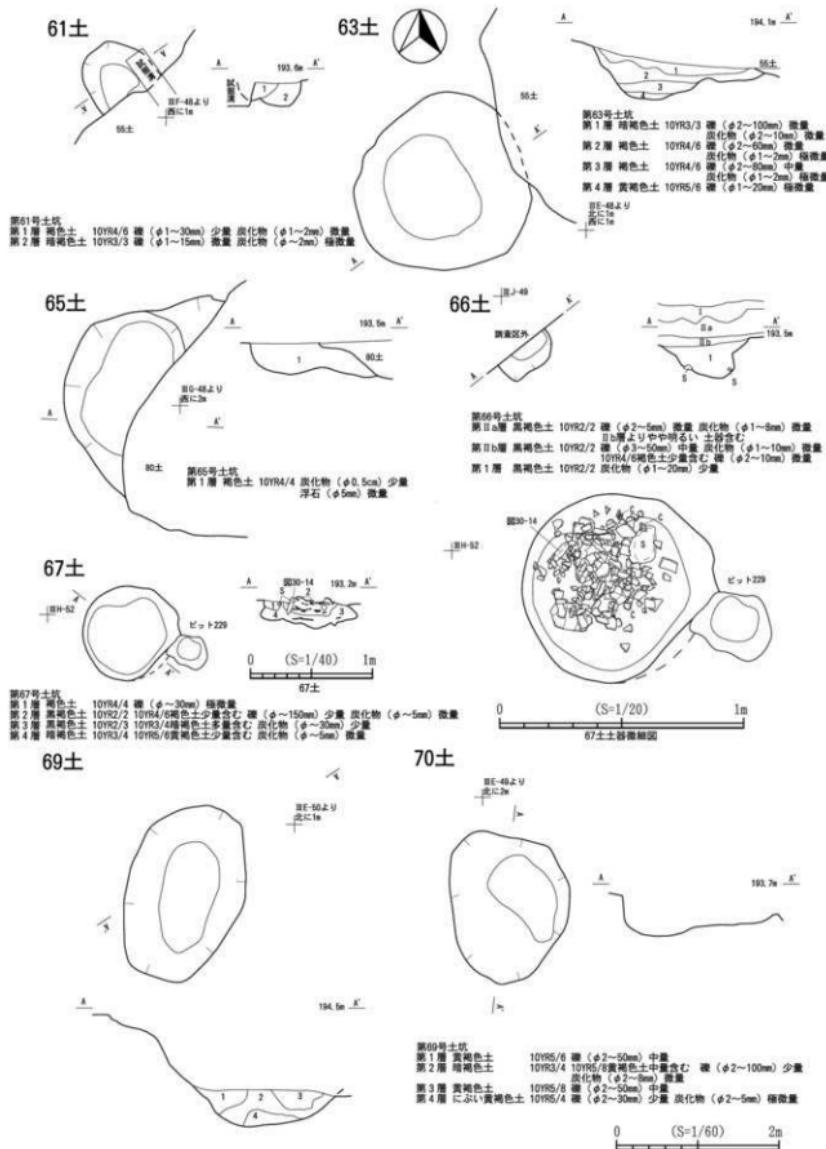


図13 土坑(9)

[堆積土] 褐色土を主体とする。

[出土遺物] 堆積土より炭化物が出土している。

第66号土坑(図13)

[位置] 調査E区のIII-49グリッドに位置している。

[形態・規模] 北西側の一部が調査区外に存在するため全体形状が不明であるが、平面形は橢円形と思われる。長軸約74cm、確認できた短軸は約34cm、深さは約28cmを測る。壁面は底から急に立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 基本土層II層に覆われる。黒褐色土を主体とし、褐色土と炭化物を少量含む。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第67号土坑(図13・25・26・30)

[位置] 調査E区のIII G・III H-52グリッドに位置している。ピット229と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 平面形は長軸約80cm、短軸約75cmの円形で、深さは約18cmである。壁は底面から急に立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 黒褐色土と暗褐色土を主体とし、全層で土器を多量に含んでいる。

[出土遺物] 土器は堆積土や下層から鉢・深鉢・注口土器が出土している。石器では叩石1点、微細剥離痕を持つ剥片1点が出土している。また1層から、炭化物が出土している。

第68号土坑・・・欠番

第69号土坑(図13・26)

[位置] 調査E区のIII D・E-49グリッドに位置している。第72号土坑と重複し、検出時の錯誤のため新旧は不明である。

[形態・規模] 平面形は長軸約2m21cm、短軸約1m45cmの橢円形で、深さは約45cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 暗褐色土と黄褐色土を主体とする。黄褐色土は崩落土の可能性がある。

[出土遺物] 堆積土から繩文土器の深鉢が出土している。

第70号土坑(図13)

[位置] 調査E区のIII D・E-48・49グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m90cm、短軸約1m43cmの橢円形で、深さは約49cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は北側が深く、なだらかである。

[堆積土] 褐色土が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第71号土坑(図14)

[位置] 調査E区のIII D-48・49グリッドに位置している。第73号土坑と重複するが、新旧関係は判断できなかった。

[形態・規模] 平面形は長軸約2m22cm、短軸約1m47cmの橢円形で、深さは約49cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかでほぼ平坦である。

[堆積土] 上層に暗褐色土を少量含むにぶい黄褐色土、下層に明黄褐色土が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

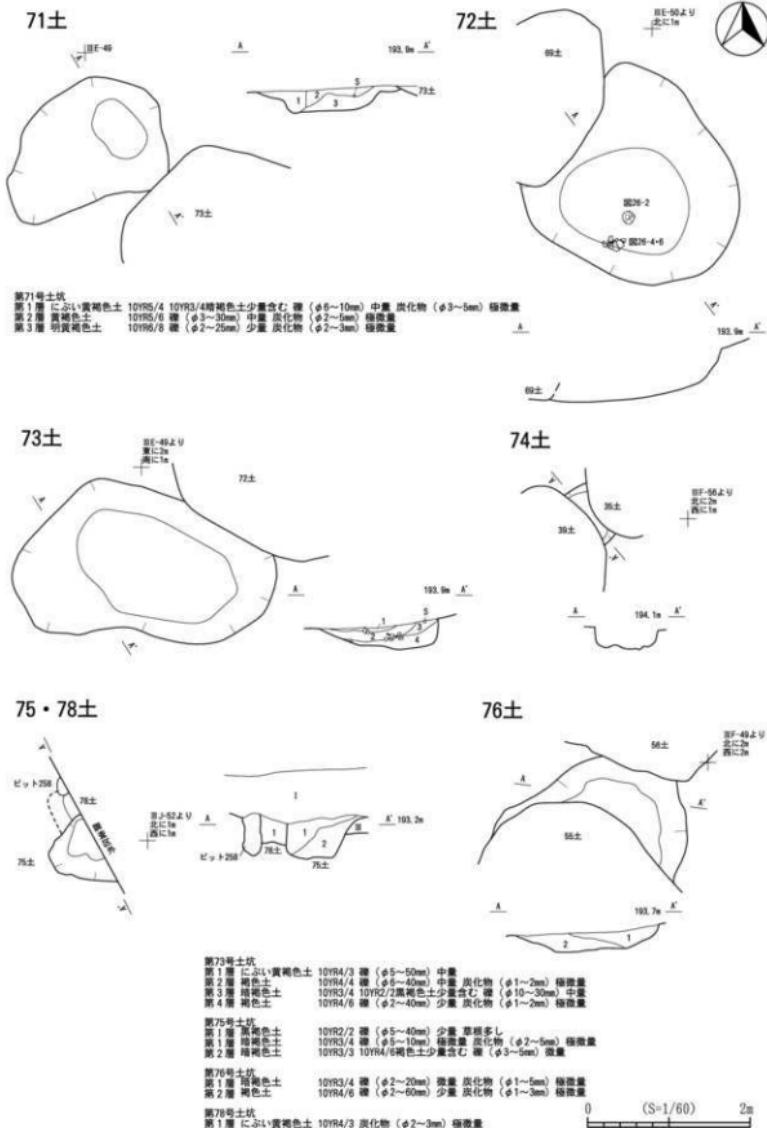


図14 土坑(10)

第72号土坑(図14・26)

[位置] 調査E区のIII-D-E-49・50グリッドに位置している。第57・69・73号土坑と重複し、第73号土坑よりも新しい。第57・69号土坑との新旧関係は判断できなかった。

[形態・規模] 平面形は長軸約2m75cm、短軸約2m67cmの楕円形で、深さは約1m31cmである。本遺構の東壁の状況から、断面形状はフ拉斯コ型を呈すると思われる。壁は底面から急に立ち上がり、底面はほぼ平坦でなだらかである。

[堆積土] 暗褐色土を主体とし、下層には黄褐色土が堆積している。土層断面図は作成しなかった。

[出土遺物] 暗褐色土から繩文土器の浅鉢、鉢が出土し、浅鉢は伏せた状態で出土している。

第73号土坑(図14)

[位置] 調査E区のIII-D-49グリッドに位置している。第57・71・72号土坑と重複し、第72号土坑よりも本遺構が古い。第57・71号土坑との新旧関係は判断できなかった。

[形態・規模] 平面形は長軸約3m25cm、短軸約1m90cmの楕円形で、深さは約26cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 暗褐色土と褐色土が互層を呈し、全体に角礫を含む。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第74号土坑(図14)

[位置] 調査E区のIII-F-55グリッドに位置している。第35・39号土坑と重複し、本遺構が最も古い。

[形態・規模] 北東側が第35号土坑、南西側が第39号土坑に破壊されているため全体形状は不明であるが、平面形は円形と思われる。長軸約77cm、確認できた短軸は約30cm、深さは約26cmを測る。

[堆積土] Hue10Y R3/4暗褐色土を主体とし、直径1~2mmの炭化物を少量含む。土層断面図は作成しなかった。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第75号土坑(図14)

[位置] 調査E区のIII-J-51グリッドに位置している。基本土層第III層を掘り込み構築される。第78号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 東部が調査区外に延びるため全体形状は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。確認した長軸は約95cm、同短軸約30cm、深さは約52cmを測る。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第76号土坑(図14・26)

[位置] 調査E区のIII-F-47・48グリッドに位置している。第55・56号土坑と重複し、本遺構が最も古い。

[形態・規模] 北東部が第56号土坑、南西部が第55号土坑に壊されているため全体形状が不明であるが、平面形は円形と思われる。残存部の長軸は約1m75cm、同短軸約1m45cm、深さは約39cmを測る。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面には凹凸がある。

[堆積土] 褐色土・暗褐色土を主体とし、角礫を少量含む。

[出土遺物] 堆積土より繩文土器の深鉢が出土している。

第77号土坑(図15)

[位置] 調査E区のIII-E-47グリッドに位置している。第55・63号土坑と重複し、本遺構が古い。当初第55号土坑と同一遺構としていたが、整理段階で別遺構と判断した。

[形態・規模] 本遺構の東側が第55号土坑、南西側が第63号土坑に破壊されているため全体形状は不明であるが、平面形は楕円形を呈するものと思われる。確認した長軸は約1m84cm、同短軸約1m20cm、同深さは約23cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土と暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第78号土坑(図14)

[位置] 調査E区のIII-J-51グリッドに位置している。第75号土坑と重複し、本遺構が古い。

[形態・規模] 南東部が第75号土坑に破壊され、また東部が調査区外に延びるために全体形状は不明であるが、平面形は楕円形を呈するものと思われる。確認した長軸は約49cm、深さは約34cmを測る。短軸は計測不能である。

[堆積土] にぶい黄褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第79号土坑(図15)

[位置] 調査E区のIII-F-53グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約79cm、短軸約61cmの円形で、深さは約37cmである。断面形状はプラスコ型を呈し、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土を主体とし、下層に褐色土が堆積する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第80号土坑(図15)

[位置] 調査E区のIII-F-G-47グリッドに位置している。第56・65号土坑と重複し、第65号土坑より新しく、第56号土坑より古い。当初第56・65・81・82土坑と同一遺構としていたが、精査の結果、別遺構と判断した。

[形態・規模] 東部が第56号土坑に破壊されているため全体形状は不明であるが、平面形は楕円形を呈するものと思われる。長軸は約3m47cm、短軸が約2m30cm、深さは約75cmを測る。壁は北東側は比較的急に、南西側は緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 上層が黒色土、下層がにぶい黄褐色土や褐色土を主体とする。黒色土の下部層理面付近には角礫が集中して堆積する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第81号土坑(図15)

[位置] 調査E区のIII-F-48グリッドに位置している。第56号土坑と重複し、本遺構が古いと思われる。当初第56・65・80・82土坑と同一遺構としていたが、精査の結果、別遺構と判断した。

[形態・規模] 北西部が第56号土坑に破壊されているため全体形状は不明であるが、平面形は円形を呈するものと思われる。確認した長軸は約2m50cm、同短軸は約46cm、深さは約66cmを測る。壁は底面から急に立ち上がり、底面は南東側が凹む形状である。

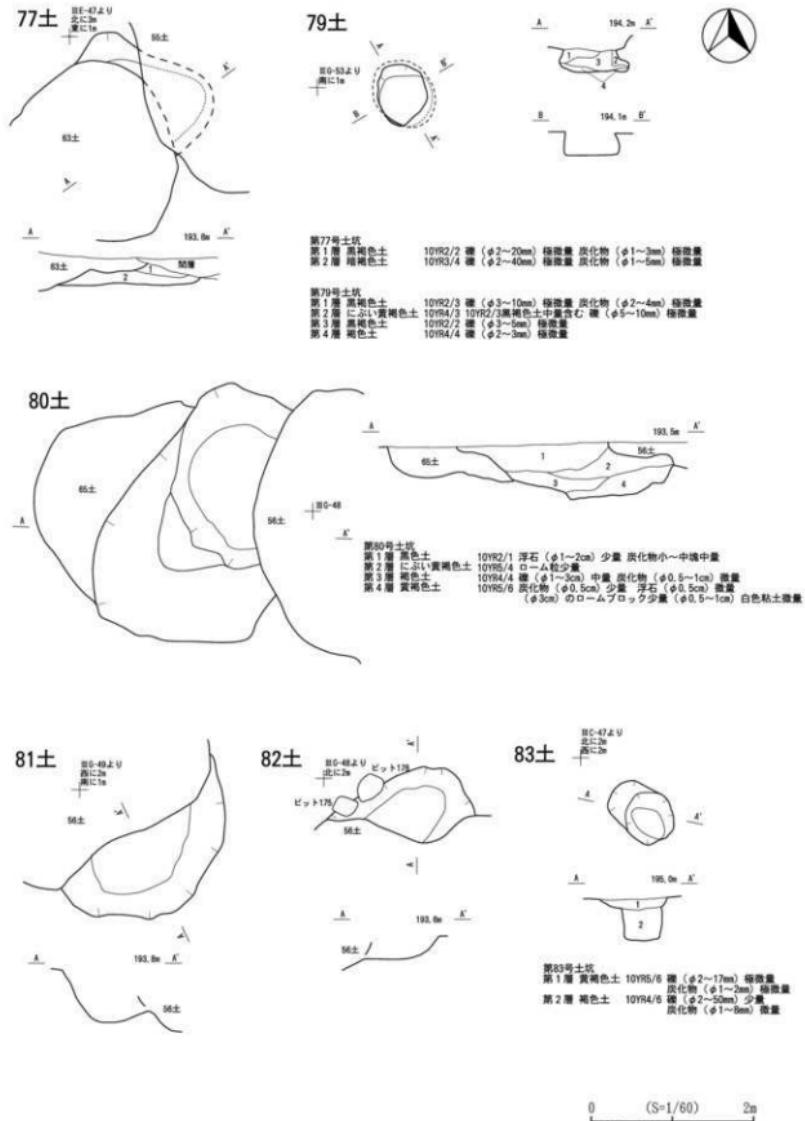


図15 土坑(11)

[堆積土] 褐色土や黄褐色土を主体とする。土層断面図は作成しなかった。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第82号土坑(図15)

[位置] 調査E区のIII G-48グリッドに位置している。第56号土坑、ピット175・178と重複し、本遺構が古い。当初第56・65・80・81号土坑と同一遺構としていたが、精査の結果、別遺構と判断した。

[形態・規模] 南部が第56号土坑に破壊されているため全体形状は不明であるが、平面形は楕円形と思われる。確認した長軸は約1m83cm、同短軸は約22cm、深さは約33cmを測る。壁は底面から急に立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 磚を含むHue10Y R3/4暗褐色土を主体とする。土層断面図は作成しなかった。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第83号土坑(図15)

[位置] 調査E区のIII C-46グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約88cm、短軸約63cmの楕円形で、深さは約48cmである。壁は底からほぼ直角に立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第84号土坑(図16)

[位置] 調査E区のIII E-48グリッドに位置している。第87号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m4cm、短軸約92cmの円形で、深さは約22cmである。壁は底から緩やかに立ち上がり、底面は中央が凹む形状である。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第85号土坑(図16)

[位置] 調査E区のIII D-E-47グリッドに位置している。第88号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 平面形は長軸約1m31cm、短軸約89cmの楕円形で、深さは約38cmである。壁は底から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 黄褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第86号土坑(図16・26)

[位置] 調査E区のIII J-50グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約2m20cm、短軸約1m84cmの円形で、深さは約81cmである。壁は底から急に立ち上がり、底面は中央部が凹んでいる。

[堆積土] 上層に直径約12~13cmの角礫を含む褐色土や黄褐色土が堆積し、下層には暗褐色土が堆積する。

[出土遺物] 堆積土から繩文土器鉢と炭化物が出土している。炭化物は底面付近で出土している。

第87号土坑(図16)

[位置] 調査E区のIII E-47・48グリッドに位置している。第55・84・88号土坑と重複し、第55・84号

土坑より古い。第88号土坑との新旧関係は判断できなかった。

[形態・規模] 北西部を第55号土坑に破壊されているため全体形状は不明であるが、平面形は橢円形と思われる。確認した長軸は約2m99cm、同短軸約1m24cm、深さは約26cmを測る。壁は底から緩やかに立ち上がり、底面はやや凹凸がある。

[堆積土] 褐色土や黄褐色土を主体とする。堆積土は基本土層第IV層に類似し硬い。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第88号土坑(図16)

[位置] 調査E区のIII-D-E-47・48グリッドに位置している。第85・87号土坑に重複し、第85号土坑より古い。第87号土坑との新旧関係は判断できなかった。

[形態・規模] 北西部を第85号土坑、南東部を試掘溝に破壊されるため、全体形状は不明であるが、平面形は橢円形と思われる。残存長軸約1m86cm、短軸約1m82cm、深さは約58cmを測る。壁は底から緩やかに立ち上がり、底面はなだらかである。

[堆積土] 褐色土や黄褐色土を主体とし、締まりがある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第89号土坑(図16)

[位置] 調査E区のIII-G-52・53グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約65cm、短軸約60cmの円形で、深さは約16cmである。壁は底から急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第90号土坑(図16・30)

[位置] 調査E区のIII-F-54・55グリッドに位置している。第2号竪穴住居跡と重複し本遺構が古い。

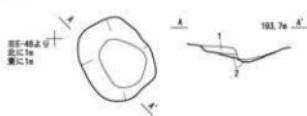
[形態・規模] 平面形は長軸約1m63cm、短軸約1m55cmの円形で、深さは約63cmである。壁は底から急に立ち上がり、底面は中央部がやや凹む。基本土層第IV層に含まれる礫のため、底面には凹凸がある。

[堆積土] 上～中層が褐色土、下層が暗褐色土を主体とし、全体に3～9cmの礫を含む。

[出土遺物] 堆積土上層から凹み石が出土しているが、本遺構を破壊する第2号竪穴住居跡の炉跡に伴う焼土の直下から出土していることから、第2号竪穴住居跡に伴う可能性もある。底面から炭化物が出土している。

(工藤)

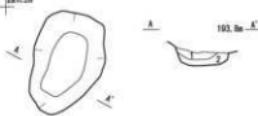
84土



第84号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 硬 ($\phi \sim 25\text{mm}$) 少量 売化物 ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) 微微量
第2層 黄褐色土 10YR4/6 硬 ($\phi 2 \sim 20\text{mm}$) 微量 売化物 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) 微微量

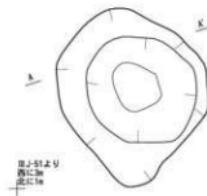
85土



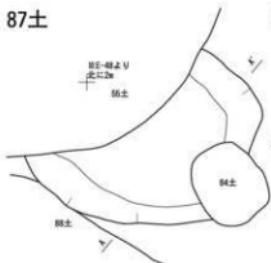
第85号土坑

第1層 黄褐色土 10YR5/8 硬 ($\phi 2 \sim 20\text{mm}$) 少量 売化物 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) 微微量
第2層 黄褐色土 10YR7/8 硬 ($\phi 2 \sim 40\text{mm}$) 微量 売化物 ($\phi 1 \sim 30\text{mm}$) 微微量

86土



87土



88土



第86号土坑

第1層 黄褐色土 10YR4/6 10YR4/4 黄褐色土混合 硬 ($\phi \sim 30\text{mm}$) 少量
 売化物 ($\phi \sim 2\text{mm}$) 微量
第2層 黄褐色土 10YR4/4 10YR4/3 黄褐色土少混合 硬 ($\phi \sim 15\text{mm}$) 中量
 売化物 ($\phi \sim 2\text{mm}$) 微量
第3層 黄褐色土 10YR5/6 10YR5/6 黄褐色土混合 硬 ($\phi \sim 130\text{mm}$) 中量
 売化物 ($\phi \sim 1\text{mm}$) 微微量
第4層 黄褐色土 10YR5/6 10YR5/6 黄褐色土少混合 硬 ($\phi \sim 120\text{mm}$) 中量
 売化物 ($\phi \sim 1\text{mm}$) 微微量
第5層 暗褐色土 10YR2/3 10YR5/6 黄褐色粘土ブロック状 ($\phi \sim 15\text{mm}$)
 売化物 ($\phi \sim 3\text{mm}$) 微微量

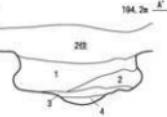
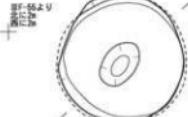
第87号土坑

第1層 暗褐色土 10YR5/6 硬 ($\phi \sim 15\text{mm}$) 少量
 第2層 黄褐色土 10YR4/4 硬 ($\phi 2 \sim 40\text{mm}$) 少量 売化物 ($\phi 2 \sim 3\text{mm}$) 微微量
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 硬 ($\phi \sim 20\text{mm}$) 少量 売化物 ($\phi 2\text{mm}$) 微微量
 第4層 黄褐色土 10YR4/6 硬 ($\phi \sim 20\text{mm}$) 少量

89土



90土



第89号土坑

第1層 黄褐色土 10YR5/6 10YR3/3 黄褐色土中混合 硬 ($\phi \sim 6\text{mm}$) 微量
 売化物 ($\phi \sim 2\text{mm}$) 微微量
第2層 暗褐色土 10YR3/3 硬 ($\phi \sim 5\text{mm}$) 少量 売化物 ($\phi \sim 2\text{mm}$) 微微量
 10YR5/6 黄褐色土下層に微量含む
第3層 暗褐色土 10YR3/3 硬 ($\phi \sim 5\text{mm}$) 少量 売化物 ($\phi \sim 3\text{mm}$) 微量

0 (S=1/60) 2m

図16 土坑(12)

3 土器埋設遺構

第1号土器埋設遺構(図17・26)

[位置] 調査E区のIII B-47グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で確認した。

[埋設状況・掘り方] 深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は長軸約51cm、短軸約43cmの円形で、確認できた深さは約44cmである。

[埋土] 掘り方の堆積土は黄褐色土や褐色土、土器内部充填土は黄褐色土を主体として炭化物を微量含むものである。

[出土遺物] 土器内部の土を洗浄し微細遺物の確認につとめたが、遺物は確認できなかった。また掘り方からも遺物は出土しなかった。
(工藤)

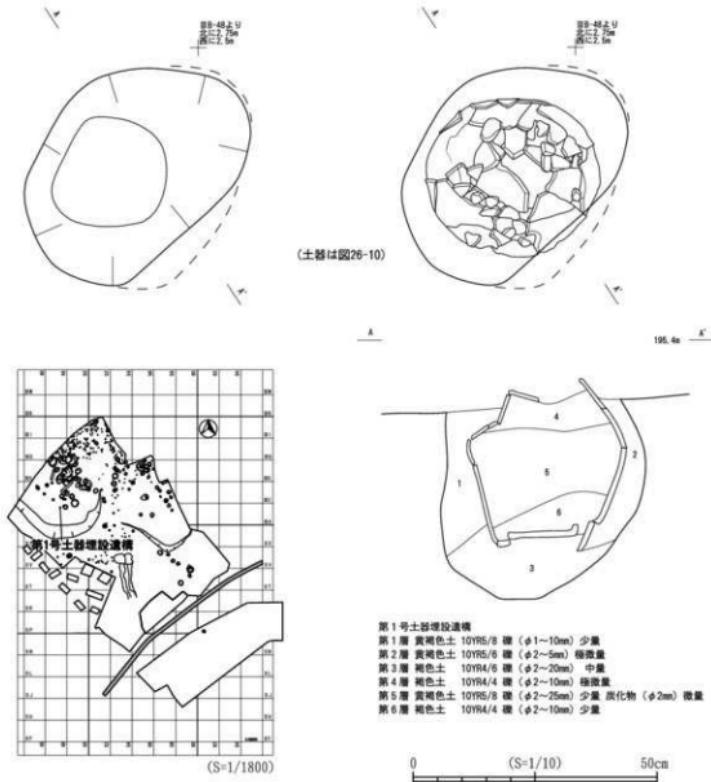


図17 土器埋設遺構

4 ピット

砂子瀬遺跡E区からは、現代の構築と思われるピットが多数検出された。これは調査区が昭和20年代に移転し成立した砂子瀬集落の南西側に位置し、また県道岩崎・西目屋・弘前線に隣接していることに起因していると思われる。今回の報告では、明らかに現代に帰属するピットを除外した、計266基のピットを報告している。

[位置] 基本土層第IV層上面で検出した。特にIII F~III J-46~52グリッドの範囲内には多数検出されている。他遺構と重複する例が多く、新旧関係はピットが新しいものが多い。

[形態・規模] 平面形は円形や楕円形が多い。規模は長径約14~64cm、短径約6~56cm、深さ約5~61cmを測り、長径は20~30cm、短径は20~29cm、深さは20~29cm前後を測るものが多い。

[堆積土] 黒褐色・暗褐色土を主体とする。

[出土遺物] ピット72・81・103・171・204・218の堆積土から、縄文土器の破片が出土している。

[小結] 砂子瀬遺跡E区で検出したピットは、新旧関係や出土遺物、また土層の堆積状況から、縄文時代から近現代にかけての複数の時期に帰属するものと考えられる。
(工藤)

位置	直径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	備考	位置	直径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	備考
ピット1 HJ-52	38.1	25.9	17.0		ピット50 HJ-52	38.5	22.0	24.5	
ピット2 HJ-52	39.7	31.1	7.5	第10号坑より新しい	ピット57 HJ-50	29.4	23.8	23.0	
ピット3 HJ-52	54.0	42.9	19.5	第5号坑より新しい	ピット38 HJ-50	33.4	22.4	18.5	ピット59と重複。新旧不明
ピット4 -	-	-	-		ピット39 HJ-50	22.7	19.6	20.5	ピット58と重複。新旧不明
ピット5 -	-	-	-		ピット40 -	-	-	-	
ピット6 -	-	-	-		ピット61 HJ-49	38.8	27.0	19.5	
ピット7 HJ-51	42.2	27.4	22.5	ピット9と重複。新旧不明	ピット62 HJ-51	32.5	24.6	30.0	
ピット8 HJ-51	33.4	25.1	14.0	ピット7と重複。新旧不明	ピット63 HJ-51	31.0	26.8	38.0	
ピット9 HJ-51	38.8	32.0	54.0	ピット8と重複。新旧不明	ピット64 HJ-50	23.2	21.8	26.0	
ピット10 -	-	-	-		ピット65 HJ-50	37.1	25.7	22.0	ピット66と重複。新旧不明
ピット11 -	-	-	-		ピット66 HJ-50	26.5	19.6	28.5	
ピット12 -	-	-	-		ピット67 HJ-49	26.2	21.1	9.5	ピット68と重複。新旧不明
ピット13 -	-	-	-		ピット68 HJ-49	22.2	23.0	30.5	
ピット14 HJ-50	30.9	25.4	27.0		ピット69 HJ-49	22.5	28.5	30.0	ピット70と重複。新旧不明
ピット15 HJ-51	31.4	18.7	29.0		ピット70 HJ-49	36.6	28.3	33.0	ピット69より新しい
ピット16 HJ-50	42.6	25.9	24.0		ピット71 HJ-47	25.6	14.9	33.0	
ピット17 HJ-52	36.0	19.9	42.5		ピット72 HJ-47	24.4	22.4	33.5	
ピット18 HJ-52	22.7	17.3	26.0		ピット73 HJ-47	25.3	25.1	42.0	
ピット19 HJ-52	29.8	28.2	13.0		ピット74 HJ-47	44.7	33.9	18.5	
ピット20 HJ-51	35.6	31.6	17.5		ピット75 HJ-48	35.1	33.5	39.5	
ピット21 HJ-51	61.4	45.1	24.5		ピット76 HJ-47	36.7	23.8	37.0	
ピット22 HJ-51	40.6	34.0	20.5		ピット77 HJ-47	51.2	41.4	28.5	
ピット23 HJ-51	34.9	30.5	23.0		ピット78 HJ-47	35.1	33.3	29.0	
ピット24 HJ-50	16.9	12.8	45.0	ピット131と重複。新旧不明	ピット79 HJ-50	23.6	22.0	12.5	
ピット25 HJ-50	42.4	34.5	18.0		ピット80 HJ-48	28.0	21.2	38.0	
ピット26 HJ-50	35.9	25.6	25.5		ピット81 HJ-49+50	39.1	21.9	17.0	
ピット27 -	-	-	-		ピット82 HJ-49	42.5	37.4	37.0	
ピット28 -	-	-	-		ピット83 HJ-49	43.5	32.6	61.0	
ピット29 HJ-47	46.6	33.5	23.0		ピット84 HJ-49	47.6	31.7	14.0	
ピット30 HJ-47	59.2	32.0	35.5		ピット85 HJ-49	50.1	38.2	40.5	
ピット31 HJ-47	35.8	47.9	17.5		ピット86 HJ-49	39.4	28.6	39.5	
ピット32 HJ-50	35.9	27.1	45.5		ピット87 HJ-50	23.9	19.1	21.5	
ピット33 HJ-53	34.2	28.2	17.0		ピット88 HJ-50	32.8	66.5	14.0	
ピット34 HJ-53	29.8	21.7	26.0		ピット89 HJ-49	24.1	21.5	3.5	計測不能
ピット35 HJ-53	50.7	45.0	17.5		ピット90 HJ-49	29.7	24.5	27.0	
ピット36 HJ-53	50.0	22.5	13.5		ピット91 HJ-49	26.3	31.5	19.5	
ピット37 HJ-52	29.9	26.1	51.5	ピット38と重複。新旧不明	ピット92 HJ-49	26.9	39.1	20.0	
ピット38 HJ-52	45.6	45.6	45.5	ピット39と重複。新旧不明	ピット93 HJ-49	25.6	23.7	20.5	
ピット39 HJ-52	30.2	31.5	45.5	ピット40と重複。新旧不明	ピット94 HJ-49	28.6	25.5	27.5	
ピット40 HJ-52	35.2	35.0	45.5	ピット41と重複。新旧不明	ピット95 HJ-49	46.7	28.5	79.0	
ピット41 HJ-52	35.2	35.0	13.5	ピット42と重複。新旧不明	ピット96 HJ-49	25.9	17.5	37.5	計測不能
ピット42 HJ-52	32.0	21.5	22.0	ピット43と重複。新旧不明	ピット97 HJ-49	29.2	25.5	32.0	ピット39と重複。新旧不明
ピット43 HJ-52	26.1	26.5	13.5	ピット41と重複。新旧不明	ピット98 HJ-49	26.5	38.4	37.0	ピット47と重複。新旧不明
ピット44 HJ-52	38.9	33.3	17.0	ピット45と重複。新旧不明	ピット99 HJ-49	41.3	36.0	37.0	ピット42と重複。新旧不明
ピット45 HJ-52	26.5	26.9	16.5	ピット46と重複。新旧不明	ピット100 HJ-49	18.2	12.4	28.0	
ピット46 HJ-52	45.6	41.6	8.5	ピット47と重複。新旧不明	ピット101 HJ-49	29.6	23.5	38.5	
ピット47 HJ-52	26.6	23.6	22.5	ピット48と重複。新旧不明	ピット102 HJ-51	29.5	21.8	9.0	
ピット48 HJ-52	31.0	24.4	59.5	ピット49と重複。新旧不明	ピット103 HJ-49+50	24.4	29.1	27.5	
ピット49 HJ-52	26.3	22.5	18.0	ピット50と重複。新旧不明	ピット104 -	-	-	-	
ピット50 HJ-52	39.3	34.4	38.0	ピット127と重複。新旧不明	ピット105 -	-	-	-	
ピット51 HJ-52	40.3	35.8	25.5		ピット106 HJ-49	30.4	25.4	25.0	
ピット52 HJ-51	26.1	26.5	13.5		ピット107 HJ-49	37.2	29.5	41.0	
ピット53 HJ-51	26.9	24.3	18.5	ピット54と重複。新旧不明	ピット108 HJ-49	31.8	25.9	25.0	
ピット54 HJ-51	24.4	18.2	14.0	ピット55と重複。新旧不明	ピット109 HJ-49	27.6	25.0	25.0	
ピット55 HJ-50	33.2	18.4	6.0	ピット56と重複。新旧不明	ピット110 HJ-49	41.0	26.4	48.0	
ピット56 HJ-48	36.7	23.0	18.0	ピット128と重複。新旧不明					

位置	長さ(cm)	幅さ(cm)	深さ(cm)	備考	位置	長さ(cm)	幅さ(cm)	深さ(cm)	備考	
ビト+111	黒H-48	34.5	29.7	29.0	ビト+197	黒H-50	30.4	25.4	47.0	-
ビト+112	黒H-48	25.1	18.9	45.5	ビト+198	黒H-50	35.9	29.0	19.5	-
ビト+113	黒H-48	35.6	29.5	35.5	ビト+199	黒H-50	34.8	24.8	27.0不規	-
ビト+114	黒H-48	29.4	21.6	45.0	ビト+200	黒G-51	27.1	23.1	20.5	-
ビト+115	黒H-48	44.2	34.2	36.5	ビト+201	黒G-51	37.5	25.6	15.5	-
ビト+116	黒H-48	43.1	37.8	35.0	ビト+202	黒G-51	31.4	29.5	18.0	-
ビト+117	黒H-48	22.4	18.3	26.5	ビト+203	黒G-51	23.4	14.9	16.0	-
ビト+118	黒H-47	40	36.1	32.4	ビト+204	黒G-51・52	40.0	21.0	20.5	-
ビト+119	黒H-47	41	34.5	45.0	ビト+205	黒G-52	33.1	25.3	12.5	-
ビト+120	黒H-47	22.6	18.1	26.5	ビト+206	黒G-52	32.3	14.5	16.5	-
ビト+121	黒H-47	25.2	18.1	32.5	ビト+207	黒G-52	27.8	26.6	22.0	-
ビト+122	黒H-47	29.5	27.3	42.0	ビト+208	黒G-52	22.6	29.4	29.0	-
ビト+123	黒H-52	37.0	31.2	25.0	ビト+209	黒G-50	43.5	43.5	40.0	ビット24と重複、新旧不明
ビト+124	黒H-52	16.8	12.5	14.0	ビト+210	黒G-50	36.7	30.8	41.0	-
ビト+125	黒H-52	26.5	18.4	26.5	ビト+211	黒G-50	34.8	15.1	43.0	-
ビト+126	黒H-52	33.7	27.9	21.5	ビト+212	黒G-49	45.9	21.1	43.0	-
ビト+127	黒H-52	33	26.6	47.5	ビト+213	黒G-52	51.8	44.4	13.0	-
ビト+128	黒H-52	35.5	26.6	47.5	ビト+214	黒G-52	29.4	24.1	34.0	-
ビト+129	黒H-52	41.3	35.5	21.4	ビト+215	黒G-51・52	38.2	34.7	30.5	-
ビト+130	黒H-52	64.2	46.7	36.0	ビト+216	黒G-51	32.8	46.3	43.0	-
ビト+131	黒H-52	22.9	18.6	19.5	ビト+217	黒G-51	42.0	35.8	29.0	-
ビト+132	黒H-50	43.0	18.2	38.0	ビト+218	黒G-51・52	36.8	23.4	24.0	-
ビト+133	黒H-49	26.0	18.8	16.5	ビト+219	黒G-51	41.6	34.7	40.0	-
ビト+134	黒H-49	27.0	33.1	24.5	ビト+220	黒G-51	27.1	21.5	28.5	-
ビト+135	黒H-49	36.1	23.3	45.5	ビト+221	黒G-51	32.6	28.8	36.0	-
ビト+136	黒H-49	25.5	18.6	18.0	ビト+222	黒G-51	52.9	34.0	40.5	-
ビト+137	黒H-49	27.3	26.6	26.8	ビト+223	黒G-51	35.0	29.4	76.5	-
ビト+138	黒H-49	33.2	28.6	24.0	ビト+224	黒G-51	28.1	28.1	27.5	-
ビト+139	黒H-49	29.8	24.2	44.5	ビト+225	黒G-50	40.5	33.5	22.0	-
ビト+140	黒H-49	37.2	34.0	39.5	ビト+226	黒G-50	34.5	21.1	27.0不規	-
ビト+141	黒H-47	21.5	21.0	23.5	ビト+227	黒G-50	41.4	29.8	11.4	ビット223と重複、新旧不明
ビト+142	黒H-47	44.7	42.2	14.0	ビト+228	黒G-50	32.0	29.5	27.0不規	-
ビト+143	黒H-48	35.0	18.5	38.0	ビト+229	黒G-52	33.7	27.0	14.0	ビット227と重複、新旧不明
ビト+144	黒H-48	22.4	21.2	33.0	ビト+230	黒G-51・52	52.9	39.3	16.5	-
ビト+145	黒H-48	26.1	19.9	31.5	ビト+231	黒G-51	36.6	27.0	32.0	-
ビト+146	黒H-48	52.8	32.9	47.5	ビト+232	-	-	-	-	
ビト+147	黒H-48	23.0	21.2	24.5	ビト+233	黒H-48	33.6	21.7	27.0	-
ビト+148	黒H-48	29.8	23.1	33.0	ビト+234	黒H-51	34.5	24.0	15.5	-
ビト+149	黒H-48	44.0	28.3	18.0	ビト+235	黒H-50	28.6	18.9	11.0	-
ビト+150	黒H-48	46.4	45.6	25.5	ビト+236	黒H-50	63.1	56.6	27.0不規	-
ビト+151	黒H-48	43.9	32.7	39.5	ビト+237	黒H-52	54.3	18.9	15.5	-
ビト+152	黒H-50	31.1	22.3	13.0	ビト+238	黒H-51	32.6	32.6	13.5	-
ビト+153	黒H-50	26.4	21.8	26.0	ビト+239	黒H-51・52	32.6	25.4	20.5	-
ビト+154	黒H-50	37.4	23.4	19.0	ビト+240	黒H-49・50	46.3	41.3	42.0	ビット209と重複、新旧不明
ビト+155	黒H-50	31.2	28.1	30.5	ビト+241	黒H-49	25.8	24.1	14.5	-
ビト+156	黒H-50	32.5	26.7	56.5	ビト+242	黒H-49	45.0	32.0	27.0不規	-
ビト+157	黒H-48	33.5	38.8	27.5	ビト+243	黒H-48	24.9	21.5	13.5	-
ビト+158	黒H-48	19.6	17.9	19.5	ビト+244	黒H-48	37.3	29.0	24.0	-
ビト+159	黒H-48	19.6	15.8	29.0	ビト+245	黒H-47	25.6	8.7	24.5	-
ビト+160	黒H-48	25.4	22.9	36.0	ビト+246	黒H-47	25.0	14.9	27.5	-
ビト+161	黒H-48	30.3	18.7	25.0	ビト+247	黒H-51	25.6	17.9	15.5	-
ビト+162	黒H-49	29.3	22.8	27.5	ビト+248	黒H-49	42.5	26.3	16.0	-
ビト+163	黒H-49	44.6	37.1	27.5	ビト+249	黒H-49	27.2	27.6	17.0	-
ビト+164	黒H-49	26.2	18.8	38.0	ビト+250	黒H-49	34.0	30.1	5.5	-
ビト+165	黒H-49	30.9	23.8	10.0	ビト+251	黒H-50	37.1	27.5	13.5	-
ビト+166	黒H-49	26.2	24.8	18.5	ビト+252	黒H-50	34.5	23.0	36.5	-
ビト+167	黒H-49	36.0	35.5	45.5	ビト+253	黒H-50	35.8	22.5	30.0	-
ビト+168	黒H-50	29.7	24.8	27.5	ビト+254	黒H-50	26.7	18.0	24.5	-
ビト+169	黒H-50	61.5	36.9	69.5	ビト+255	黒H-50	23.9	16.1	14.0	-
ビト+170	黒H-50	30.0	29.3	8.5	ビト+256	黒H-51	37.1	25.0	29.0	-
ビト+171	黒H-50	46.2	29.5	52.0	ビト+257	黒H-51	29.0	27.5	23.0	-
ビト+172	黒H-49	26.0	23.3	16.0	ビト+258	黒H-51	23.0	8.2	6.0	-
ビト+173	黒H-49	22.7	20.2	30.0	ビト+259	黒H-51	35.7	33.2	40.5	-
ビト+174	黒H-49	21.3	21.9	59.0	ビト+260	黒H-51	30.5	26.5	8.5	-
ビト+175	黒H-49	31.9	25.1	25.5	ビト+261	黒H-52	35.3	24.5	11.5	-
ビト+176	黒H-49	24.1	22.3	18.0	ビト+262	黒H-52	36.7	22.5	18.0	-
ビト+177	黒H-49	35.5	26.5	19.6	ビト+263	黒H-52	38.6	30.4	21.5	-
ビト+178	黒H-49	37.8	26.8	22.5	ビト+264	黒H-52	28.8	29.5	26.0	-
ビト+179	黒H-49	24.8	18.8	30.8	ビト+265	黒H-52	24.1	18.6	34.0	-
ビト+180	黒H-49	55.1	23.2	30.5	ビト+266	黒H-52	24.8	27.7	15.0	-
ビト+181	黒H-49	17.7	13.8	26.5	ビト+267	黒H-52	31.2	24.1	10.0	-
ビト+182	黒H-49	34.7	30.3	18.0	ビト+268	黒H-52	30.5	29.4	11.0	-
ビト+183	黒H-49	31.7	24.1	14.5	ビト+269	黒H-52	30.3	24.2	22.5	-
ビト+184	黒H-49	21.9	17.4	27.0不規	ビト+270	黒H-52	14.4	12.7	17.5	-
ビト+185	黒H-49	31.4	25.5	33.0	ビト+271	黒H-53	34.1	24.2	20.0	ビット272と重複、新旧不明
ビト+186	黒H-49	39.7	30.6	49.0	ビト+272	黒H-53	26.1	15.7	26.0	ビット271と重複、新旧不明
ビト+187	黒H-51	20.3	18.5	15.5	ビト+273	黒H-51	27.5	13.1	21.6	-
ビト+188	黒H-50	37.6	33.2	30.0	ビト+274	黒H-51	23.8	18.4	11.5	-
ビト+189	黒H-50	45.8	34.0	15.0	ビト+275	黒H-51	16.6	14.7	17.0	-
ビト+190	黒H-50	30.2	17.7	15.5	ビト+276	黒H-49	34.0	25.1	28.0	-
ビト+191	黒H-50	27.1	17.3	25.5	ビト+277	-	-	-	-	
ビト+192	黒H-50	25.2	22.2	29.0	ビト+278	-	-	-	-	
ビト+193	黒H-50	26.9	26.2	24.5	ビト+279	-	-	-	-	
ビト+194	黒H-50	24.2	18.7	30.5	ビト+280	黒H-54	29.4	26.3	18.0	第2号豊穴釣跡より古い
ビト+195	黒H-50	29.6	28.0	35.5	ビト+281	黒H-49	31.2	41.0	27.5	第5号十軒村釣跡より古い
ビト+196	黒H-50	36.6	23.9	41.0	ビト+282	黒H-47	45.1	35.2	16.8	第5号十軒村釣跡より新しい

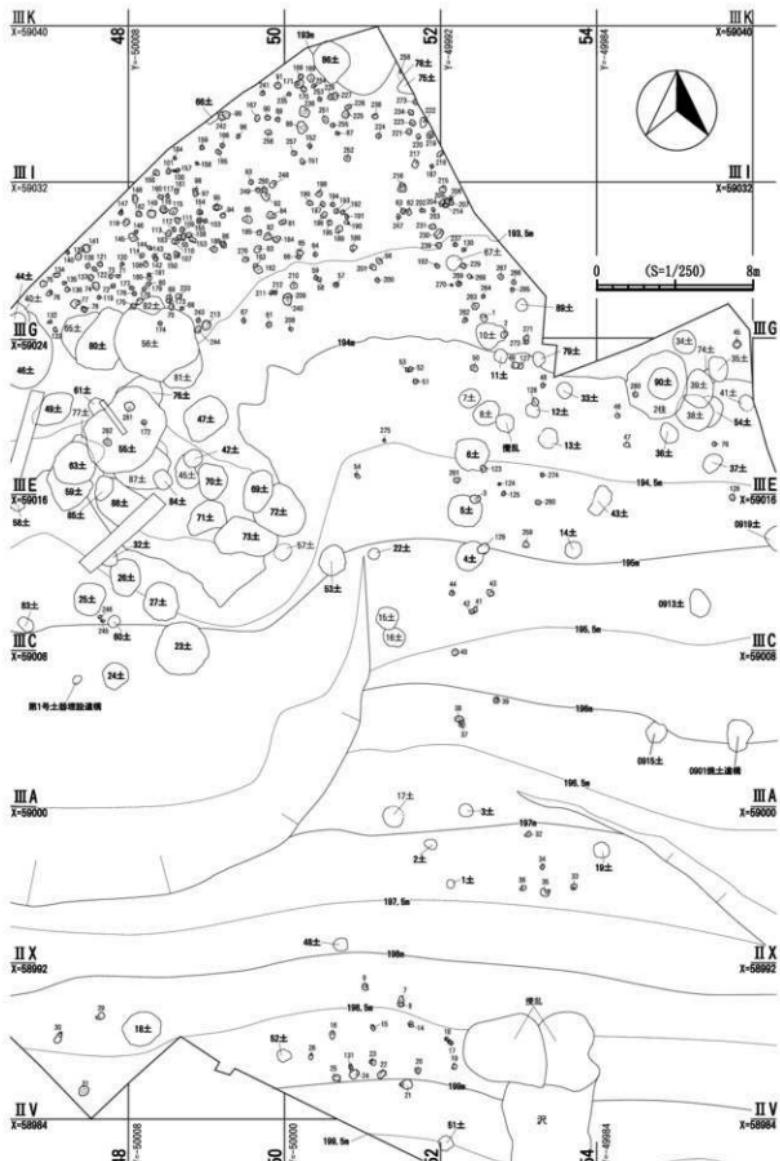


図18 ピット

第2項 検出遺構(平成21年度分)

平成21年度の調査では調査区北～東側の緩斜面から遺構が検出された。以下に概要を記す。

1 土坑

第0901号土坑(図19・26)

[位置] 調査E区のII T-58グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約195cm、短軸約175cmのややつぶれた円形で、深さは約60cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 3層に分層される。3、5層に炭化物が含まれる。

[出土遺物] 確認面で縄文時代後期の鉢(胴部)が出土している。覆土の上部が掘りこまれていることから、横位の埋設土器の可能性がある。また、2層から石核が1点出土している。

第0902号土坑(図19)

[位置] 調査E区のII V-57グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約125cm、短軸約120cmの円形で、深さは約50cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 9層に分層される。覆土中層に炭化物を、上～中層に小碟を含む。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第0903号土坑(図19・31)

[位置] 調査E区のII V-58グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約135cm、短軸約120cmの円形で、深さは約50cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 4層に分層される。覆土の上～中層に小碟を含む。

[出土遺物] 覆土から削器が1点出土している。

第0904号土坑(図19)

[位置] 調査E区のII U-59グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約130cm、短軸約100cmの楕円形で、深さは約30cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 2層に分層される。全体に碟を含む。

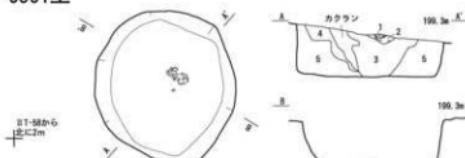
[出土遺物] 遺物は出土していない。

第0905号土坑(図19・26)

[位置] 調査E区のII W-57グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約120cm、短軸約120cmの不整円形で、深さは約65cmである。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がる。壁面の一部が抉れている。

0901±



0902±

第0902号土坑
第三次

- | | |
|-----|--|
| 第1属 | 暗褐色土 10YR5/4
10YR5/3暗褐色土微少量 小砾 ($\phi \leq 15\text{mm}$) - 浮石 ($\phi \leq 1\text{mm}$) 微量 |
| 第2属 | 暗褐色土 10YR5/4
10YR5/3暗褐色土微量 - 厚化物 ($\phi \leq 1-3\text{mm}$) 极微量 |
| 第3属 | 暗褐色土 10YR4/4
10YR5/4暗褐色土少量 中砾 ($\phi 35\text{mm}$) 1例 |
| 第4属 | 暗褐色土 10YR5/4
10YR5/3暗褐色土中量 - 厚化物 ($\phi \leq 1\text{mm}$) 极微量 |
| 第5属 | 暗褐色土 10YR5/3
7.5YR5/8暗褐色土厚层 ($\phi \leq 1-5\text{mm}$) 微量 小砾 ($\phi \leq 25\text{mm}$) 1例 |
| 第6属 | 暗褐色土 10YR5/4
10YR5/3暗褐色土少量 小砾 ($\phi \leq 10\text{mm}$) - 浮石 ($\phi \leq 1\text{mm}$) 微量 |
| 第7属 | 暗褐色土 10YR5/4
10YR5/4暗褐色土少量 砂土 ($\phi \leq 1\text{mm}$) 微量 |
| 第8属 | 暗褐色土 10YR4/4
10YR5/4暗褐色土微量 小砾 ($\phi 10-25\text{mm}$) 2例 |
| 第9属 | 暗褐色土 10YR5/6 |

0903+



0905+



0906+

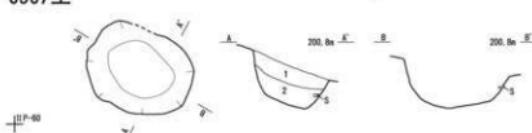
0900上

- 第1層 培殖土色 10YR3/4
 贅化物 ($\phi 1\sim 2cm$) · 浮石 ($\phi 1\sim 5mm$) 極微量 ·
 中礫 ($\phi 10\sim 30mm$) 微量

第2層 培殖土色 10YR4/3
 10YR2/3黑褐色土少量 · 浮石 ($\phi 1\sim 5mm$) 極微量 ·
 大礫 ($\phi 90mm$) 1種

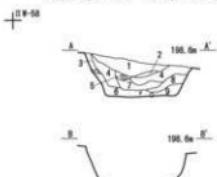
第3層 培殖土色 10YR4/6
 大礫 ($\phi 110\sim 120mm$) 2個 · 中礫 ($\phi 30\sim 70mm$) 散在

0907+



第0901号土坑	
第1层	暗褐色土 10YR3/2
第2层	暗褐色土 10YR3/4 砾 (3~10mm) 微量
第3层	暗褐色土 10YR4/3 10YR4/4粘土中量·矿物化物 (1~20mm) 极微量 ·砾 (1~5mm) 少量
第4层	褐色土 10YR4/6 砾 (φ10~50mm) 少量
第5层	褐色土 10YR4/4 矿物化物 (2~4mm) ·砾 (φ1~30mm) 极微量

0904+



10

- 第0904号土坑
 第1层 灰褐色土 10YR3/3
 小砾石 ($\phi \sim 20mm$) 中量・炭化物 ($\phi \sim 2mm$) 微量
 第2层 铁色土 10YR4/4
 大砾石 ($\phi 120mm$) 1個・小砾石 ($\phi \sim 20mm$) 少量・
 炭化物 ($\phi 1 \sim 3mm$) 稍微量。10YR3/4附近黑色土中量

第0005号土地

- | | |
|-----|--|
| 第1层 | 暗褐色土 10YR2/3
10YR2/6(黄色)中湿 · 7.5YR5/8(暗褐色)浮石 (?) (φ=5~10mm) 少量
· 小砾 (φ=1~2mm) 微量 |
| 第2层 | 10YR5/6(暗褐色)少湿 · 浮石 (φ=3mm) 微量 · 墓化物 (φ=1mm) 微量
· 小砾 (φ=1~2mm) 微量 |
| 第3层 | 暗褐色土 10YR3/4
10YR4/6(暗褐色)少湿 · 浮石 (φ=5mm) 微量 · 中砾 (φ=40mm) 1枚
· 灰化土 (φ=1~2mm) 微量 |
| 第4层 | 暗褐色土 10YR3/3
10YR4/6(暗褐色)少湿 · 浮石 (φ=5mm) 微量 · 小砾 (φ=20mm) 2枚 |
| 第5层 | 10YR5/6(暗褐色)少湿 · 浮石 (φ=15mm) 少量 |
| 第6层 | 10YR4/6 小砾 (φ=1~5mm) 少量 |
| 第7层 | 暗褐色土 10YR4/4 浮石 (φ=12mm) 微量 |
| 第8层 | 暗褐色土 10YR4/3 浮石 (φ=3mm) 微量 · 小砾 (φ=12mm) 2枚 · 墓化物 (φ=3mm) 微量 |
| 第9层 | 暗褐色土 10YR4/4 |

總2003期

- 第0907号土坑
第1层 褐色土 10YR4/6
10YR3/3暗褐色土少量 小砾 ($\phi \sim 25mm$) 少量
第2层 褐色土 10YR4/4
由砾1個 小砾 ($\phi \sim 30mm$) 少量

図19 土坑(1)(平成21年度調査)

[堆積土] 9層に分層される。覆土上層に炭化物を含む。また、上～中層に小礫を含む。

[出土遺物] 5層から縄文時代後期の鉢と見られる胴部が出土している。

第0906号土坑(図19・26)

[位置] 調査E区のIIW-56グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約195cm、短軸約170cmのややつぶれた円形で、深さは約30cmである。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 3層に分層される。全体に小礫を含み、2、3層が砂質である。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期の注口土器と見られる口縁部が出土している。

第0907号土坑(図19)

[位置] 調査E区のIIP-60グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約135cm、短軸約100cmの楕円形で、深さは約60cmである。底面は北へ向かって傾斜する。壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 2層に分層される。全体に小礫を含む。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第0908号土坑(図20・26)

[位置] 調査E区のIIU・IIV-59グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約240cm、短軸約220cmの不整円形で、深さは約65cmである。また、底面で長軸約104cm、短軸約70cmで深さは約54cm、平面形が楕円形を呈する土坑が確認されている。

[堆積土] 6層に分層される。覆土上層に炭化物、全体に小礫を含む。

[出土遺物] 確認面で縄文時代後期の鉢の底部が出土している。また、覆土から微細剥離痕のある剥片が2点出土している。

第0909号土坑(図20)

[位置] 調査区E区のIII B-57グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約125cm、短軸約120cmの不整円形で、深さは約25cmである。底面には凸があり、壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 単層である。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第0910号土坑(図20)

[位置] 調査E区のIII C-57グリッドに位置している。

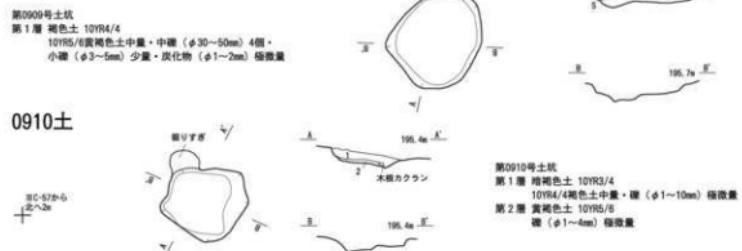
[形態・規模] 平面形は長軸約110cm、短軸約90cmの不整円形で、深さは約20cmである。底面には凸があり、壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 単層である。

0908土



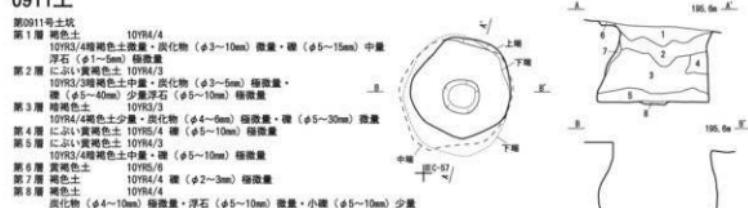
0909土



0910土



0911土



0912土

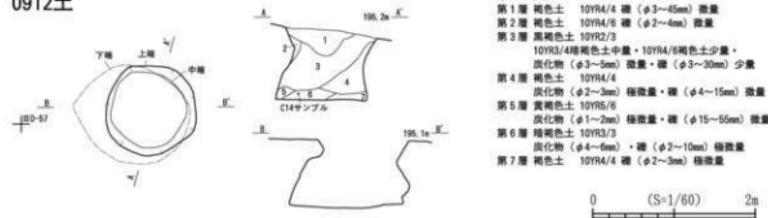


図20 土坑(2)(平成21年度調査)

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第0911号土坑(図20・26)

[位置] 調査E区のIII-C-57グリッドに位置している。

[形態・規模] 底面の平面形は長軸約150cm、短軸約130cmの円形で、深さは約95cmのプラスコ型土坑である。底面に直径約36cm、深さ約6cmの皿状の凹みが見られる。

[堆積土] 8層に分層される。ほぼ全体に炭化物と小礫を含む。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期の深鉢の胴部が出土している。

第0912号土坑(図20・26)

[位置] 調査E区のIII-C・III-D-57グリッドに位置している。

[形態・規模] 底面の平面形は長軸約145cm、短軸約120cmのややつぶれた円形で、深さは約90cmのプラスコ型土坑である。底面は平坦である。

[堆積土] 7層に分層される。ほぼ全体に炭化物と小礫を含む。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期の深鉢の胴部が2点出土している。また、6層出土の炭化物は放射性炭素年代測定の結果 $3,350 \pm 20$ yrBPの値が得られている(第2章第4節、IAAA-92215)。

第0913号土坑(図21・26)

[位置] 調査E区のIII-C-54・55グリッドに位置している。

[形態・規模] 撥乱により上場の大部分が失われているが、推定で長軸約135cm、短軸約105cmの楕円形で、深さは約30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 5層に分層される。ほぼ全体に炭化物と小礫を含む。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期の深鉢の口縁と胴部が出土している。

第0914号土坑(図21)

[位置] 調査区E区のIIIA・IIIB-54グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約110cm、短軸約90cmの不整円形で、深さは約165cmである。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 2層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第0915号土坑(図21)

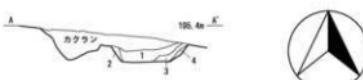
[位置] 調査E区のIIIB-57グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約85cm、短軸約70cmの不整円形で、深さは約15cmである。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 3層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

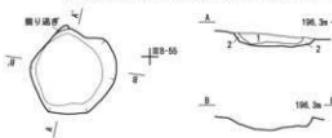
0913土



第0913号土坑
第1層 黄褐色土 10YR4/4
10YR4/3に多い黄褐色土少量・炭化物（φ1～15mm）・
浮石（φ2～5mm）・礫（φ1～8mm） 微微量
第2層 黄褐色土 10YR4/6
炭化物（φ1～4mm）・礫（φ1～3mm） 微微量
第3層 黄褐色土 10YR4/4
黄褐色土少量・炭化物（φ1～12mm） 微微量
第4層 黑褐色土 10YR2/3
10YR3/3暗褐色土中量・浮石（φ2～3mm）・礫（φ1～20mm） 微微量

0915土

第0915号土坑
第1層 黄褐色土 10YR4/4
10YR3/4暗褐色土中量・10YR3/6暗褐色土少量・礫（φ1～22mm） 微量
第2層 黄褐色土 10YR4/4
10YR3/6暗褐色土少量・礫（φ1～7mm） 少量



0916土

第0916号土坑
第1層 黄褐色土 10YR4/4
10YR5/6黄褐色土中量・炭化物（φ1～2mm）
微微量・礫（φ2～20mm） 微量



第0916号土坑
第1層 黄褐色土 10YR4/4
小根（φ2～3mm）・炭化物（φ1～10mm）・
浮石（φ5～10mm） 微微量
第2層 黄褐色土 10YR4/6
礫（φ1～5mm） 少量・炭化物（φ1～10mm）・
浮石（φ5～10mm） 微微量
第3層 黄褐色土 10YR4/6 矽（φ1～6mm） 微量

0917土

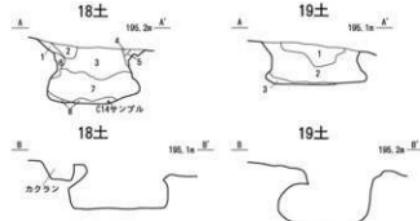
第0917号土坑
第1層 黄褐色土 10YR4/4
10YR5/6黄褐色土中量・炭化物（φ1～2mm）
微微量・礫（φ2～20mm） 微量

II-C-50から
北に2m



0918・0919土

第0918号土坑
第1層 黄褐色土 10YR4/4
10YR3/4暗褐色土中量・礫（φ2～10mm） 微量
第2層 黄褐色土 10YR4/6
10YR4/6暗褐色土少量・10YR5/4黄褐色土少量・小根（φ2～5mm） 微微量
第3層 黄褐色土 10YR5/6
10YR4/4暗褐色土中量・炭化物（φ1～2mm） 微微量・礫（φ2～15mm） 少量
第4層 黄褐色土 10YR4/6
10YR4/6暗褐色土少量・炭化物（φ3mm）・礫（φ1mm） 微微量
第5層 黄褐色土 10YR4/6
10YR3/3暗褐色土中量・炭化物（φ3mm）・礫（φ1mm） 微微量
第6層 黄褐色土 10YR4/4
10YR3/4暗褐色土少量・10YR4/4暗褐色土少量
第7層 暗褐色土 10YR3/3
10YR3/3暗褐色土中量・10YR5/6黄褐色土少量・炭化物
（φ1～2mm）・微微量・礫（φ5～10mm） 微量
第8層 にS1 黄褐色土 10YR4/3
10YR3/4暗褐色土中量・炭化物（φ5～35mm） 微量



第0919号土坑
第1層 黄褐色土 10YR5/6
10YR4/4暗褐色土中量・炭化物（φ1～3mm）・礫（φ2～30mm） 微量
第2層 黑褐色土 10YR2/3
10YR3/3暗褐色土少量・10YR4/4暗褐色土微微量
炭化物（φ2～3mm）・礫（φ1～10mm） 微微量
第3層 黄褐色土 10YR4/4
10YR3/4暗褐色土中量・礫（φ1～2mm） 微微量

0 (S=1/60) 2m

図21 土坑(3) (平成21年度調査)

第0916号土坑(図21)

[位置] 調査E区のIII-C-56グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約80cm、短軸約50cmの楕円形で、深さは約10cmである。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がる。

[堆積土] 単層である。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第0917号土坑(図21)

[位置] 調査E区のIII-D-56グリッドに位置している。

[形態・規模] 底面が長軸約115cm、短軸約95cmの不整円形で、深さは約70cmのフラスコ型土坑である。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 8層に分層される。ほぼ全体に炭化物と小礫を含む。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

第0918号土坑(図21・26・31)

[位置] 調査E区のIII-D-56グリッドに位置している。

[形態・規模] 底面が長軸約125cm、短軸約110cmの楕円形で、深さは約50cmのフラスコ型土坑である。底面は平坦である。

[堆積土] 3層に分層される。ほぼ全体に炭化物と小礫を含む。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期の壺と見られる胴部と石錐が出土している。また、8層出土の炭化物は放射性炭素年代測定の結果 $3,410 \pm 20$ yrBPの値が得られている(第2章第4節、IAAA-92216)。

(佐藤)

2 焼土遺構(図22・26)

第0901号焼土遺構

[位置] 調査E区のIII-A・B-55グリッドに位置している。

[形態・規模] 平面形は長軸約165cm、短軸約130cmの不整円形で、深さは約10cmである。底面には凸があり、皿状の断面形である。

[堆積土] 5層に分層される。1、3層に炭化物を含む。

[出土遺物] 縄文時代前期の深鉢の口縁部が出土している。

(佐藤)

0901焼土

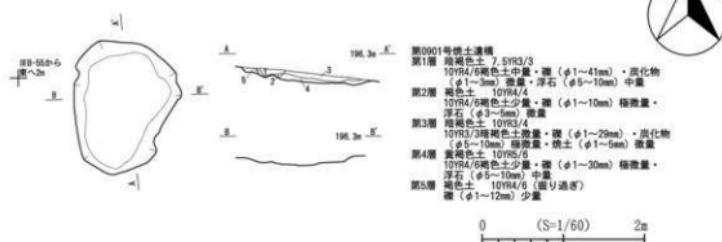


図22 焼土構造（平成21年度調査）

3 沢（図23・28）

[位置] 調査E区のII-S~V-52~54グリッド、調査区中央の急斜面上に位置している。

[形態] 確認された範囲では長さ約13m、最大幅は約4m、深さは最大で約60cmである。斜面下の北側の方がやや幅広くなっている。断面形は浅い皿状である。

[堆積土] 2層に分けられる。全体に礫を含む。2層にはごく微量の炭化物も含まれる。

[出土遺物] 覆土から縄文時代中期の深鉢胴部片と後期初頭から前葉の深鉢の口縁部、胴部と石錐、削器、石核、二次加工剥片、微細剥離痕のある剥片が1点ずつ出土している。

(佐藤)

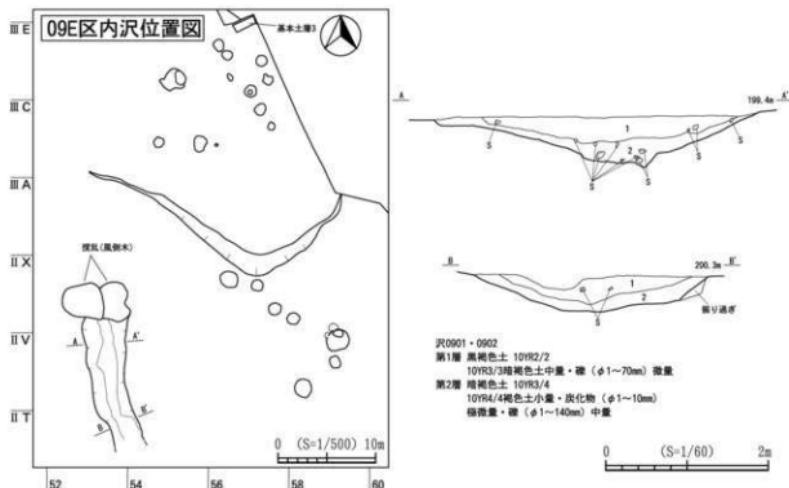


図23 沢（平成21年度調査）

第3項 出土遺物

1 土器(図24~28)

砂子瀬遺跡(E区)の調査で出土した縄文土器は、段ボール箱で14箱分(H20年7箱、H21年7箱)である。調査区は旧砂子瀬集落の移転時の影響を受けていたためか、出土した土器の多くは破片資料で、器種の分かるものが少なく大部分は推定して記載している。土器からみた時期は、縄文後期前葉と後葉、晩期中葉の土器が大半を占めている。

縄文土器の分類にあたっては、平成20年度の調査報告書(青森県教育委員会:2009)に準拠している。

第I群 縄文早期の土器

第II群 縄文前期の土器

第III群 縄文中期の土器

1類 中期前半の土器 2類 中期後半の土器

第IV群 縄文後期の土器

1類 後期初頭から前葉の土器 2類 後期中葉の土器 3類 後期後葉の土器

第V群 縄文晚期の土器

1類 晩期前葉の土器 2類 晩期中葉の土器 3類 晩期後葉の土器

第VI群 弥生時代の土器

第I群の土器は出土していない。

第II群 縄文前期の土器(図26~20)

口縁部に燃糸圧痕文が施文されるもので円筒下層d式と考えられる。

第III群 縄文中期の土器

2類 中期後半の土器(図25-3、図27-1~3・5、図28-1~4)

ほとんどが遺構外からの出土で、中期中葉の円筒上層d式から櫛林式などに比定される。

第IV群 縄文後期の土器(図24、図25-1・2・4・5・7~17、図26-1~4・6~19、図27-4・6~23・25・26・28、図28-5~19・22・23・25)

1類 後期初頭から前葉の土器

本遺跡の主体を占めている土器で、深鉢土器は、沈線文に充填縄文を組み合わせたものと地文が縄文のものが大半を占め、出土量は少ないものの、燃糸文(単軸絡条体第5類)(図28-16)や単軸絡条体第1類(図27-22、図28-11・15)や条痕により施文されているものも存在する。浅鉢土器の中には、沈線文のほか無文(図26-10)のものもみられる。壺形土器は、渦巻状の沈線文が多いが、無文の小型(図27-16)のもの出土している。また、大型の壺形土器(図25-4・7、図27-10・14)は、その形態から土器棺と考えられ、橋状把手が作出されているのが確認できる。いずれも後期初頭の十腰内I式土器とみられる。

3類 後期後葉の土器(図24-3・4・6・19・20・25、図25-1・11・13、図28-22)

鉢形土器及び注口土器のいずれにも粘土瘤が貼付けられているもので、十腰内V式土器と考えられる。

第 V 群 繩文晩期の土器

1 類 晩期前葉の土器(図28-24)

鉢形土器で、口縁部に羊齒状文がみられ、大洞B C式と考えられる。

2 類 晩期中葉の土器(図25-6、図26-5、図27-27)

いずれも頸部に平行沈線文、胴部には条痕文や斜縄文がみられるもので、大洞C 2式と考えられる。

3 類 晩期末葉の土器(図27-23・28、図28-20・21)

いずれも浅鉢の器形と思われ、口縁部に平行沈線文と胴部に縦位の縄文がみられるもので、内面にも沈線が施され、いずれも大洞A式と考えられる。

第VI群 弥生時代の土器(図28-24)

鉢形土器の破片であるが、砂沢式に比定されると考える。

(中嶋)

2 石器

平成19~21年度の調査で出土した石器は剥片石器120点、礫石器11点である。大半が調査区北側の遺構の覆土とその周辺から出土した。

剥片石器

石鏃(図31-6~12)

遺構外から7点が出土した。すべて珪質頁岩製である。有茎のものが高い比率を占める。内訳は尖基有茎鏃が4点、平基有茎鏃、凹基有茎鏃、凹基無茎鏃が1点ずつである。図31-8は基部の両面に微量のアスファルトが付着する。

石匙(図29-3、図30-5、図31-17~19)

遺構内・外から3点ずつ計6点が出土し、うち2点は折損資料である。すべて珪質頁岩製である。図29-3が横形で他の3点は縦形であり、横形の石匙には横長剥片、縦形の石匙には縦長剥片が選択されている。刃部は直刃の比率が高いが、図31-18の一例が外湾する形態を呈する。また、刃部の二次加工は素材剥片の背面側に施し、摘み部の作出には両面に二次加工を施す場合が多い。第35号土坑出土の図30-5は未製品で、摘み部を作出し側縁に断続的な二次加工を施す。

石錐(図29-1・2、図30-3・4・13、図31-2・3、13~15)

遺構内から7点、遺構外から5点の計12点が出土した。すべて珪質頁岩製である。縦長剥片を素材とし、素材剥片の端部先端に、両面ないし片面からの二次加工により錐部を作出する場合が多い。図30-13は横形剥片の上下端に二次加工を施し錐部を作出する。図31-13は厚手で幅広の錐部を作出する。図31-15は摘み部を作出しているもので、錐部を両面、摘み部は片面から二次加工を施す。

石範(図30-12、図31-16)

遺構内・外から計2点が出土した。ともに珪質頁岩製である。どちらも基部の幅が狭くなる撥型である。また2点とも横長剥片を素材とし、丸刃である。図30-12は背面の側縁に二次加工、腹面は刃部の一部に二次加工を施している。図31-16は両面の側縁と刃部の背面に二次加工を施す。

搔器(図31-20)

遺構外から1点が出土した。珪質頁岩製である。縦長剥片を素材とし、刃部が鋸齒状を呈する。背

面は末端に、腹面は左側縁の一部に二次加工を施す。刃部の形態から未製品の可能性もある。

楔形石器(図30-8)

遺構内から3点出土した。図示した1点が黒曜石製であり、他の資料は珪質頁岩製である。すべて剥片素材である。相対する二側縁に剥離痕が形成される。

削器(図29-4~10・14・17~19・21・22、図30-1・11、図31-1・4・21~23、図32-1~4)

遺構内から24点、遺構外から18点の計42点が出土した。1点がチャート製、残りは珪質頁岩製である。素材は縦長剥片が25点、横長剥片が14点、折損等により不明のものが3点である。縦長剥片は側縁に、横長素材は末端辺に刃部を作出する比率が高い。図29-8は背面側と腹面側に二次加工を施し、錯交する刃部を作出している。図31-4は縦長剥片の背面側の二側縁に二次加工を施し、背面側右側縁に急斜度の刃部を形成する。図31-23はブーメラン形の縦長剥片の二側縁に二次加工を施し、左側縁に刃潰しと同様の二次加工を施す。図32-1は縦長剥片の二側縁に二次加工を施し、末端の形態が尖頭形を呈する。

二次加工剥片(図29-11・15、図30-2)

二次加工による剥離痕の連続性・規格性が低く、明確な刃部を形成しない一群である。遺構内から11点、遺構外から9点の計20点が出土し、チャート製が2点、珪質頁岩製が18点である。素材は縦長剥片が11点、横長剥片が4点、矩形が2点、折損等により不明のものが3点である。図29-11は片面の二側縁に直線的な二次加工を部分的に施す。

微細剥離痕のある剥片(図29-20、図30-9・10)

使用痕と推定される微細な剥離痕を有する一群である。遺構内から13点、遺構外から8点の計21点が出土し、すべて珪質頁岩製である。素材は縦長剥片が7点、横長剥片が8点、矩形剥片が3点、不明のものが3点である。すべて鋭利な側縁に剥離痕を形成する。図30-10は背面の鋭利な右側縁に断続的な剥離痕が見られ、一部抉れる箇所もある。さらに、この面には微量のタール状物質が付着している。

石核(図29-12、図30-6・7、図31-5)

遺構内から4点、遺構外から2点の計6点が出土した。すべて珪質頁岩製である。打面を転移しながら剥片を剥離する多面体石核が多いが、図29-12は求心的な交互剥離により剥片剥離を実施する。図30-6・7は接合資料である。第35号土坑(平成20年度調査)の覆土上層から出土した同一母岩と識別される剥片を接合した結果、原礫の形状に復元された資料で、接合時の総重量は518.6g、剥片18点と石核1点から構成されている。剥片剥離の第一の工程で高さ約12cm、幅約9cm、厚さ約5cmの直方体の素材の頂部に左方向の剥離により形成された剥離面を打面として、上方向からの打撃により縦長剥片を2点を連続して剥離する。次の工程において正面左側へ90°に打面の転移を行い、打面を縁辺に沿って打点を左右に後退しながら右方向から連続して縦長剥片8点を剥離する。ここで正面右側面に上方向からの打撃による剥離で形成された剥離作業面を打面に、右方向からの打撃で縦長剥片1点が剥離され、さらにこの剥離作業面を打面に正面右側面において上方向から不定型な縦長剥片1点と矩形剥片1点を剥離する。これらを剥離した剥離作業面から腹面で不定型剥片1点が剥離されている。

礫石器

分類は昨年度の調査報告(2009 砂子瀬遺跡・水上(3)遺跡・水上(4)遺跡 青森県教育委員会第466集)のものに準拠する。

使用痕が擦りのみのもの(図32-5)

遺構外から1点出土した。安山岩製である。厚手の円礫の片面を使用する。

使用痕が擦り+叩きのもの(図29-13、図30-14)

遺構内から2点出土し、どちらも安山岩製である。図29-13はつぶれた球形の礫の2面を使用する。図30-14は扁平で不整形な礫の片面を使用する。

使用痕が擦り+凹みのもの(図30-15)

遺構内から1点出土した。安山岩製である。扁平な楕円礫の両面に擦りと凹み、側縁に凹みの痕跡が残る。

使用痕が叩きのみのもの(図29-16、図32-6・7)

遺構内外から2点ずつ、計4点出土した(1点は図示していない)。安山岩製が2点、砂岩製と凝灰岩製が1点ずつである。遺構内出土の2点は球礫と扁平な円礫(図29-16)の一面だけを使用する。遺構外の2点は断面形が三角形で長楕円形の礫の平坦面や頂部、上下の端部を使用する。

使用痕が凹みのみのもの(図32-8・10)

遺構外から2点出土した。安山岩製と凝灰岩製が1点ずつである。図32-8は楕円礫の中央より上の部分を両面で使用している。敲打に長楕円形の礫を用いる場合、その使用痕は中央から上下どちらかの端部よりに位置し、表裏・側面でおおむね一直線上に並ぶ。9は断面が三角形の礫の平坦面をすべて使用する。

磨斧(図32-9・11)

遺構外から1点出土した。緑色凝灰岩製である。基部を折損し、丸刃で整形時の擦痕が表裏全面に残る。

(佐藤)

3 土製品

平成21年度の調査で縄文時代の土製品が遺構外から1点出土している。

不明土製品(図32-12)

両端ともに欠損しているが、上部から下部にかけてやや窄まる形態で、丁寧なミガキによって整形されている。何かの脚の可能性が考えられる。

(中嶋)

4 石製品

有孔石製品(図32-13)

遺構外から1点出土した。凝灰岩製で、五角形状の扁平な礫の表裏面を研磨している。表裏両面から穿孔しているが、未貫通である。

(佐藤)

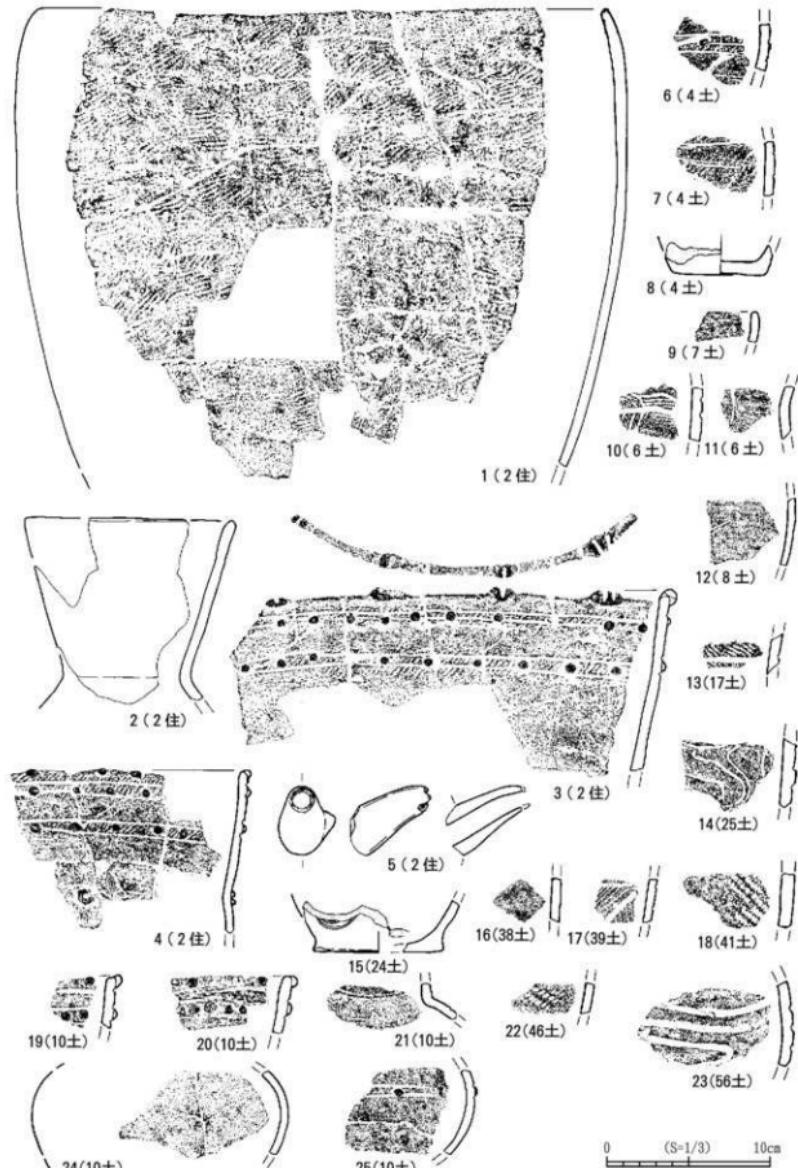


図24 遺構内出土土器 (1)

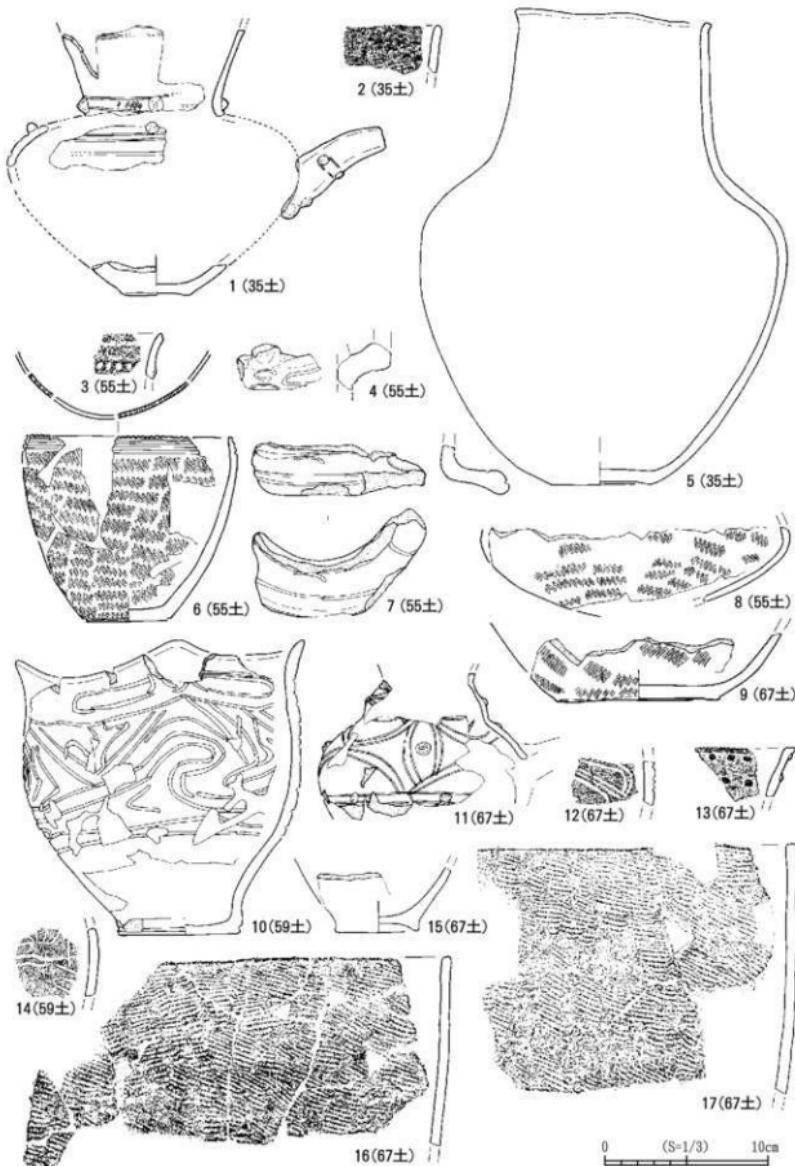


図25 遺構内出土土器 (2)

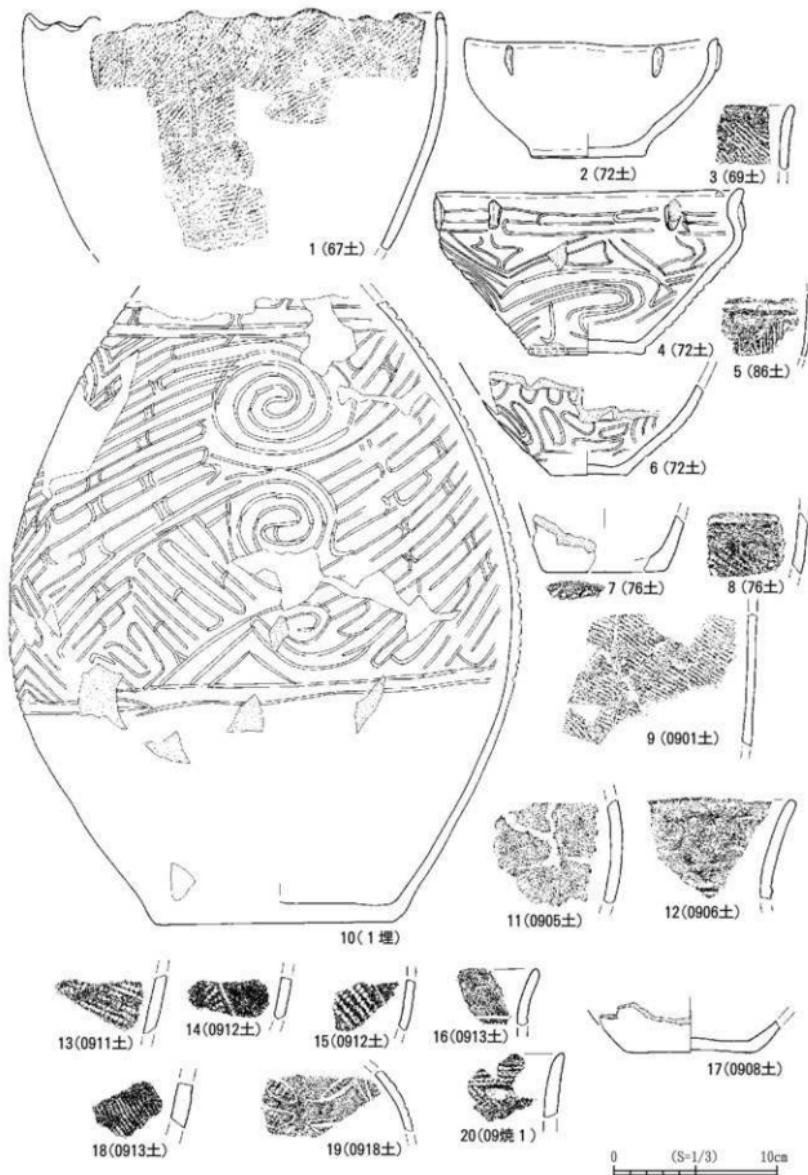


図26 遺構内出土土器(3)

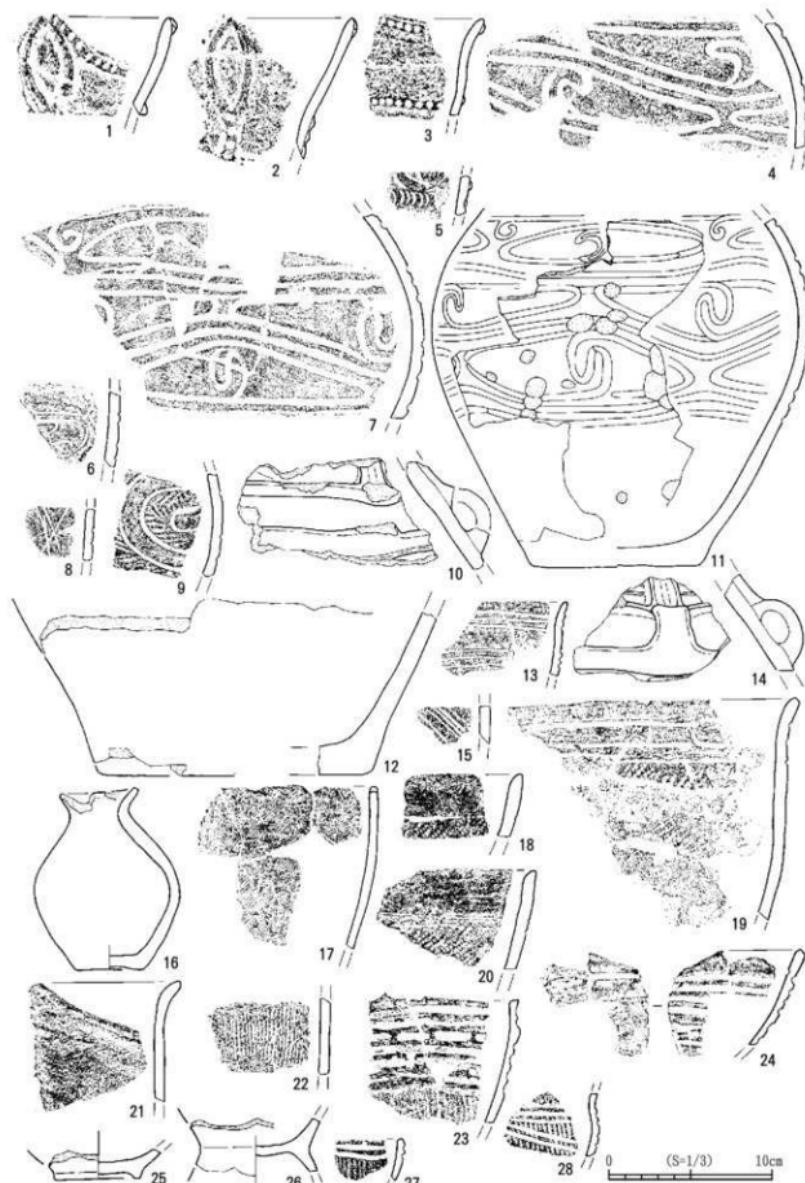


図27 遺構外出土土器 (1)

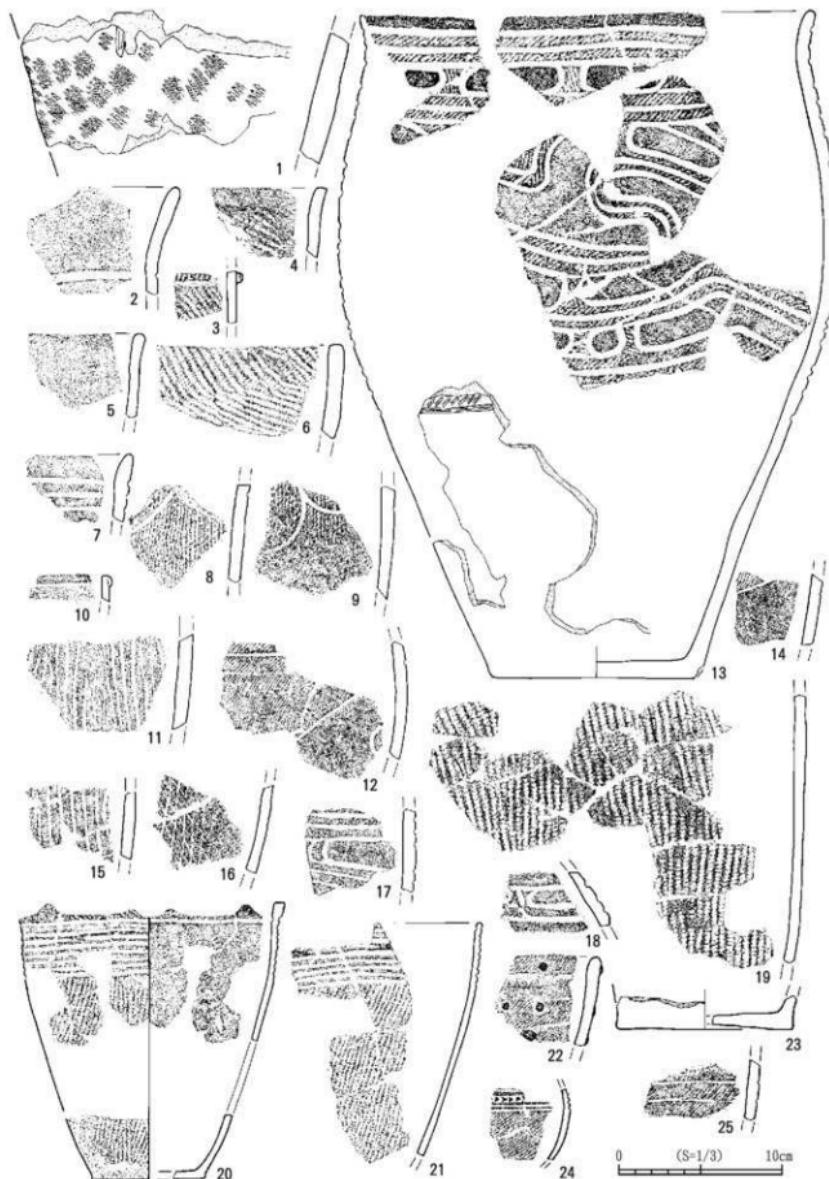


図28 遺構外出土土器(2)

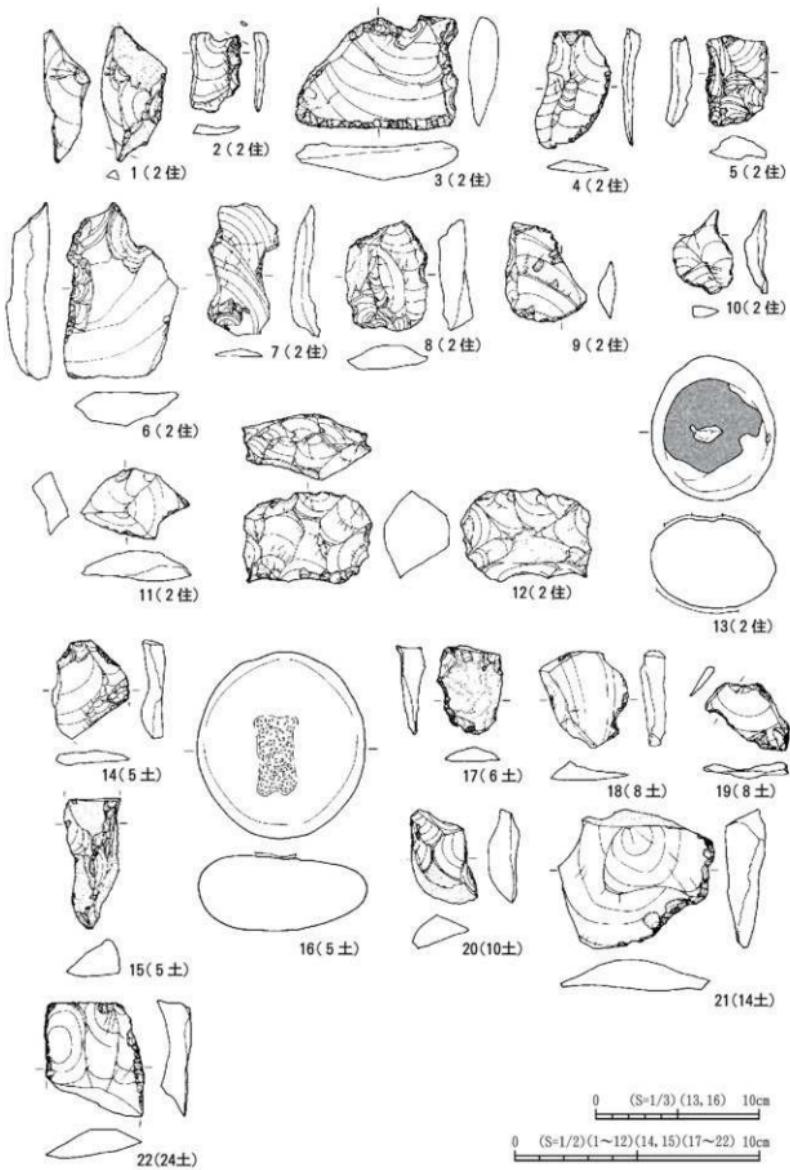


図29 遺構内出土石器(1)

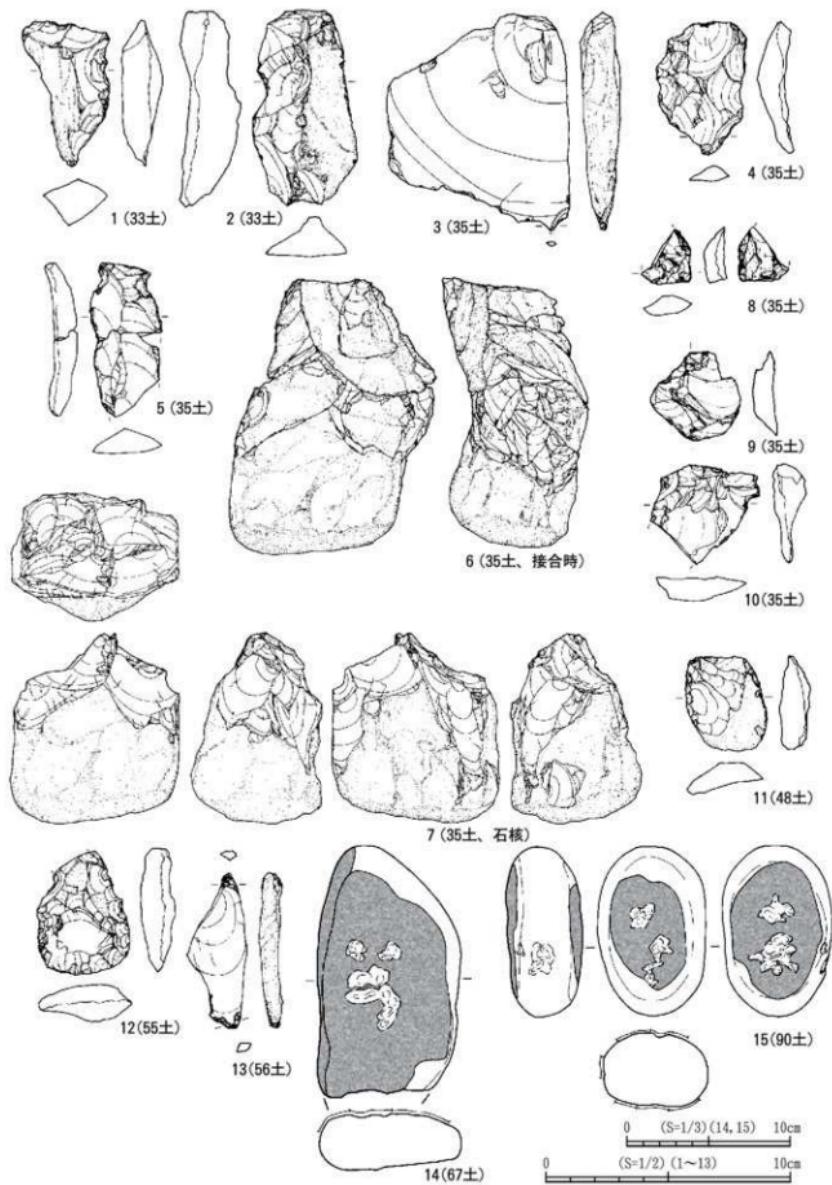


図30 遺構内出土石器(2)

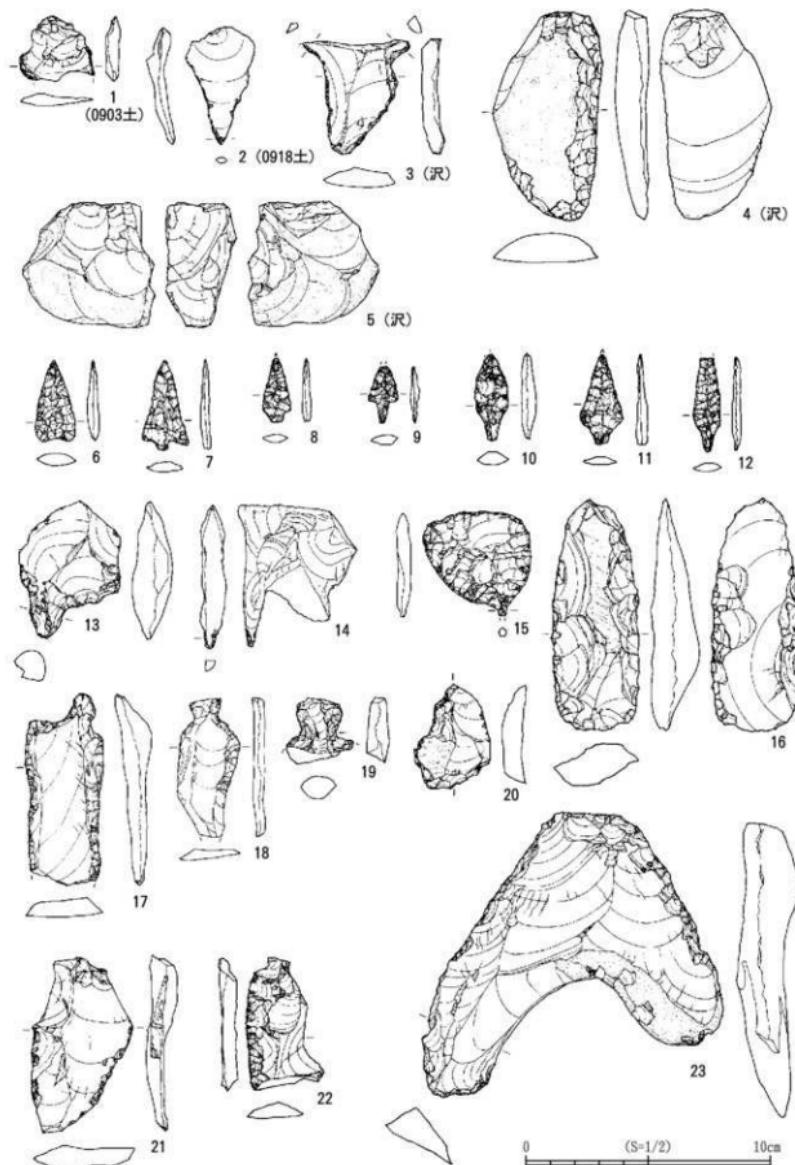


図31 遺構外出土石器(1)

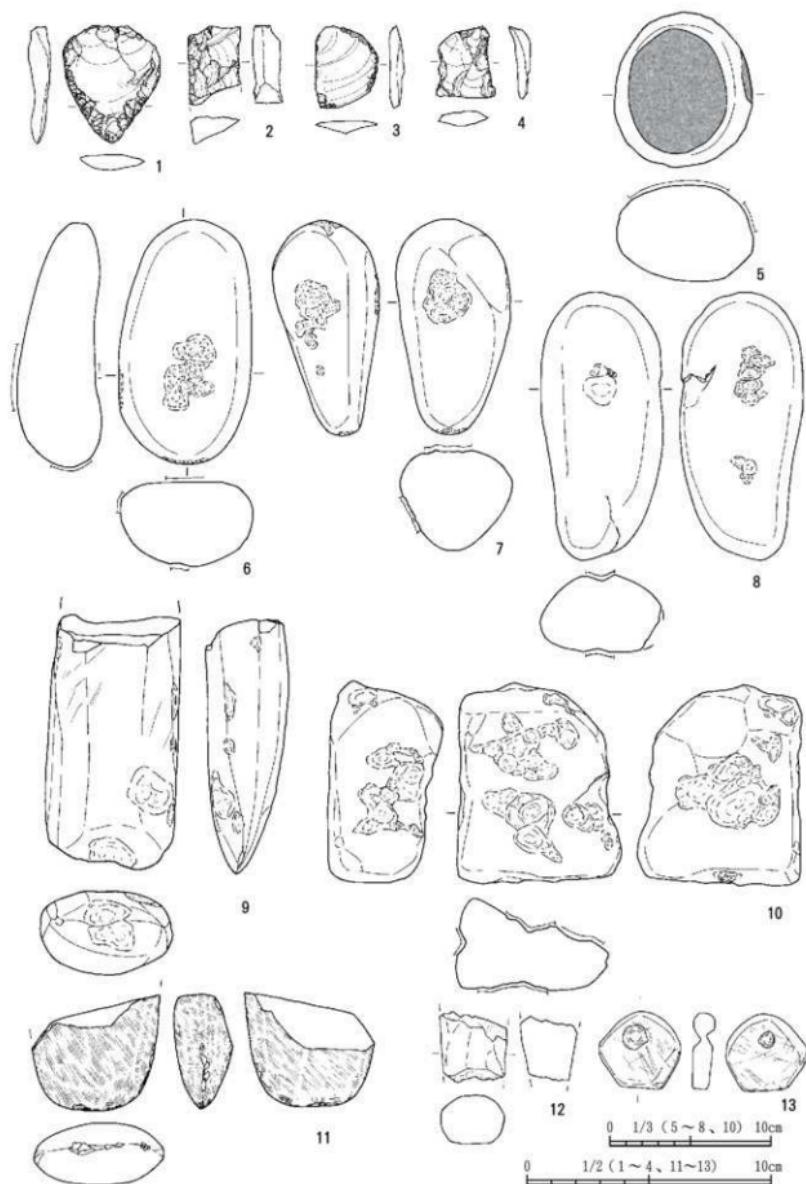


図32 遺構外出土石器(2)・土製品・石製品

第4節 理化学的分析

1. 放射性炭素年代測定結果(AMS測定)(抄)

株式会社分析研究所

第1項 平成20年度発掘調査出土試料

1 測定対象試料

砂子瀬遺跡は、青森県中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字宮元(北緯40°31'48", 東経140°14'37")に所在する。測定対象試料は、E区第6号土坑(ESK06)底層から出土した木炭(SUNAKOSE-0803: IAAA-82249・図5参照)、E区第35号土坑(ESK35)底層から出土した木炭(SUNAKOSE-0804: IAAA-82250・図9参照)、E区第2号竪穴遺構(ESI02)9層から出土した木炭(SUNAKOSE-0805: IAAA-82251・図4参照)、合計3点である。

2 測定の意義

土坑の年代を明らかにしたい。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理(AAA: Acid Alkali Acid)により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80°C)を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAAAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80°C)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとしたC-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxII)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として過る年代である。この値は、⁸Cによって補正された値である。¹⁴C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) ⁸Cは、試料炭素の¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰)で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により¹⁴C/¹²Cを測定した場合には表中に(AMS)と注記する。
- (4) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。
- (5) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。历年較正プログラムに入力される値は、下一位を四捨五入しない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によつても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv4.0較正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

6 測定結果

¹⁴C年代は、第6号土坑から出土した木炭が 3060 ± 30 yrBP、第35号土坑から出土した木炭が 3050 ± 40 yrBP、第2号竪穴遺構から出土した木炭が 2970 ± 30 yrBPである。いずれも縄文時代後期後葉に相当する。

試料の炭素含有率は60%以上であり、十分な値であった。化学処理および測定内容に問題はなく、妥当な年代と考えられる。

第2項 平成21年度発掘調査出土試料

1 測定対象試料

砂子瀬遺跡は、青森県中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字宮元（北緯40°31'48"、東経140°14'37"）に所在する。測定対象試料は、E区第0912号土坑出土木炭（SUNAKOSE-0901：IAAA-92215・図20参照）、E区第0918号土坑出土木炭（SUNAKOSE-0902：IAAA-92216・図21参照）、合計2点である。

2 測定の意義

炭化物を採集した土坑の年代を明らかにする。

3～5は、第1項と同様なため、省略する。

6 測定結果

砂子瀬遺跡出土試料の¹⁴C年代は、E区第0912号土坑出土のSUNAKOSE-0901が3350±20yrBP、E区第0918号土坑出土のSUNAKOSE-0902が3410±20yrBPである。いずれも縄文時代後期中葉頃に相当する年代値となっている。

炭素含有率は60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

参考文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19, 355-363
 Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430
 Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363
 Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389
 Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{14}\text{C}$ (‰ (AMS))	δ ¹⁴ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-82249	SUNAKOSE-0803	E区第6号土坑 (ESK06)	底層	木炭	-25.46±0.83	3,060±30	68.29±0.29
IAAA-82250	SUNAKOSE-0804	E区第35号土坑 (ESK35)	底層	木炭	-23.17±0.78	3,050±40	68.42±0.31
IAAA-82251	SUNAKOSE-0805	E区第2号豊穴道構 (ES102)	9層	木炭	-26.25±0.64	2,970±30	69.07±0.29
IAAA-92215	SUNAKOSE-0901	道構：E区第0912号土坑 (SK0912) 層位：6層, C-3	木炭	AAA	-22.81±0.20	3,350±20	65.86±0.16
IAAA-92216	SUNAKOSE-0902	道構：E区第0918号土坑 (SK0918) 層位：8層, C-3	木炭	AAA	-24.90±0.22	3,410±20	65.38±0.16

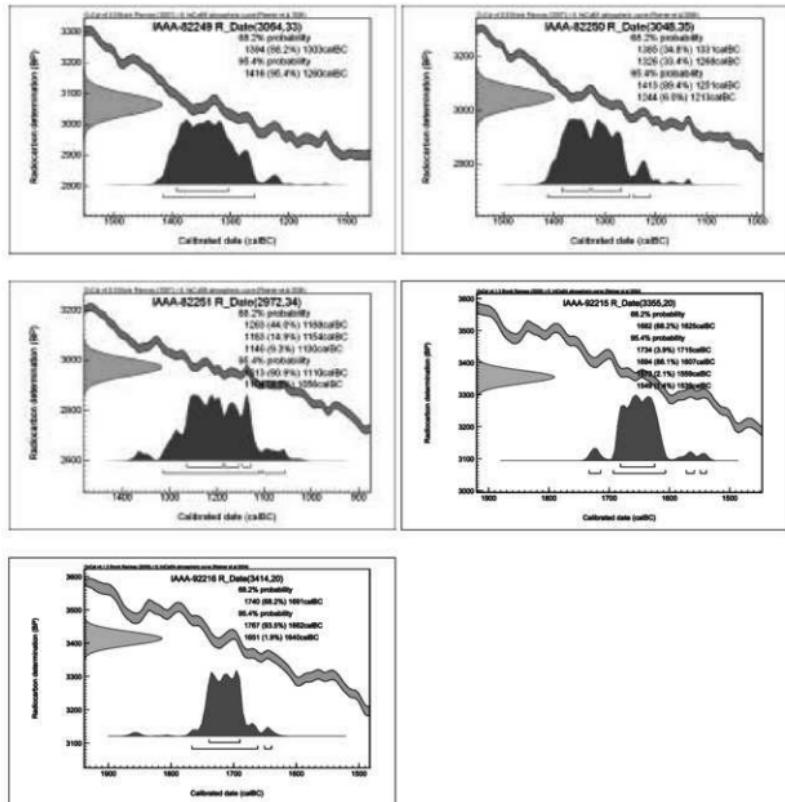
| #2630 - #3349

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ 補正なし		年齢正用 (yrBP)	1σ 年代範囲	2σ 年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82249	3,070±30	68.22±0.26	3,064±33	139BC-130BC (68.2%)	141BC-126BC (95.4%)
IAAA-82250	3,020±30	68.68±0.29	3,048±35	1365BC-1331BC (34.8%) 1326BC-1268BC (33.4%)	1413BC-1251BC (89.4%) 1248BC-1213BC (6.0%)
IAAA-82251	2,990±30	68.90±0.28	2,972±34	1263BC-1188BC (-44.0%) 1183BC-1154BC (14.0%) 1146BC-1130BC (9.3%)	1313BC-1110BC (90.9%) 1104BC-1056BC (4.5%)
IAAA-92215	3,320±20	66.16±0.16	3,355±20	1662BC-1625BC (68.2%)	173ABC-1715BC (3.9%) 169ABC-1607BC (88.1%) 1573BC-1559BC (2.1%) 1549BC-1539BC (1.4%)
IAAA-92216	3,410±20	65.39±0.16	3,414±20	1740BC-1691BC (68.2%)	1767BC-1662BC (93.5%) 1651BC-1649BC (1.9%)

[参考図]

試料番号	IAA Code No.	前處理 方法	試料 状況	試料 前試 重量(g)	回収重 量(g)	燃焼重 量(g)	$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$ 燃焼器	Libby Age (yrBP)	yrBP - 燃込みなし	腐年較正 1σ (yrcalBP)	腐年較正 2σ (yrcalBP)
SUNAKOSE-0803	IAAA-82249	AAA	乾燥	41.31	14.63	4.54	-3.03	-25.46±0.83	3,060±30	3,064±33	1394BC-1303BC (68.2%)
SUNAKOSE-0804	IAAA-82250	AAA	乾燥	66.57	41.44	4.63	3.02	-23.17±0.76	3,050±40	3,048±35	1385BC-1331BC (34.8%)
SUNAKOSE-0805	IAAA-82251	AAA	乾燥	49.75	19.18	4.55	2.86	-26.25±0.64	2,970±30	2,972±34	1263BC-1188BC (44.0%)
										1183BC-1154BC (14.9%)	1313BC-1110BC (90.9%)
										1146BC-1130BC (9.3%)	1104BC-1056BC (4.5%)

試料名	IAA Code No.	前處理 方法	前處理 試料重 量(g)	燃燒試 料重 量(g)	燃燒製 品重 量(g)	測定 回数	$^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比(‰)	$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$ AMS	Libby Age (yrBP)	yrBP - 燃込みなし (1σ 腐年年代範囲)	腐年較正年代 (2σ 腐年年代範囲)	
SUNAKOSE-0901	IAAA-92215	AAA	15.83	8.50	3.06	2.02	13	190613	1,1026	-22.81±0.20	3,350±20	1848BC-1629BC (68.2%)
SUNAKOSE-0902	IAAA-92216	AAA	35.52	24.54	4.73	3.21	14	191664	1,1002	-24.90±0.22	3,410±20	1748BC-1610BC (68.2%)
										1657BC-1640BC (19%)		



第5節まとめ

1 遺跡の立地

砂子瀬遺跡は湯ノ沢川と美山湖に囲まれた標高約190～200mの河岸段丘上に位置し、平成20・21年度に調査を行ったE区は、遺跡南西端の位置にあり、北東側に傾斜する丘陵の斜面上に位置する。

2 検出遺構

調査した遺構は、平成20・21年度合計で、竪穴住居跡1軒、土坑100基、土器埋設遺構1基、焼土遺構1基、ピット266基、沢1条であり、大半の遺構が縄文時代のものと思われる。ピットは縄文時代から近現代にかけての複数の時期に帰属するものと考えられる。

【竪穴住居跡】竪穴住居跡はIII-E-54・55グリッドで1軒検出した。出土遺物や放射性炭素年代測定の状況から、縄文時代後期後葉に帰属すると思われる。土坑として報告した第46号土坑は、遺構の様相から、竪穴住居跡の可能性もある。

【土坑】 III-B～III-G-45～50グリッド付近は、遺構確認時に暗褐色土が集中して検出されたことから、当初沢と認識していたが、精査の結果、土坑の集中域であることが判明した。確認された土坑は、平面形状が円形を基本とするものと楕円・不定形を呈するものの2種に大別される。平面形状が円形を呈するものや、堆積土が、基本土層第IV層に類似する黄褐色土を多量に含むもの、また炭化種子がまとまって出土するものは、周辺の遺構の様相から、フラスコ型土坑の可能性があるものと思われた。

III-A～III-G-52～57グリッド付近の土坑は、平面規模が直径約1mから1.5mを測るものが多く、比較的中～小型のものが多い。本群の土坑は、土器や石器等の遺物の出土量や種類が比較的多い。特に第35号土坑からは、堆積土上層で深鉢1個体が横倒しの状態で出土し、また堆積土中層からは、相互に接合する石核と複数の剥片が出土するなど、特徴的な遺物出土例がみられる。

【土器埋設遺構】土器埋設遺構は1基のみの検出であり、土坑が集中し分布するIII-B～III-G-45～50グリッドの南端に位置している。土器内部からは微細遺物も出土しておらず、遺構性格は不明である。

【焼土遺構】住宅跡の床下から確認され、覆土上位から縄文時代前期の土器片が1点出土している。遺構の性格は不明である。

【ピット】帰属年代は縄文時代から近現代の可能性があり、掘立柱建物跡の存在も予想されたが、時間的制約で、報告までには至らなかった。

【沢】覆土中から出土した土器が縄文時代後期初頭～前葉が主体であり、出土が覆土の上位に見られることから、当該時期からそれ以降の時期に土砂の堆積がかなりの高さまで進んでいたと考えられる。

3 出土遺物

【土器】土器は縄文時代中期から晩期にかけての土器が出土しており、主体を占めるのは縄文時代後期の土器である。縄文時代中期の土器は、点数は少ないが、III-E-48グリッド付近に集中して出土している。

縄文時代後期初頭～前葉の土器は比較的量が多く、調査区全域から出土しており、特にIII-B～III-G-46～49に集中して出土している。特に本時期の土器は、土坑の堆積土中で浅鉢や鉢が伏せた状態で出土する例がみられる(第59・72号土坑)。

縄文時代後期中葉の土器は出土しておらず、後期後葉の土器は、III-C～III-G-52～55グリッドのみで出土し遺構に伴って出土する例が多い(第4・10・35・67号土坑、第2号竪穴住居跡)。

縄文時代晚期の土器は、点数が少ないがIII E～III H-47～48グリッドに偏在して出土する傾向がみられ、第55号土坑の1層からは注口土器と鉢が出土している。

[石器] 131点のうち遺構内から71点、遺構外から60点が出土しており、遺構外から出土した石器は調査区北側の住居や土坑の周辺に分布する比率が高い。特筆すべき第一の事項として第35号土坑出土の接合資料1点で18点の剥片と1点の石核が原礫の形状に復元された事例が挙げられる。また、石器の組成は剥片石器が120点で出土石器の9割を占め、削器の比率が最も高く、これに二次加工剥片、微細剥離痕を有する剥片、石錐、石鏃、石核、石匙、楔形石器、石箇、搔器が続く。礫石器は敲磨器類で構成され、石器組成に占める割合が著しく低い点が特徴として指摘される。

4まとめ

遺構の分布では、調査区域内の標高の高い地区では遺構密度が低く、低い地区では高くなる傾向が認められる。特にIII B～III G-45～50とIII A～III G-52～58グリッドの2地域に、土坑や竪穴住居跡などの遺構が集中する状況がわかる。

砂子瀬遺跡E区における遺構と遺物の状況を時期別に概観すると、縄文時代中期では土器が少数であるがIII E-48グリッド付近から出土していることから、今回の調査では縄文時代中期に帰属する遺構は認められなかったものの、E区の周辺には、縄文時代中期の遺構の存在が予想される。

縄文時代後期初頭から前葉の遺物を最新とする遺構群は、III B～III G-45～50付近に集中し、本時期の遺物はE区全域から出土している。構成する遺構として、E区では比較的大型で、覆土に伏せた浅鉢や鉢を包含する土坑（第59・72号土坑）、第1号土器埋設遺構などがある。前者の土坑は、平面・壁面形態や掘り込みの深さ、また堆積土の状況から、フラスコ型土坑と思われるものである。

縄文時代後期後葉の遺物が最新である遺構群はII A～III G-52～57グリッドに位置し、本時期の遺構外の遺物はすべて前述の領域内に收まる。この遺構群は、竪穴住居跡と比較的の中～小型の土坑で構成され、遺構内出土遺物が比較的多い（第35・67号土坑）。

第2号竪穴住居跡と第6・0912・0918号土坑出土の炭化物の放射性炭素年代測定の結果、後期中葉～後葉に帰属する年代を示しており、遺物の年代観と合致する結果が得られている。

縄文時代晚期の遺物は出土量は少ないが、第55号土坑と72号ピットとその周辺部であるIII E～G-47～48グリッドと、II Q-65グリッド付近から出土していることから、縄文時代晚期の生活域でもあったことが分かる。

砂子瀬遺跡E区では、縄文時代中期から近現代にかけての人間の生活痕跡が認められた。特に縄文時代後期後葉の遺物を最新とする竪穴住居跡を検出し、土坑を伴う集落跡の一部を検出したことは、砂子瀬遺跡における居住地の展開を考察する上で大きな成果であると思われる。 （佐藤・工藤）

《引用・参考文献》

- 青森県教育委員会 1998 青森県遺跡地図
- 青森県教育委員会 2002 上野尻遺跡III 青森県埋蔵文化財調査報告書第323集
- 青森県教育委員会 2006 川原平(1)・(4) 道路 大川添(1)・(2) 道路 水上遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第409集
- 青森県教育委員会 2009 砂子瀬遺跡・水上(3) 道路・水上(4) 遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第466集
- 國學院大學文学部考古学研究室 1992 柳又道路A地点第2次発掘調査報告書 國學院大學文学部考古学実習報告書21集
- 國學院大學文学部考古学研究室 1992 柳又道路A地点第3次発掘調査報告書 國學院大學文学部考古学実習報告書23集
- 竹岡俊樹 2003 石器の見方 勉誠出版
- 東北地方整備局津軽ダム工事事務所 2005 津軽ダム西目屋地域生活文化調査報告書
- 西目屋村役場 1991 村制施行百周年記念 西目屋村誌

第3章

大川添(2) 遺跡

第3章 大川添(2) 遺跡

第1節 調査方法と整理方法

1 発掘作業の方法

平成15年度に青森県埋蔵文化財調査センターにより、大川添(2) 遺跡の一部について確認調査が実施されたが、今回の調査では、さらに確認調査が必要とされた県道より南側・東側を中心に調査が実施されることとなった。

(1) 測量基準点・水準点の設置・グリッドの設定

調査対象区内に標準の座標と標高を備えた20m間隔の実測基準点を測量業者に委託して設置し、これを基準として4m×4mのグリッドを設定した。各グリッドは、南から北にローマ数字とアルファベット(A~Y)、西から東に算用数字を付けて、その南北隅の組み合わせで呼称した。実測基準点となつたグリッドの国土地標(旧日本測地系)は、IA-0 グリッドがX = 57900.000・Y = -52400.000、IIA-25 グリッドがX = 58000.000・Y = -52300.000、IIIA-50 グリッドがX = 58100.000・Y = -52200.000等である。測量原点には、測量業者のGPS測量機による3級基準点No 2-1(世界測地系でX = 58302.707・Y = -52020.019)、No 2-3(X = 58071.338・Y = -52260.245)、4級基準点No 2-2(X = 58186.890・Y = -52196.540)を使用した。レベル原点も、測量業者のGPS測量機によりBM.4(地盤高209.207m)、BM.5(地盤高214.694m)を与点として実測基準点3点(KBM.3・4・5)に設置し、必要に応じ実測基準点から移動して使用した。

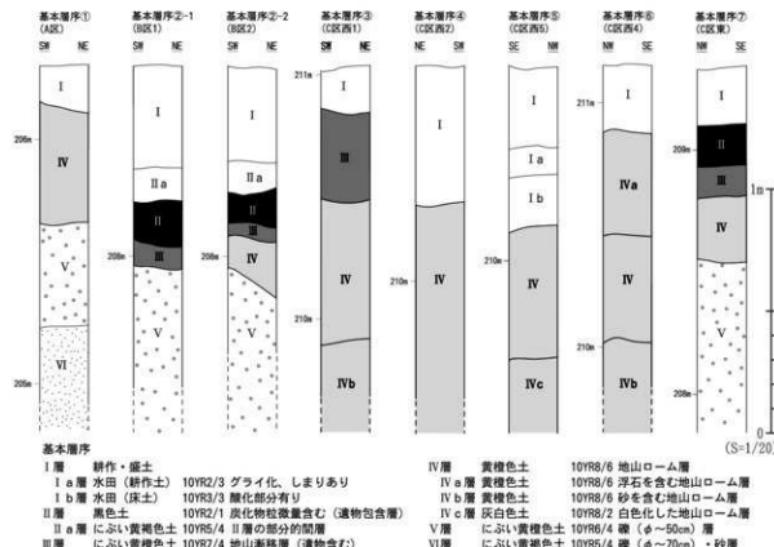


図33 基本層序

(2) 基本土層（図33）

遺跡の基本土層については、表土から順にローマ数字を付けて呼称したが、平成15年度の確認調査時の土層番号とは異なる部分がある。また各層において、含有物の違い等によりアルファベット小文字で細分している層もある。なお、水田・畑の開発や住宅基礎などにより一部削平や造成が行われており、欠落する層が見られる調査区もある。

(3) 試掘坑（トレンチ）の設定・調査

試掘坑（以下トレンチ）は、規模を任意に決め、調査区全体にわたって5～10%を掘削できるよう設定した。表土からの掘り下げは人力を主体としたが、遺構・遺物に支障がない部分は、重機を併用して省力化を図った。出土した遺物は、適宜トレンチ単位で層位毎に取り上げた。トレンチ配置図等の平面図は、主に「遺構実測支援システム」（株式会社CUBIC）を用いてトータルステーションによる測量で作成した。基本土層等の断面図は、簡易造り方測量等で縮尺1/20を中心に作成した。

(4) 写真撮影

写真撮影は、原則として35mmモノクローム、35mmカラーリバーサルの各フィルム及び1220万画素のデジタルカメラを併用し、遺構の検出状況、遺物の出土状況、発掘作業状況等について記録した。また、ラジコンヘリによる遺跡及び調査区域全体の空中写真撮影を業者に委託して行った。

2 整理・報告書作成作業の方法

確認調査の結果、各区における遺構・遺物の有無が明らかとなったため、今後の調査の発展性や周辺の遺跡との関連性などに重点を置いて整理・報告書作成作業を進めた。

(1) 図面類の整理

トレンチ配置図等の平面図は、主にトータルステーションによる測量で作成したので、原図や地形測量図と合成するなどの図面調整を行った。また、基本土層図等の断面図は、各区において土層番号が異なる不具合があったため、整合性を持たせながら柱状図を作成するなどの図面調整を行った。

(2) 写真類の整理

35mmモノクロームフィルムは、撮影順にネガアルバムに収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは、トレンチ番号順、遺物出土状況、作業状況などに整理してスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは、35mmカラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付けた。

(3) 遺物の洗浄・注記と接合・復元

調査区毎に洗浄・注記を行った後、トレンチ配置図をもとにしながら接合・復元作業を行った。遺物の注記は、調査年度、遺跡名、出土区、層位、取り上げ番号等を略記したが、剥片石器等、直接注記できないものは、収納したポリ袋に注記した。

(4) 報告書掲載遺物の選別

遺物全体の分類を適切に行った上で、遺存状態が良く、同類の中で代表的な資料、所属時代・時期・形式・器種等の分かる資料等を主として選別した。

(5) 遺物の観察・図化

充分観察した上で、遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化した。また、遺物台帳・観察表・計測表等を作成した。

(6) 遺構・遺物のトレース・版下作成

遺構・遺物の実測図やその他挿図のトレースは、手作業と「トレースくん」(株式会社CUBIC)を用いたデジタルトレースを併用した。実測図版・写真図版等の版下作成についても、手作業とデジタル機器による作業を併用した。

第2節 調査経過

1 発掘作業の経過(平成20年度)

- 5月7日 発掘器材等を砂子瀬の越冬ブレハブから搬入し、調査事務所・器材庫等の整備及び、周囲の環境整備等を行った。
- 5月8日～ 調査区北側(A区)の確認調査を開始した(調査対象面積700m²)。付け替え道路建設に先立っての調査であったため、全面を確認調査することとした。粗掘は主に人力で行い、部分的に重機を併用して省力化を図った。遺構は土坑2基を検出したため、精査を実施し記録をとった。遺物は縄文時代の土器・石器等が段ボール箱で2箱分出土した。
- 5月23日 調査区北側(A区)の確認調査を開始した(調査対象面積12,000m²)。調査は東側より順次人力でのトレンチ掘りを進め、部分的に重機を併用して省力化を図った。遺構の検出はなく、遺物は縄文時代の土器・石器等が段ボール箱で6箱分出土した。
- 5月27日～ 調査区西側(C区西)の確認調査を開始した(調査対象面積12,000m²)。調査は東側より順次人力でのトレンチ掘りを進め、部分的に重機を併用して省力化を図った。遺構の検出はなく、遺物は縄文時代の土器・石器等が段ボール箱で2箱分出土した。
- 6月1日～ 調査区中央(C区東)の確認調査を開始した(調査対象面積1,000m²)。調査は人力でのトレンチ掘りが中心となった。遺構の検出はなかったが、一部、遺物が集中した区域があり、次年度以降、確認調査の範囲を拡げることとなった。遺物は縄文時代の土器・石器等が段ボール箱4箱分出土した。
- 6月22日 調査区東側(B区)の確認調査を開始した(調査対象面積16,000m²)。一部、盛土による造成が大幅に成されていることがわかり、重機により盛土を撤去することとした。また、東側は杉林であったため、小規模のトレンチ(1×1mなど)を設定して確認調査を行った。中央部低位面から土坑と思われる痕跡を2基確認したため、次年度以降に本調査を行うこととなった。また、西側高位面から遺物を含んだ埋没沢を2箇所検出したため、記録をとって遺物を取り上げた。遺物は縄文時代の土器・石器等が段ボール箱6箱分出土した。
- 10月31日 すべての発掘作業を終了し、発掘器材等を砂子瀬遺跡の越冬ブレハブへ搬入した後、現地から撤収した。

2 整理・報告書作成作業の経過(平成20～21年度)

- 20年11月～ 写真類の整理作業、図面類の整理作業、遺物の洗浄・注記作業を行った。
- 21年1月～ 遺物の接合・復元作業を行った。同時に報告書掲載遺物の選別作業を行い、遺物観察表の作業も併せて行った。
- 10月～ 報告書掲載遺物の実測・拓本等の図化作業を進めた。
- 11月～ 遺構図や図化作業が終了した遺物から順次トレースを行った。
- 12月～ 遺構・遺物は、印刷用の版下を作成した。同時に写真図版の作成も行った。また、調査成果を総合的に検討して、報告書の原稿作成を開始した。
- 22年1月～ 原稿・版下が揃ったので、報告書の割付・編集を行い、印刷業者へ入稿した。
- 3月 3回の校正を経て、報告書を刊行した。最後に記録類・出土品の収納をした。

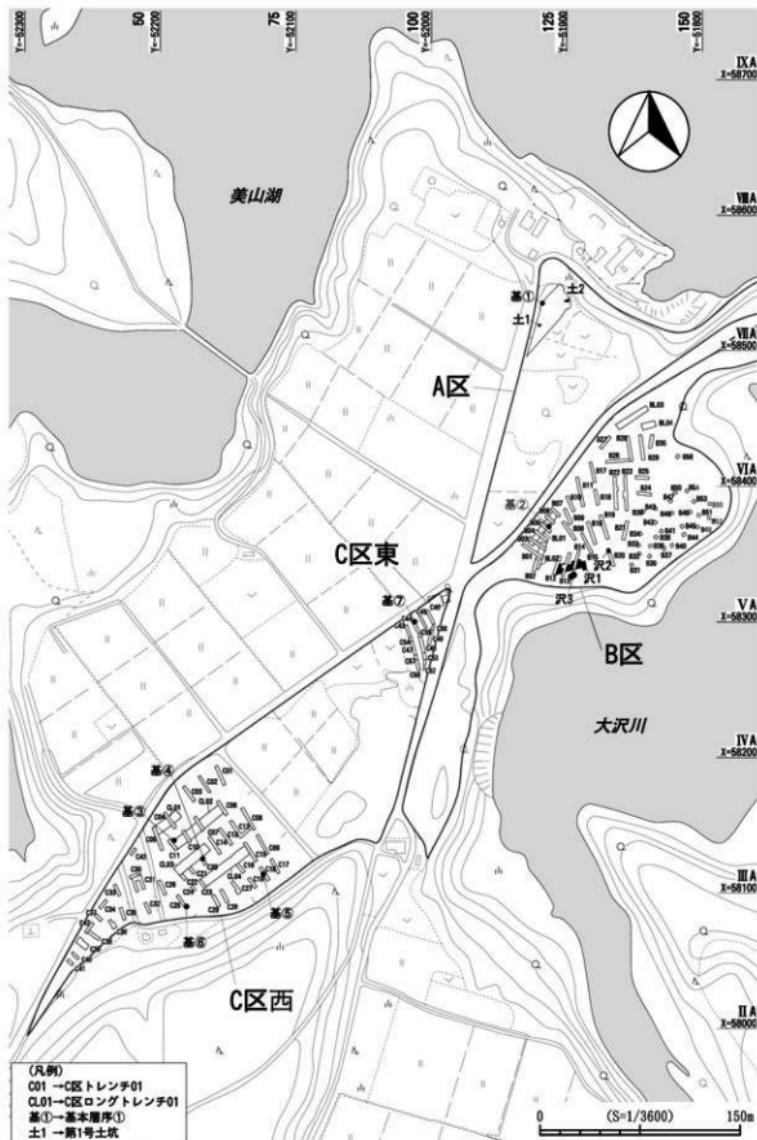


図34 トレンチ配置図

第3節 検出遺構と出土遺物

第1項 検出遺構

遺構は、A区から検出した土坑2基について報告する。

第1号土坑(図35)

調査区中央VII-D-119・120グリッドに位置し、第IV層上で確認した。長軸188cm、短軸160cmの円形を呈し、深さは28cmである。堆積土は、黒褐色土を主体とした単層である。堆積土中から縄文時代の土器小片が1点出土している。

第2号土坑(図35)

調査区北東VII-J-125グリッドに位置し、第III層上で確認した。長軸150cm、短軸134cmの円形を呈し、深さは22cmである。本遺構西側には、水が流れた自然流路跡のような痕跡があるが、本遺構との関連は明確でなかった。堆積土は、黒褐色土を主体とした2層に分層された。堆積土中から縄文時代の土器小片が1点出土している。

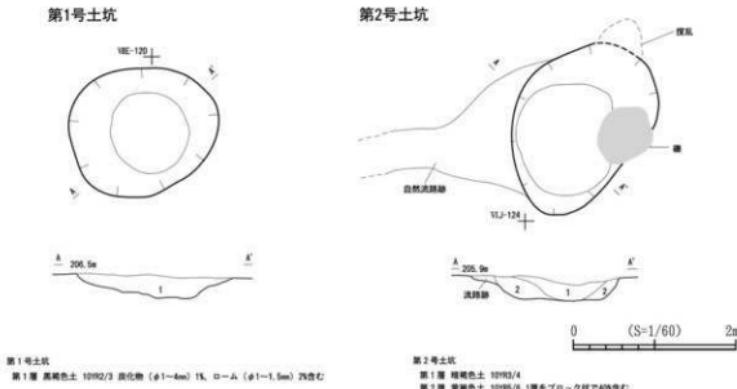


図35 土坑(A区)

第2項 出土遺物

遺物は、各区のトレンチ及びB区の埋没沢1・3(図36)から出土したものを報告する。埋没沢1・3はB区南端に位置し、西側から東側へ流れる自然の沢が埋没したものと考えられる。埋没沢1の底面には水が流れたと思われる凹凸が所々に見られる。なお、立木の関係で沢全体は調査できなかった。埋没沢の層位は、第1層が表土I層相当、第2～3層が基本層序II層相当、第4層は地山の流れ込みなどによる二次堆積土であると考えられる。遺物は主に第2～3層から出土した。

各トレンチでの遺物出土層位はII層を中心で、I・III層からも少数出土している。なお、トレンチ及び埋没沢の位置等については図34を参照いただきたい。

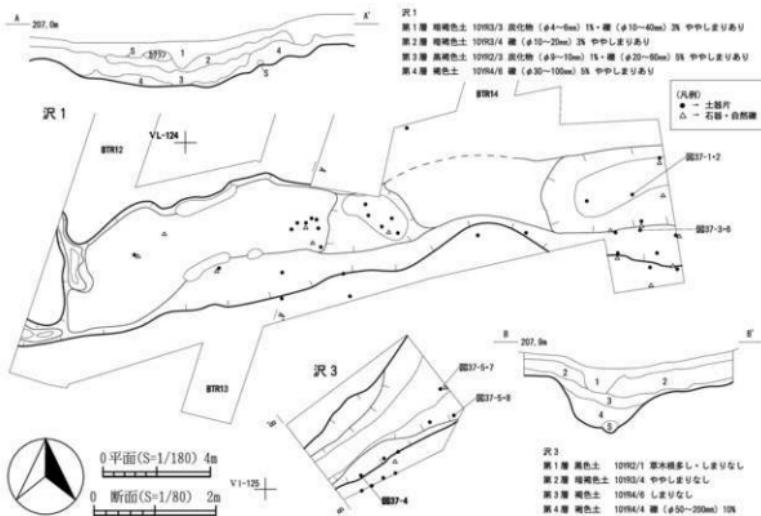


図36 埋没沢（B区）

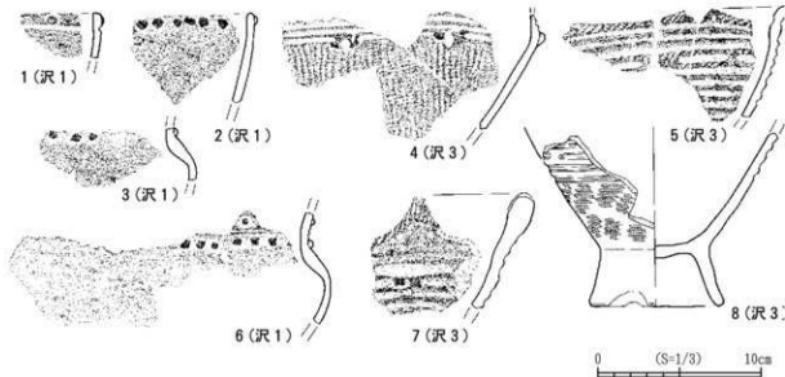


図37 沢（B区）出土遺物

第3項 遺構外の出土遺物

1 土器(図37~40)

大川添(2) 遺跡の調査で出土した縄文土器は、段ボール箱で7箱分(A区1箱、B区3箱、C区3箱)である。調査区は広大なため、地区によって若干だが、時期的に違いが認められる。A区は、出土遺物数は少ないものの概ね後期から晩期、B区は中期末から晩期末葉までと幅広く、C区は中期末から後期後葉の土器を主体としている。

縄文土器の分類にあたっては、砂子瀬遺跡(本報告書第2章第3節第3項参照)に準拠している。
第I群から第II群の土器は出土していない。

第III群 縄文中期の土器

1類 中期前半の土器(図38-3)

粘土紐を貼り付けC字状の側面圧痕を施しているもので、円筒上層b式に比定される。

2類 中期後半の土器(図38-4~10~13・19・22、図40-1~13)

B区では中期中葉の円筒上層d式から最花式にかけての土器がみられ、折返し口縁を持つ土器もみられる。C区では、地文が縄文で沈線を施した中期後半の土器を主体として出土している。

第IV群 縄文後期の土器(図37-1~3・6、図38-1・14~17・20・21、図39-1~26、図40-14~21・23)

1類 後期初頭から前葉の土器

深鉢土器は、沈線文ほかに捺糸文(単軸絡条体第6類)(図39-26)の網目状のものがみられ、粗製(地文が縄文)の深鉢はやや薄手でその形状は口縁部内側に内湾し、底部が比較的小さい。中には厚手で口縁部に側面圧痕を施しているものである。図40-20は鉢形土器で胴部にLRとRLの縄文を施文することにより羽状縄文にみえるものである。また、出土量は少ないものの高台を持つ土器(図38-1、図39-20・24、図40-23)も存在する。いずれも後期初頭の十腰内I式土器とみられる。

3類 後期後葉の土器(図37-1~3・6、図39-18、図40-20)

鉢型土器や壺形土器に粘土瘤が貼付けられるもので、十腰内V式土器と考えられる。

第V群 縄文晚期の土器

1類 晩期前葉の土器(図39-27・28、図40-22)

いずれも鉢形土器で、口縁部に羊歯状文がみられ、27は粘土瘤が貼り付けられているもので、大洞B C式と考えられる。

2類 晩期中葉の土器(図37-4、図39-29・30)

口縁部に平行沈線文がみられ胴部は斜縄文が施文される鉢形土器で、大洞C 2式と考えられる。

3類 晩期末葉の土器(図37-5・7・8)

器形は浅鉢と思われ、口縁部に平行沈線文と胴部に縦位の縄文がみられるもので、内面にも沈線文が施され大洞A式に比定されると思われる。

(中嶋)

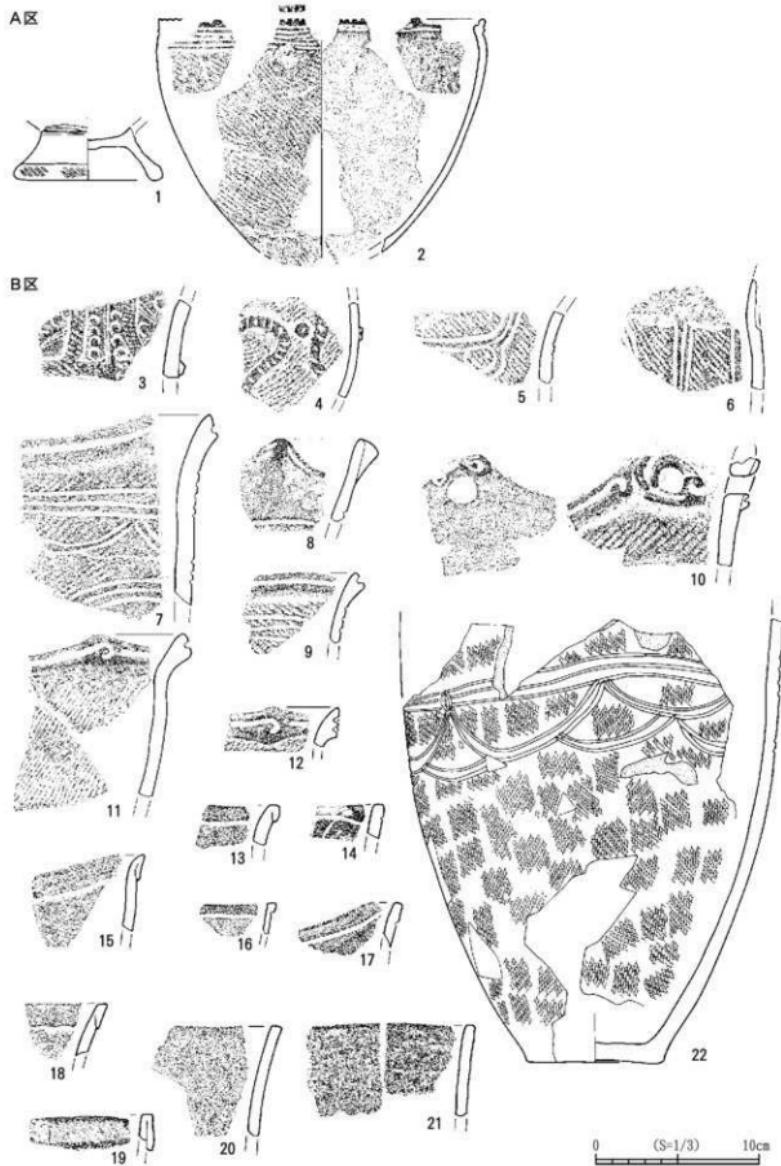


図38 遺構外出土土器(1)

C区



図39 遺構外出土土器(2)

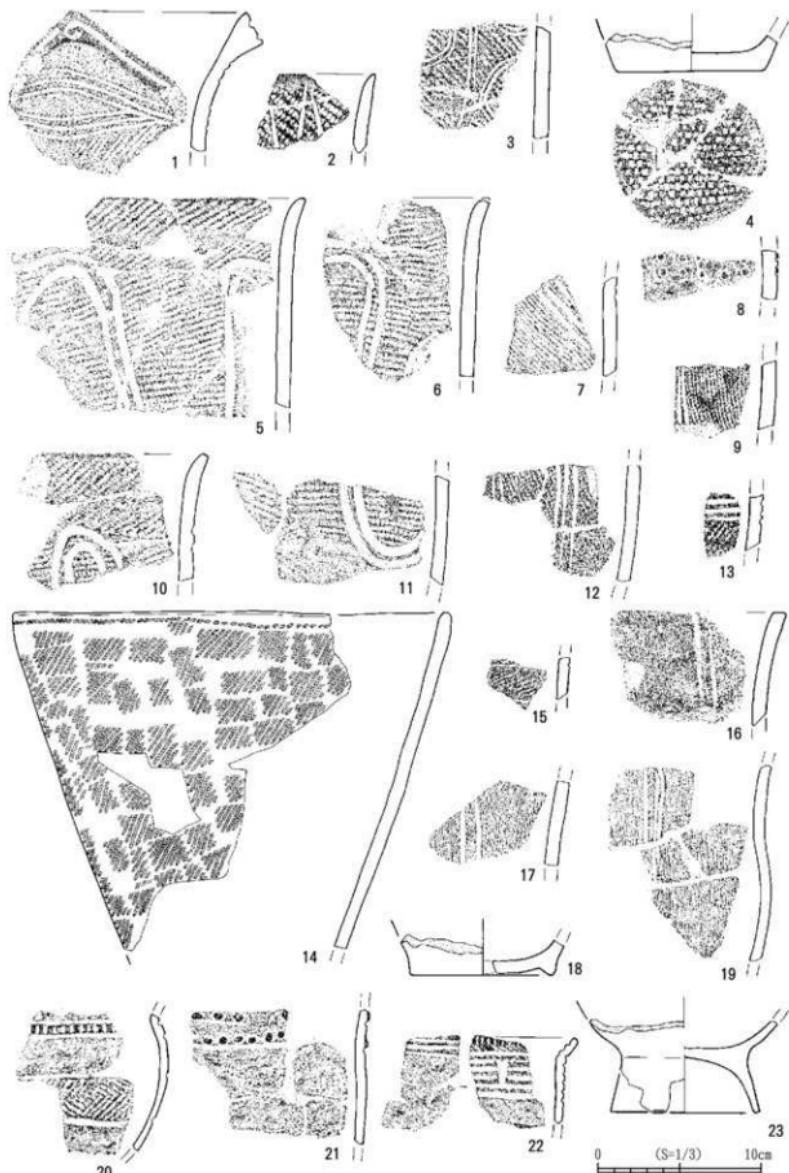


図40 遺構外出土土器(3)

2 石器

今回の試掘調査の結果131点が出土し、うち37点を図示した。内訳は、石鎌が13点、石錐が3点、石匙が4点、石範が1点、捶器が3点、削器が9点、二次加工剥片・両面加工石器・礫器・微細な剥離痕が認められる剥片がそれぞれ1点である。なお20年度をもって確認調査を終了したC区西においては、今回掲載した11点のほか、掲載外遺物として石鎌が2点、石錐未製品が1点、削器が6点、削器未製品が1点、二次加工剥片が2点、微細剥離痕を有する剥片が2点、石核が1点の計15点が出土している。

石鎌 (図41-1～5・18～20、図42-3～7)

13点を図示した。うち図42-7は未製品である。石質は鉄石英製の1点を除き、全て珪質頁岩製である。有茎鎌と無茎鎌はともに6点ずつであり、その内訳は尖基有茎族が4点(図41-1・20、図42-4～6)、凹基有茎鎌が1点(図41-5)、凹基無茎鎌が3点(図41-2・18・19)、平基無茎鎌が2点(図41-3・4)、円基無茎鎌が1点(図42-3)である。なお、これらの形態的特徴には明確な分類が困難な事例もある。

石錐 (図41-21～23)

3点を図示した。図41-21及び図41-23は、珪質頁岩製で剥片の端部に二次加工を施し錐部を作出する。図41-21の錐部は片面からの二次加工により作出され、図41-23は両面からの二次加工により錐部を作出する。図41-22も同様に珪質頁岩を素材とし、素材剥片に成形を目的とした二次加工を施し、端部を錐部とする。

石範 (図41-6)

1点を図示した。珪質頁岩製で縁辺部に二次加工を施す。全体の形状は撥型と考えられるが、基部が折損しているため、詳細は不明である。また、外湾する緩やかな弧状を呈する刃部には明瞭な二次加工はみられず、素材剥片の剥離面を残置する。

捶器 (図41-7・24、図42-8)

3点を図示した。石質は全て珪質頁岩製である。図41-7は下端部に作出された緩斜度を呈する刃部に加え、背面側左側縁部に削器と同様の二次加工を施す。図41-24及び図42-8の刃部角は、図41-7と比べてより急斜度を呈する。

石匙 (図41-8～11)

4点を図示した。石質は全て珪質頁岩製である。横長剥片を素材とした横形石匙が2点、縦長剥片を素材とした縦形石匙が2点であり、刃部は内湾または外湾する形態を呈する。一方、図41-11は、両面对称に二次加工が施され、摘み部の両面にアスファルトが付着する。

削器 (図41-12～15・25～27、図42-1・9)

9点を図示した。石質は全て珪質頁岩製である。刃部の形態や素材剥片に対する二次加工の位置、素材剥片の形態に変異が認められる。

図41-12・25及び図42-1・9は、縦長剥片の左側縁にのみ片面から二次加工を施し、刃部を作出する。刃部は図41-12が直刃、図41-25が緩やかに内湾する形態、図42-1・9が緩やかに外湾する形態を呈する。なお図41-25は、右側縁末端附近に石匙の摘み部に特徴的な剥離を施す。

図41-13は、横長剥片の末端に外湾する刃部を作出する。

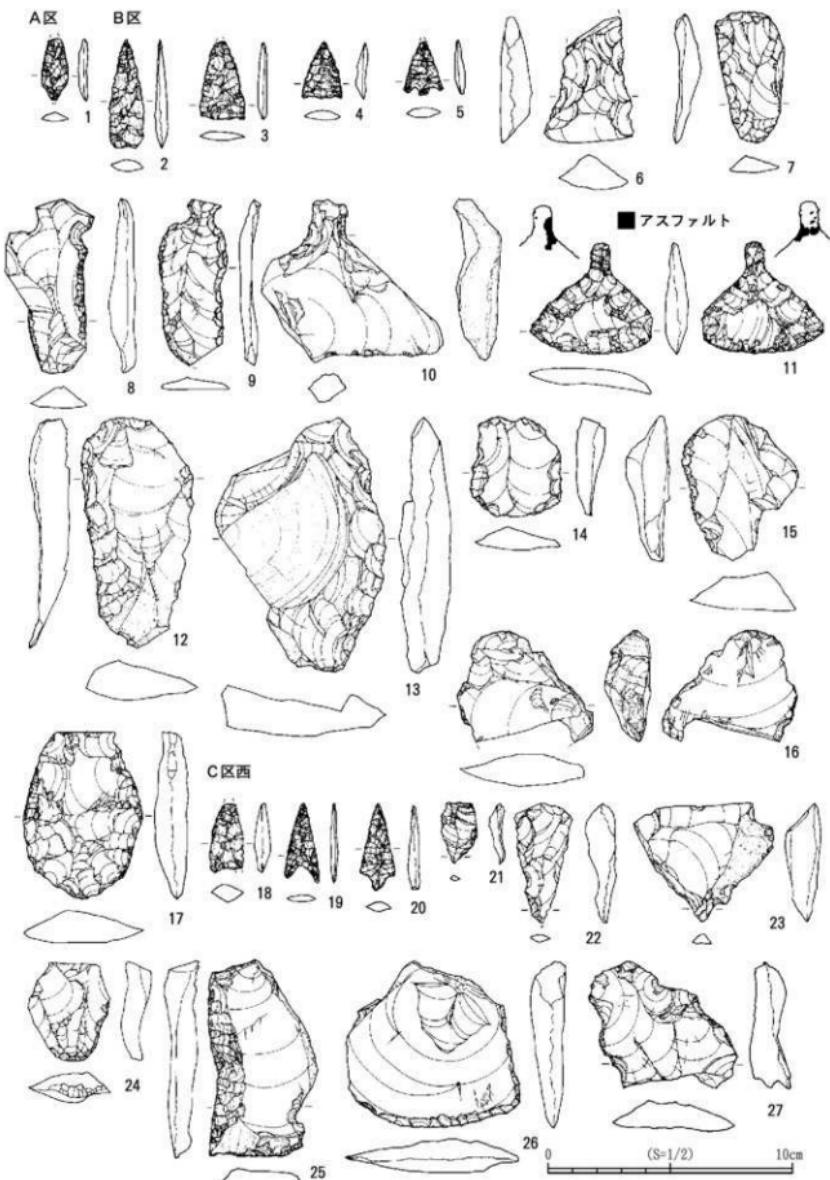


図41 遺構外出土石器(1)

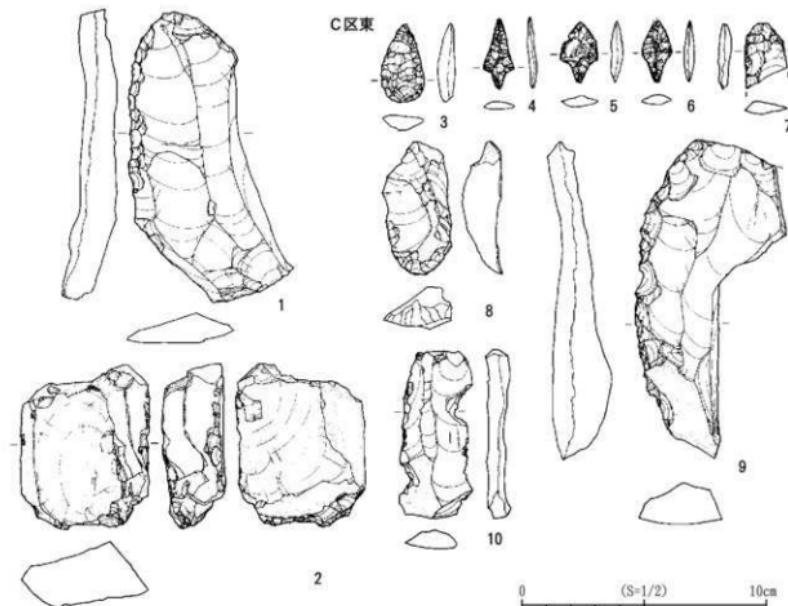


図42 遺構外出土石器(2)

図41-14・27は、素材剥片の両側縁に二次加工を施す例である。図41-14は左右両側縁が外湾する刃部を作出し、一方、図41-27は左右両側縁が緩やかな鋸歯状の刃部を呈する。

図41-15は、素材剥片の背面側左側縁に緩やかに外湾する刃部を作出す。刃部の形態は、先端の細い工具により二次加工を施し、鋸歯状を呈する。

図41-26は、矩形剥片を素材とし、その末端辺に外湾する刃部を作出す。

二次加工剥片(図41-16)

1点を図示した。図41-16は黒曜石製で末端を折損する。左側縁に背面と腹面の両側から部分的な二次加工を施す。

両面加工石器(図41-17)

1点を図示した。珪質頁岩製で表裏全面に二次加工が施される。左右両側縁の二次加工の特徴から、削器に分類される可能性も指摘される。

礫器(図42-2)

1点を図示した。チャート製でやや扁平な直方体の礫を素材とし、その下端及び右側に連続する二次加工を施し、削器に特徴的な刃部を作出す。

微細な剥離痕が認められる剥片(図42-10)

1点を図示した。珪質頁岩の縦長剥片を素材とし、鋭利な背面側左側縁に連続する微細な剥離痕を形成する。

(菅原)

第4節まとめ

1 遺跡の立地

大川添(2)遺跡は津軽地域の西部、岩木川右岸の河岸段丘上に広がる川原平台地北西部に位置する。川原平台地は、岩木川および支流の暗門川・大沢川・大川沿いに分布する砂礫台地である。遺跡は、標高約205～210mの平坦面に立地しており、一部造成、開墾等による盛土や削平区域が見られ、現況は主に畑地や植林された杉林である。

2 検出遺構

発掘調査により検出した遺構は、A区の土坑2基である。構築時期は、出土遺物等から縄文時代と考えられるが、時期に関しては判断できなかった。なお、B区では土坑2基を確認したが未調査である。C区では遺構は確認されなかった。

3 出土遺物

出土した遺物は土器・石器を中心で、段ボール箱で18箱分である。時期は、縄文時代中期から晩期にかけての遺物である。

4 まとめ

調査の結果、A区から縄文時代と思われる土坑2基を検出したため、A区を含む周辺の地域について今後調査し、遺構・遺物の分布を確認する必要があるものと考えられる。また、試掘調査の結果、B区及びC区東から遺構や遺物の集中する区域が確認されたため、次年度以降、本格的な発掘調査が必要であると思われる。

遺物は、縄文時代中期から晩期までの土器が出土しており、特に、A～C区の出土土器は時期差が確認されている。そのため、今後の調査で集落の動きが確認されることも期待されるところであり、今後の調査成果に期待したい。

(新山・菅原)



C区東作業風景 南→

土器觀察表

08砂子瀬遺跡 遺構内①

図版番号	出土位置・層位	器種	部位	外面文様	内部調整	分類	備考
E024-1	2往 BB-54 底部	深鉢	口縁～脚部	波綱文	1ガホ	IV	P-4 内外磨滅、外面スヌ状化物付着
E024-2	2往 BB-54 中・下部	鉢	(口縁部)	無文(ミガラ)	1ガホ?	IV	P-3, 4 内外磨滅
E024-3	2往 BB-54 1・5・底部	深鉢	(口縁～脚部)	波綱文(波綱付) 波綱文(波綱付) 波綱文	1ガホ	IV	P-6, 8, 11
E024-4	2往 BB-54 肩部	深鉢	(口縁部)	波綱 文(波綱付) 波綱 文(波綱付) 波綱文	1ガホ	IV	P-3 内外磨滅
E024-5	2往 BB-54 中部	口口土器	(口縁部分)	無文(ミガラ)	1ガホ	IV	無減
E024-6	SK-04 BB-52・BB-52 上部	鉢?	鉢	波綱 文(波綱付) BB-52	1ガホ	IV	無減
E024-7	SK-04 BB-52・BB-52 下部	鉢?	鉢	波綱 文(波綱付) 波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	無減
E024-8	SK-04(BP-11) BB-52 肩部	鉢	底部	波綱文(ミガラ)	1ガホ	IV	P-1
E024-9	SK-07 BB-52 上部	鉢?	口縁部	波綱文(ミガラ)	1ガホ	IV	無減
E024-10	SK-06 BB-51 1層	鉢?	鉢	波綱 文(波綱付) 波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	無減
E024-11	SK-06 BB-52 肩部・上部	(口縁)	鉢	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	無減
E024-12	SK-08 BB-52 底部	鉢?	鉢	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	無減
E024-13	SK-17 HY-51 1層	深鉢	鉢	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	無減
E024-14	SK-25 BB-47 2層	深鉢	鉢	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	無減
E024-15	SK-24 BB-47 中層	鉢?	鉢	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	無減
E024-16	SK-38 BB-55 上部	鉢?	鉢	波綱文(ミガラ)	1ガホ	IV	無減
E024-17	SK-39 BB-55 上部	鉢	鉢	波綱文(ミガラ)	1ガホ	IV	無減
E024-18	SK-41 BB-55 上部	深鉢	鉢	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	内外磨滅
E024-19	SK-10 BB-52 肩部	深鉢	(口縁部)	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	内外磨滅
E024-20	SK-10 BB-52 中部	深鉢	(口縁部)	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	内外スヌ状化物付着
E024-21	SK-10 BB-52 中層	口口土器	鉢	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	内外磨滅
E024-22	SK-06 BB-46 中層	深鉢?	鉢	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	内外磨滅
E024-23	SK-06 BB-48 底部	鉢	鉢	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	内外磨滅
E024-24	SK-10 BB-52 中・下部	口口土器	鉢	無文(ミガラ)	1ガホ	IV	P-2
E024-25	SK-10 BB-52 上部・底部	口口土器	鉢	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	内外磨滅

08砂子瀬遺跡 遺構内②

図版番号	出土位置・層位	器種	部位	外面文様	内部調整	分類	備考
E025-1	SK-05 BB-53 中部・底部	口口土器	口上復元	波綱 文(波綱付) BB-53	1ガホ	IV	P-1, 2 内外磨滅、波綱文(波綱付)(2件)
E025-2	SK-05 BB-53 中部	深鉢	口縁部	無文(ミガラ)	1ガホ	IV	内外スヌ状化物付着
E025-3	SK-05 BB-53 中部	鉢	口縁部	波綱 文(波綱付) 波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	1-7 下・内外磨滅
E025-4	SK-05 BB-53 中部・底部	鉢	口縁部	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	無減
E025-5	SK-05 BB-55 上部・覆土	鉢	鉢	波綱文(ミガラ)	1ガホ	IV	P-1 外面磨滅
E025-6	SK-55 BB-47 1層	鉢	口縁～底部	口縁部-斜面 口縫部-斜面(3条) 波綱文(波綱付) 波綱文(波綱付)	1ガホ	V-2	内外面スヌ状化物付着
E025-7	SK-55 BB-47 48 下部・斜面	鉢	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	1-1 初期土器の型	
E025-8	SK-55 BB-47 48 斜面	口口土器	鉢	波綱文(波綱付)	1ガホ	V	内外面磨滅
E025-9	SK-07 BB-52 覆土	深鉢	底部	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	P-10, 18, 85, 152
E025-10	SK-07 BB-47 3層	鉢	元形	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	P-19, 36, 20, 39
E025-11	SK-07 BB-52 覆土	口口土器	鉢	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	P-21, 92, 94, 101, 104, 126, 127, 138, 142, 145, 154, 160, 161
E025-12	SK-07 BB-52 覆土	鉢?	波綱文	1ガホ	IV	P-1 P-51	
E025-13	SK-07 BB-52 覆土	口口土器	波綱文	1ガホ	IV	P-128 内外面スヌ状化物付着	
E025-14	SK-09 BB-47 覆土	深鉢	底部	波綱文(波綱付)	1ガホ	IV	1-1
E025-15	SK-07 BB-52 覆土・底部	鉢	無文(ミガラ)	1ガホ	IV	P-67, 6, 125 内外磨滅	
E025-16	SK-07 BB-52 覆土	深鉢	口縁～脚部	波綱文	1ガホ	IV	P-2, 3, 14, 18, 68, 114, 159 内外スヌ状化物付着
E025-17	SK-07 BB-52 覆土	深鉢	口縁～脚部	波綱文	1ガホ	IV	P-2, 3, 62, 107, 166 内外面スヌ状化物付着

08砂子瀬遺跡 遺構内③

図版番号	出土位置・層位	器種	部位	外面文様	内部調整	分類	備考
E026-1	SK-67 BB-52 覆土	深鉢	口縁～底部	波綱文(波綱文) 波綱文	1ガホ	IV	P-39, 49, 60, 83, 84, 88, 93, 103, 120 内外面スヌ状化物付着
E026-2	SK-72 BB-50 覆土	浅鉢	元形	無文(波綱付)	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-3	SK-69 BB-49 斜方・覆土	深鉢	口縫部	波綱文(波綱文)	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-4	SK-72 BB-50 覆土	鉢	元形	波綱 文(波綱付)	1ガホ	IV	P-2, 2-2
E026-5	SK-86 BB-50 底部	鉢	波綱文(波綱付)	1ガホ	V-2	内外面磨滅	
E026-6	SK-72 BB-50 覆土	浅鉢?	波綱文	1ガホ	IV	P-1, 2, 2 内外面磨滅	
E026-7	SK-76 BB-48 覆土	深鉢	底部	無文(ミガラ) 底・銅代?	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-8	SK-76 BB-48 覆土	深鉢	鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-9	SK-0901 縁段由	鉢	鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-10	縁段1 BB-47 上層・1層・下層・覆土・覆土	大型盆	銅～底部	波綱(毛岳快)	1ガホ	IV	P-1, 7, 9, 10, 14, 16, 17, 18, 22, 24, 25, 27, 33, 28, 29, 40 ~ 45, 46

09砂子瀬遺跡 遺構内

図版番号	出土位置・層位	器種	部位	外面文様	内部調整	分類	備考
E026-11	SK-0905 5層	鉢?	鉢	無文(ミガラ)	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-12	SK-0906 覆土	口口土器?	口縫部	無文(ミガラ)	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-13	SK-0911 覆土	深鉢	鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-14	SK-0912 覆土	深鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面磨滅	
E026-15	SK-0912 覆土	深鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面スヌ状化物付着	
E026-16	SK-0913 覆土	深鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面磨滅	
E026-17	SK-0908 縁段由	鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面磨滅	
E026-18	SK-0913 覆土	鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面磨滅	
E026-19	SK-0918 覆土?	鉢?	鉢	波綱文	1ガホ	IV	内外面磨滅
E026-20	SK-0901 BB-55 3層	深鉢	口縫部 L+鉄柱付 鉢	波綱文?	1ガホ	B	(7件?)

08砂子湖遺跡　遺構外①

遺構番号	出土位置・層位	器種	部位	外因文様	内部調整	分類	備考
BG27-1	III-E-48 直削	深鉢	口縁部	粘土接着付 刺目	1ガキ	Ⅲ	内面磨滅
BG27-2	III-E-48 直削	深鉢	口縁部	粘土接着付 刺目	1ガキ?	Ⅲ	内面磨滅
BG27-3	III-E-48 直削	深鉢	口縁部	粘土接着付 刺目	1ガキ?	Ⅲ	内面磨滅
BG27-4	III-F-48 直削	直?	銅器	沈綻	1ガキ	V-1	
BG27-5	トレンチ 5 BK~L-58・59・60 I層	深鉢	銅器	粘土接着付 刺突	1ガキ?	Ⅲ	内面磨滅
BG27-6	III-C-52 直削	鉢	銅器	沈綻	1ガキ?	V-1	
BG27-7	III-D-49 BK-E-45・46 II層・直削	直?	銅器	沈綻	1ガキ?	V-1	
BG27-8	トレンチ 9 BK~H-59・60 I層	鉢?	銅器	沈綻	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG27-9	III-C-51 I層	直?	銅器	沈綻	1ガキ?	V-1	
BG27-10	III-D-45 直削	直(土器棺)	銅器	沈綻把手 隆起	1ガキ?	V-1	
BG27-11	III-D-45 BK-46 直削・直縫	直?	銅器	沈綻把手 隆起	1ガキ?	V-1	
BG27-12	III-D-45 BK-45・46 直削	直(土器棺)	銅器	無文(ミガリ?)	1ガキ?	V-1	
BG27-13	III-C-52 直削	鉢	銅器	沈綻	1ガキ?	V-1	
BG27-14	III-D-45 直削	直?	銅器	沈綻把手 隆起	1ガキ?	V-1	
BG27-15	トレンチ 9 II-J-K-63・64・65 I層	直?	銅器	沈綻把手 隆起	1ガキ?	V-1	
BG27-16	4号施設木 Ⅲ-B-19・20 上層	小型壺	土形	無文(ミガリ?)	1ガキ?	V-1	
BG27-17	3号施設木 Ⅲ-B-30・31 上層・II層	鉢	口縁部~銅器	口縫-切刃切痕 銅部-沈綻	1ガキ?	V-1	
BG27-18	III-C-41 直削	深鉢	口縁部	沈綻 L継文	1ガキ?	V-1	
BG27-19	III-C-47 鋸切 斧頭	深鉢	口縁部	沈綻 L継文	1ガキ?	V-1	P-1,2 内面一帯剥落
BG27-20	III-F-48 直削	口縁部	沈綻 L継文	1ガキ?	V-1		
BG27-21	III-B-50 直削	口縁部	沈綻	無文(ミガリ?)	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG27-22	III-B-50 直削	銅器	口縫	L継文	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG27-23	pit12 III-H-47 隆土	鉢	口縫~銅部	口縫-横走鋸切 銅部-沈綻(縫) 実42	1ガキ?	V-3	内面スヌ状炭化物付着
BG27-24	III-F-48 G-47 直削	鉢	口縁部	口縫-沈綻	1ガキ?	V-1	
BG27-25	III-F-53 I層	鉢?	底部	2ガキ	1ガキ?	V-1	
BG27-26	III-F-48 直削	台付鉢	底部	無文(ミガリ?)	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG27-27	III-F-48 直削	鉢	口縫部	沈綻 葉筋(茎筋)	1ガキ?	V-2	
BG27-28	III-F-48 直削	鉢	銅器	沈綻 L継文(縫)	1ガキ?	V-3	内面スヌ状炭化物付着

08砂子湖遺跡　遺構外②

遺構番号	出土位置・層位	器種	部位	外因文様	内部調整	分類	備考
BG28-1	III-A-51 隆土	深鉢	銅器	沈綻 L継文(縫)	1ガキ?	Ⅲ	P2,P3 (田1号埋設土器)
BG28-2	トレンチ B-I 層	深鉢	口縁部	沈綻	1ガキ?	Ⅲ	内面磨滅
BG28-3	沢 III-T-53 隆土	深鉢	銅器	粘土接着付 刺目 沈綻	1ガキ?	Ⅲ	内面スヌ状炭化物付着
BG28-4	トレンチ B-I 層	深鉢	口縁部	沈綻	1ガキ?	Ⅲ	内面磨滅
BG28-5	沢 I 層	深鉢	銅器	刺目	(粗い)	V-1	
BG28-6	沢 III-T-53 隆土	深鉢	口縫部	粗刺目	1ガキ?	V-1	
BG28-7	I-J-61 IV層	深鉢	口縫部	沈綻	1ガキ?	V-1	内面スヌ状炭化物付着
BG28-8	沢 III-T-53 I層	深鉢	銅器	沈綻 L継文	1ガキ?	V-1	内面スヌ状炭化物付着
BG28-9	盛土 表段	深鉢	銅器	沈綻	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG28-10	沢 III-T-53 I層	深鉢	口縫部	沈綻	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG28-11	沢 I 層	深鉢	口縫部	沈綻	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG28-12	II-G-43 IV層 BK-64 I層	直?	銅器	沈綻 L継文(文縫)	1ガキ?	V-1	
BG28-13	土器集中0901 I層	深鉢	口縫~底部	沈綻(画面代) 沈綻(文縫)	1ガキ?	P-1,5,8,9,10,11,15,17,21,23,30	
BG28-14	トレンチ B-I 層	深鉢	銅器	沈綻 L継文	1ガキ?	V-1	
BG28-15	沢 III-T-53 隆土	深鉢	銅器	L継文	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG28-16	II-T-53 隆土	深鉢	銅器	L継文	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG28-17	II-T-61 IV層	深鉢	銅器	沈綻	1ガキ?	V-1	内面スヌ状炭化物付着
BG28-18	II-T-61 IV層	直?	銅器	沈綻	1ガキ?	V-1	内面磨滅
BG28-19	II-T-61 IV層 Z-BT-53 備註記・沢 I層	深鉢	銅器	沈綻(縫)	1ガキ?	V-1	
BG28-20	II-G-45 I層	鉢	口縫~底部	口縫-沈綻 沈綻 L継文 銅部-沈綻	1ガキ?	V-3	内面スヌ状炭化物付着
BG28-21	II-G-45 I層	鉢	口縫~銅部	口縫-沈綻 沈綻 L継文 銅部-沈綻	1ガキ?	V-3	内面スヌ状炭化物付着
BG28-22	III-D-54 IV層	深鉢	口縫部	粘土接着付 L継文	1ガキ?	V-3	内面スヌ状炭化物付着
BG28-23	III-V-IV-61-B2 隆土	深鉢?	底部	不明	不明	V-7	内面磨滅(底剥本)
BG28-24	トレンチ 10 I層	鉢	銅器	口縫-沈綻 刺突 銅部-沈綻	1ガキ?	V-1	
BG28-25	トレンチ B-I 層	深鉢	銅器	沈綻 L継文	1ガキ?	V-1	内面磨滅

08大川添(2) 道路 B区 汎

路線番号	出土位置・層位	種類	部位	外面文様	内部調整	分類	備考
6037-1	B区 汎 1 前	鉢	口縁部	沈澱 粘土貼付	1ガホ?	V-3	P-23 内外面削減
6037-2	B区 汎 1 2層	鉢	口縁部	粘土貼付	1ガホ?	V-3	P-23
6037-3	B区 汎 1 2層	浅鉢?	胴部	脚部-粘土貼付 沈澱 『万キ	1ガホ?	V-3	P-27
6037-4	B区 汎 1 2層	浅鉢?	胴部	沈澱 刺突 粘土貼付 沈澱文(縦)	1ガホ?	V-2	P-2 大鉢C
6037-5	B区 汎 1 前	台付鉢	口縁部	沈澱 粘土貼付 沈澱 文	1ガホ?	V-3	P-8 大鉢A
6037-6	B区 汎 1 2層	浅鉢?	胴部	脚部-沈澱 脚部-粘土貼付 『万キ	1ガホ?	V-3	P-23
6037-7	B区 汎 1 前	台付鉢	口縁部	沈澱 粘土貼付	1ガホ?	V-3	P-8 大鉢A
6037-8	B区 汎 1 2層	台付鉢	脚~底部	沈澱 粘土貼文	1ガホ?	V-3	P-8 大鉢A

08大川添(2) 道路 A区 横構外

路線番号	出土位置・層位	種類	部位	外面文様	内部調整	分類	備考
6038-1	A区 漏斗水 4 前上一層	台付鉢?	底部	LR調文	1ガホ?	V-1	A区 3個
6038-2	A区 漏斗水 4 複士一括	鉢	口縁~胴部	口唇部-脚部 口縁部-脚部-底 部文(外縁-内縁-底)	口縁-沈 澱 1ガ ホ?	V-2	大鉢C 2 内外面ススク状化物 付着

08大川添(2) 道路 B区 ① 橫構外

路線番号	出土位置・層位	種類	部位	外面文様	内部調整	分類	備考
6038-3	B区 TR-27 II前	鉢	脚部	粘土貼付L刺突 L脚部	1ガホ?	Ⅲ-1	内外面削減 上巻
6038-4	B区 TR-28 II前	鉢?	脚部	粘土貼付 粘土貼付	1ガホ?	Ⅲ-2	上
6038-5	B区 TR-25 II前	鉢	脚部	沈澱 粘土貼文	1ガホ?	Ⅲ-2	
6038-6	B区 TR-25 II前	鉢	脚部	沈澱 粘土貼文	1ガホ?	Ⅲ-2	
6038-7	B区 TR-23 II前	鉢	脚部	沈澱 LR調文	1ガホ?	Ⅲ-2	P-2 外面削減
6038-8	B区 TR-25 II前	鉢	脚部	沈澱	1ガホ?	Ⅲ-2	内外面削減
6038-9	B区 TR-52 II前	鉢	脚部	沈澱 LR調文	1ガホ?	Ⅲ-2	内外面削減
6038-10	B区 TR-53 II前	鉢	脚部	沈澱 粘土貼付 LR調文	1ガホ?	Ⅲ-2	
6038-11	B区 TR-25 II前	鉢	脚部	沈澱 LR調文	1ガホ?	Ⅲ-1	
6038-12	B区 TR-29 I前	鉢	脚部	沈澱 LR調文	1ガホ?	Ⅲ-2	
6038-13	B区 TR-56 I前	浅鉢?	脚部	折返し口縁	1ガホ?	Ⅲ-2	
6038-14	B区 TR-56 II前	鉢?	口縁部	沈澱	1ガホ?	IV-1	
6038-15	B区 TR-24 II前	鉢?	口縁部	折返し口縁	1ガホ?	IV-1	
6038-16	B区 TR-23 I前	鉢?	口縁部	沈澱	1ガホ?	IV-1	P-3
6038-17	B区 TR-24 II前	鉢?	口縁部	沈澱	1ガホ?	IV-1	
6038-18	B区 TR-23 II前	鉢?	口縁部	折返し口縁	1ガホ?	IV	P-2
6038-19	B区 TR-56 II前	鉢?	口縁部	折返し口縁	1ガホ?	IV	
6038-20	B区 TR-24 III前	鉢?	口縁部	無文(ミガホ)	1ガホ?	IV-1	
6038-21	B区 TR-54 II前	鉢?	口縁部	無文(ミガホ)	1ガホ?	IV-1	
6038-22	B区 TR-48 II前	鉢?	脚部	沈澱 LR+底部文	1ガホ?	IV-2	P-2,3,4,5,6

08大川添(2) 道路 B区 ② 橫構外

路線番号	出土位置・層位	種類	部位	外面文様	内部調整	分類	備考
6039-1	B区 TR-23 I前	陶瓶	口縁部	沈澱	1ガホ?	V-1	P-3
6039-2	B区 TR-23 II前	陶瓶	口縁部	沈澱	1ガホ?	V-1	P-2
6039-3	B区 TR-24 II前	陶瓶	口縁部	折返し口縁?	1ガホ?	V-1	
6039-4	B区 TR-23 I前	陶瓶	脚部	沈澱	1ガホ?	IV-1	P-3
6039-5	B区 TR-23 II前	陶瓶	脚部	沈澱	1ガホ?	IV-1	P-2
6039-6	B区 TR-24 II前	陶瓶	口縁~脚部	沈澱 陰壺	1ガホ?	IV-1	
6039-7	B区 TR-23 I前	陶瓶	脚部	沈澱	1ガホ?	IV-1	P-3 内外面削減
6039-8	B区 TR-23 I前	陶瓶	脚部	沈澱(満た付)	1ガホ?	IV-1	P-3
6039-9	B区 TR-23 II前	陶瓶	脚部	沈澱	1ガホ?	IV-1	P-4
6039-10	B区 TR-24 II前	陶瓶	脚部	沈澱	1ガホ?	IV-1	
6039-11	B区 TR-56 I前	鉢	脚部	沈澱	1ガホ?	IV-1	B区 附側
6039-12	B区 TR-23 I前	鉢	脚部	沈澱(満た付)	1ガホ?	IV-1	P-3
6039-13	B区 TR-52 II前	鉢	脚部	LR調文 隆起文	1ガホ?	IV	
6039-14	B区 TR-54 II前	鉢	脚部	脚部	1ガホ?	IV-1	
6039-15	B区 TR-23 II前	鉢	脚部	LR調文 隆起文	1ガホ?	IV	P-1
6039-16	B区 TR-10 I一括	鉢	口縁~底部	沈澱	1ガホ?	IV	
6039-17	B区 TR-25 II前	鉢?	脚部	沈澱	1ガホ?	IV?	
6039-18	B区 TR-19 I一括	鉢?	口縁部	沈澱 粘土貼付 底部文	1ガホ?	IV-3	
6039-19	B区 TR-32 II前	鉢	底部	無文(ミガホ) 底面-凹面軸	1ガホ?	IV?	
6039-20	B区 TR-28 II前	台付鉢	底部	無文(ミガホ)	1ガホ?	IV	
6039-21	B区 TR-54 II前	陶瓶	口縁部	底部文	1ガホ?	IV-1	
6039-22	B区 TR-23 I前	深鉢?	口縁部	LR調文 底部文	1ガホ?	IV	P-3
6039-23	B区 TR-25 II前	陶瓶	脚部	沈澱 LR調文	1ガホ?	IV	
6039-24	B区 TR-51 II前	台付鉢	底部	無文(ミガホ)	1ガホ?	IV	
6039-25	B区 TR-51 II前	陶瓶	脚部	沈澱	1ガホ?	IV-1	
6039-26	B区 TR-23 II前	陶瓶	脚部	脚部軸踏表面第5類	1ガホ?	IV-1	P-4
6039-27	B区 TR-22 II前	鉢	口縁部	口唇部-脚部 口縁部-脚部-底面	1ガホ?	V-1	大鉢BC 内外面ススク状化物 付着
6039-28	B区 TR-22 II前	鉢	口縁~脚部	口唇部-脚部 口縁部-脚部-底面	1ガホ?	V-1	大鉢BC
6039-29	B区 TR-22 II前	鉢	口縁部	脚部-代謝 脚部-脚部-底面文(縦)	1ガホ?	V-2	内外面ススク状化物付着
6039-30	B区 TR-22 II前	鉢	口縁部	脚部-代謝 脚部-脚部-底面文(縦)	1ガホ?	V-2	内外面ススク状化物付着
6039-31	B区 TR-23 II前	浅鉢?	口縁部	沈澱 LR調文(縦)	1ガホ?	V-3	P-1

08木川瀬(3) 滅跡 C区 清掃外

地区/湖沼(区)	属种	分布	生境	主要特征	保护级别	备注
DG-01	C 区 TB-01 I 档	滇池	山地灌丛	浅绿 叶被文	Ⅰ 级	西南珍稀
DG-02	C 区 TB-02 I + Ⅲ 档	滇池	山地灌丛	浅绿 叶被文	Ⅰ 级	
DG-03	C 区 TB-03 I + Ⅲ 档	滇池	山地灌丛	浅绿 叶被文	Ⅰ 级	西南珍稀
DG-04	C 区 TB-04 I + Ⅲ 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅰ 级	西南珍稀
DG-05	C 区 TB-05 II - III 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	西南珍稀
DG-06	C 区 TB-06 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	P-16
DG-07	C 区 TB-07 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	P-20
DG-08	C 区 TB-08 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	P-20
DG-09	C 区 TB-09 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	P-20
DG-10	C 区 TB-10 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	P-16
DG-11	C 区 TB-11 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	P-16
DG-12	C 区 TB-12 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	P-16
DG-13	C 区 TB-13 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	P-20
DG-14	C 区 TB-14 I + Ⅲ 档	滇池	山地灌丛	深绿 叶被文	Ⅰ 级	IV-1
DG-15	C 区 TB-15 II 档	滇池	低灌木	灰白 叶被文	Ⅱ 级	未见 背水旱生化物附着
DG-16	C 区 板 滇池K5 II 档	滇池	山地灌丛	深绿 叶被文	Ⅰ 级	IV-1 黑褐色+ 外面带薄膜
DG-17	C 区 TB-16 II 档	滇池	低灌木	深绿 叶被文	Ⅱ 级	IV-1
DG-18	C 区 TB-17 II 档	滇池	低灌木	深绿 叶被文 (无毛)	Ⅱ 级	IV-1
DG-19	C 区 TB-18 II 档	滇池	低灌木	深绿 叶被文	Ⅱ 级	IV-1
DG-20	C 区 TB-19 II 档	滇池	低灌木	深绿 叶被文	Ⅱ 级	IV-1
DG-21	C 区 TB-20 II 档	滇池	低灌木	深绿 叶被文	Ⅱ 级	IV-3
DG-22	C 区 TB-21 II 档	滇池	山地灌丛	深绿 叶被文	Ⅰ 级	IV-1
DG-23	C 区 湖泊木 I 档	大盆株	底泥	深绿	不明	Ⅳ-内外而下灰质化物附着

石器 觀察表

砂子灘遺跡

遺跡番号	出土位置	層位	種類	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
DCI-15	BII-63	Ⅲ層	石塊	珪質頁岩	(4.30)	4.50	0.70	10,60	縫接剖片 縫部は複数面も、次加工・先端部折損
DCI-16	斜面上部	透視用土手	石塊	珪質頁岩	9.60	3.60	1.70	63,90	縫接剖片 縫部丸型 様式は、側面と対応の一部を一 度削除して縫合した形態
DCI-17	III-F-54	I層	石塊	珪質頁岩	(7.85)	3.20	0.80	(25,50)	縫接剖片 複数面は横ろたて左側縫に二次加工・下端部折損
DCI-18	III-F-54	I層	石塊	珪質頁岩	(5.70)	2.50	0.40	6,70	縫接剖片 複数面は横ろたて左側縫に二次加工・下端部折損
DCI-19	III-F-51	Ⅲ層	石塊	珪質頁岩	5.70	2.80	0.90	5,50	縫接剖片 複数面は横ろたて左側縫に二次加工・下端部折損
DCI-20	III-F-48	I層	縲革	珪質頁岩	4.30	3.10	1.10	11,40	縫接剖片 右側縫は側状を呈し直面左側縫の一端に一 次加工で削り取った形態
DCI-21	III-F-58	表保	解剖	珪質頁岩	7.10	4.20	1.30	92,70	縫接剖片 現在縫の正面に一次加工
DCI-22	III-G-48	I層	解剖	珪質頁岩	5.40	3.10	0.60	9,70	縫接剖片 現在縫に、次加工は見られない。下端部折損
DCI-23	07トレントン	I層	解剖	珪質頁岩	11.80	12.30	1.90	202,60	縫接剖片 現在縫を「次加工」
DCI-24	07トレントン	Ⅲ層	解剖	珪質頁岩	5.40	3.60	0.90	13,80	縫接剖片 現在縫に、次加工は見られない。
DCI-25	08トレントン	Ⅲ層	解剖	チタニウム	5.60	4.80	1.10	10,50	縫接剖片 現在縫に、次加工は見られない。
DCI-26	08トレントン	Ⅲ層	解剖	珪質頁岩	5.40	4.80	0.90	10,40	縫接剖片 現在縫は側面と対応する縫で、上端部に一次加工
DCI-27	08トレントン	I層	解剖	珪質頁岩	3.80	2.50	0.60	4,00	素面な側面と対応する縫で、側面左側縫の一端に一次加工
DCI-28	08トレントン	Ⅲ層	解剖	珪質頁岩	9.50	8.50	0.60	57,10	やや斜面左側縫の正面に素面
DCI-29	BII-62	Ⅲ層	解剖	珪質頁岩	14.00	8.00	0.90	92,90	鶴丹層の側縫を「側縫」、側縫を用意
DCI-30	BII-62	Ⅲ層	解剖	珪質頁岩	4.70	5.40	1.50	69,80	易筋付で丸く削り、全体に側縫がある

大川添(2) 遺跡

遺跡番号	場所	出土位置	層位	種類	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
DCI-1	A区	WB-121	I	石塊	珪質頁岩	(2.95)	1.05	0.40	(0,90)	実生有乳頭・乳塊・基部穴開
DCI-2	B区K	TK-55	I	石塊	珪質頁岩	4.50	1.50	0.50	2,60	縫接無孔隙
DCI-3	B区K	TK-33	II	石塊	珪質頁岩	(2.00)	1.85	0.40	(1,90)	平滑な右縫・先端欠損・複数面とも右肩側縫から右 平行側縫により成形
DCI-4	B区K	TK-33	II	石塊	珪質頁岩	2.30	1.65	0.50	1,20	平滑な右縫・側縫は左側縫から右側縫に一次加工を施す
DCI-5	B区K	TK-29	II	石塊	砾石岩	(3.30)	1.60	0.40	(1,10)	内部有孔隙・先端欠損・基部の抉りが残る
DCI-6	B区K	TK-29	II	石塊	珪質頁岩	(5.20)	3.70	1.20	(20,30)	縫接剖片 基部側縫・腹面は右肩側縫に一次加工を施す
DCI-7	B区K	TK-29	II	砾器	珪質頁岩	3.50	2.90	1.50	14,30	縫接剖片 現在縫は側面側左側縫の正面に一次加工を施す 右平行側縫
DCI-8	B区K	TK-25	II	石塊	珪質頁岩	7.15	3.70	2.35	19,10	縫接剖片 現在縫は横ろたてのみ・一次加工を施す
DCI-9	B区K	TK-25	II	石塊	珪質頁岩	(6.80)	2.80	0.90	(11,20)	縫接剖片 一部左肩側縫・腹面は横ろたてのみ・一次加工を 施す
DCI-10	B区K	TK-28	II	石塊	珪質頁岩	6.70	7.50	2.00	61,10	縫接剖片 現在縫に、右側縫を「側縫」として左側縫は複数面のみ・ 右側縫は左側縫から右側縫に一次加工を施す
DCI-11	B区K	TK-19	一括	石块	珪質頁岩	5.50	5.10	0.95	14,10	縫接剖片 背後対称の「側縫」
DCI-12	B区K	TK-10	一括	削器	珪質頁岩	9.35	4.65	1.65	41,10	縫接剖片 背面側縫のみ・一次加工を施す・左側縫に直角 に凹字
DCI-13	B区K	TK-26	II	削器	珪質頁岩	10.55	6.90	1.75	16,40	縫接剖片 背面側縫のみ・一次加工を施す・左側縫に直角 に凹字
DCI-14	B区K	TK-32	II	削器	珪質頁岩	4.10	3.80	1.20	15,00	縫接剖片 背面側縫に一次加工を施し、左肩側縫に外 側を削る刃字を作出
DCI-15	B区K	TK-53	II	削器	珪質頁岩	6.00	4.80	2.10	37,00	縫接剖片 背面側縫に一次加工を施す・左肩側縫に外 側を削る刃字を作出
DCI-16	B区K	TK-19	一括	二次加工削片	石灰岩	(4.60)	5.65	1.90	(33,20)	縫接剖片 末端側縫に背後側縫から一次加工を施す
DCI-17	B区K	TK-33	II	側面加工石器	珪質頁岩	6.80	4.80	1.30	47,00	背後側縫の正面に、次加工を施す・右肩側縫に細い 一次加工みられ、削器の機能性もより
DCI-18	C区西	LTK-4	一括	石塊	珪質頁岩	(2.85)	1.35	0.50	(2,40)	背後無孔隙・先端・基部穴開
DCI-19	C区西	TK-40	II	石塊	珪質頁岩	3.30	1.40	0.30	0,90	同上無孔隙・基部に溝・抉り・左側縫は背面側縫から細かく 削り取る
DCI-20	C区西	LTK-4	一括	石塊	珪質頁岩	5.50	1.40	0.50	1,40	左肩側縫・小孔・兩面裏面に、加工なし・背面側縫及び左側縫に右側縫に一次加工を施す
DCI-21	C区西	TK-07	一括	石塊	珪質頁岩	2.50	1.50	0.60	1,60	同上無孔隙・左肩側縫及び右側縫に右側縫に一次加工を施す
DCI-22	C区西	TK-18	一括	石塊	珪質頁岩	(4.90)	2.40	1.40	(10,90)	縫接剖片 左肩側縫・先端欠損・腹面は背面側縫及び 右側縫に右側縫に一次加工を施す・削り取る
DCI-23	C区西	TK-14	一括	石塊	珪質頁岩	4.90	5.75	1.45	26,50	縫接剖片 背面側縫に右側縫の横部に特徴的な一次加工 を施す・左側縫を削る・右側縫は横部に削り取る
DCI-24	C区西	TK-40	I	砾器	珪質頁岩	4.60	3.30	1.20	12,30	縫接剖片 背面側縫のみ・一次加工を施す
DCI-25	C区西	LTK-2	一括	削器	珪質頁岩	8.00	4.50	1.40	46,60	縫接剖片 右側縫に右側縫の横部に特徴的な一次加工 を施す・左側縫に右側縫に削り取る・削り取る
DCI-26	C区西	TK-4	一括	削器	珪質頁岩	6.80	7.20	1.40	61,10	縫接剖片 右側縫に右側縫に削り取る・削り取る
DCI-27	C区西	TK-10	一括	削器	珪質頁岩	5.10	6.00	1.65	33,90	縫接剖片 左肩側縫に右側縫に削り取る・削り取る
DCI-28	C区西	TK-12	一括	削器	珪質頁岩	11.80	6.70	1.70	99,30	縫接剖片 右側縫に右側縫に削り取る・削り取る
DCI-29	C区西	風原木10	一括	砾器	珪質頁岩	6.70	5.75	2.50	110,10	やや扁平な直方体・側縫及び未端に刃部作成
DCI-30	C区東	TK-54	II	石塊	珪質頁岩	3.20	1.75	0.70	3,20	円筒無孔隙・裏面は左右側縫の縫合部に二次加工を施す
DCI-31	C区東	TK-44	II	石塊	珪質頁岩	2.85	1.25	0.40	0,70	半球有光輝
DCI-32	C区東	TK-47	II	石塊	珪質頁岩	2.50	0.95	0.50	1,70	半球有光輝・表面が大きい・右角形状
DCI-33	C区東	TK-47	II	石塊	珪質頁岩	(2.45)	1.20	0.40	(0,90)	半球有光輝・右肩欠損・左側縫の基部の抉りが残る
DCI-34	C区東	TK-48	II	石塊	珪質頁岩	(2.50)	1.70	3.50	(2,10)	一部を折損
DCI-35	C区東	TK-44	II	砾器	珪質頁岩	5.40	1.60	1.60	16,30	縫接剖片 右側縫は背面からのみ・次加工を施す・腹面側 縫は右側縫に削り取る・右側縫は横部に削り取る程度
DCI-36	C区東	TK-59	II	削器	珪質頁岩	12.95	6.10	2.50	196,10	縫接剖片 腹面側縫は、次加工なし
DCI-37	C区東	TK-45	II	直角有孔隙	珪質頁岩	6.80	3.80	1.60	10,10	穿孔直角有孔隙

土製品・石製品 觀察表

遺跡番号	出土位置	層位	種類	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
DCI-2-13	07トレントン	Ⅲ層	直角有孔隙	珪質頁岩	(1.60)	0.70	0.40	(13,70)	
DCI-2-13	08トレントン	Ⅲ層	直角有孔隙	珪質頁岩	3.30	3.40	0.80	11,10	穿孔未完面

写 真



砂子湖遺跡全景（南→）



砂子瀬地区空撮（北→）



大川添地区空撮（西→）

写真1 砂子瀬・大川添(2) 空中写真



平成20年度調査区域（空撮）



平成21年度調査区域（空撮）

写真2 砂子瀬地区空中写真



第2号竪穴住居跡・第90号土坑完掘（北西→）



第2号竪穴住居跡土層断面 A-A'（北西→）



第2号竪穴住居跡土層断面 B-B'（北東→）



第2号竪穴住居跡炉跡検出状況（北西→）



第2号竪穴住居跡遺物出土状況（北西→）

写真3 砂子瀬遺跡 竪穴住居跡



第1号土坑土層断面（西→）



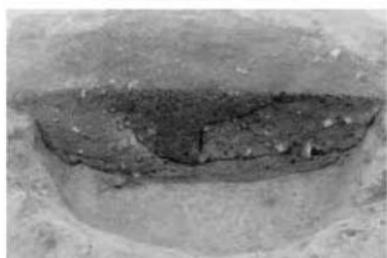
第2号土坑断面（東→）



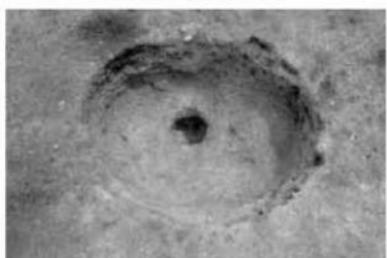
第3号土坑土層断面（南西→）



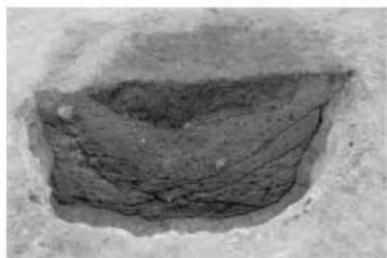
第3号土坑完掘（南西→）



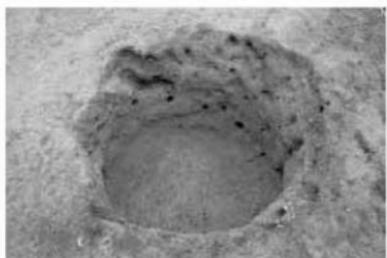
第4号土坑土層断面（西→）



第4号土坑完掘（西→）



第5号土坑土層断面（西→）

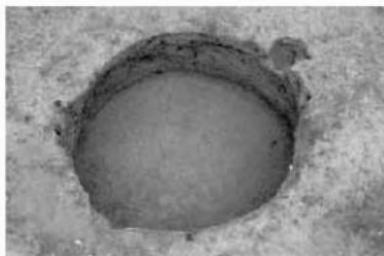


第5号土坑完掘（西→）

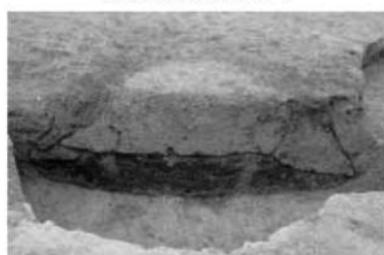
写真4 砂子瀬遺跡 土坑(1)



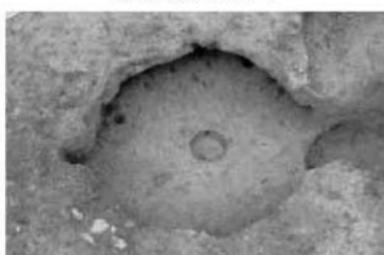
第6号土坑土層断面（西→）



第6号土坑完掘（西→）



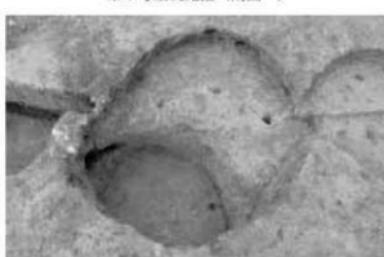
第7号土坑土層断面（南西→）



第7号土坑完掘（南西→）



第8号土坑土層断面（南東→）



第8号土坑完掘（南西→）



第10号土坑土層断面（西→）



第10号土坑完掘（西→）

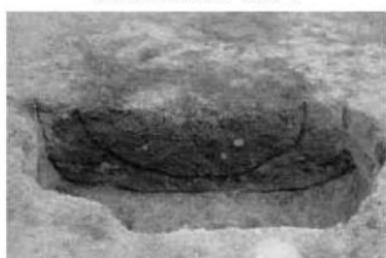
写真5 砂子瀬遺跡 土坑(2)



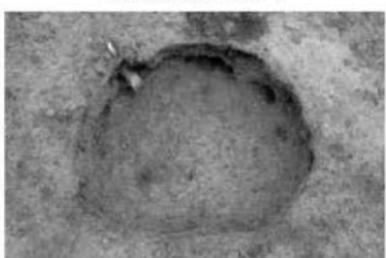
第11号土坑土層断面（南東→）



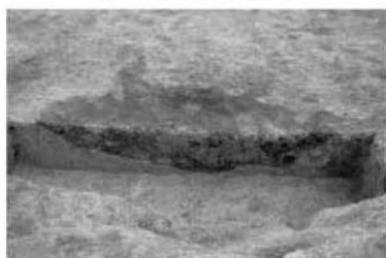
第11号土坑完掘（南東→）



第12号土坑土層断面（南→）



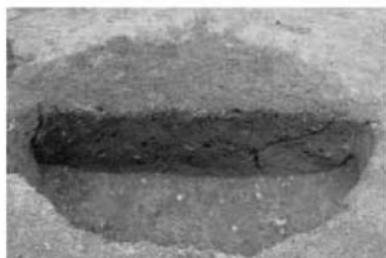
第12号土坑完掘（南→）



第13号土坑土層断面（南西→）



第13号土坑完掘（南西→）

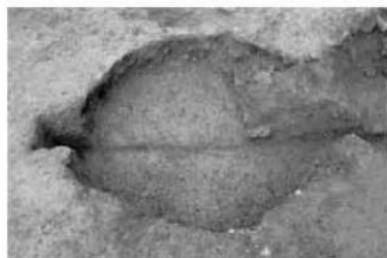


第14号土坑土層断面（南→）



第15・16号土坑土層断面（西→）

写真6 砂子瀬遺跡 土坑(3)



第15号土坑完掘 (西→)



第16号土坑完掘 (西→)



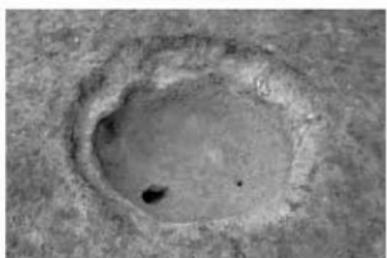
第17号土坑土層断面 (北東→)



第17号土坑完掘 (北東→)



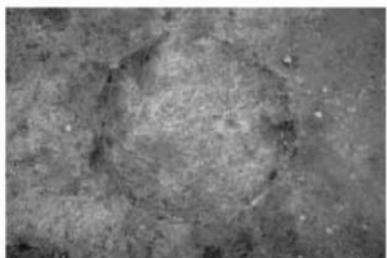
第18号土坑土層断面 (北西→)



第18号土坑完掘 (北西→)



第19号土坑土層断面 (北西→)

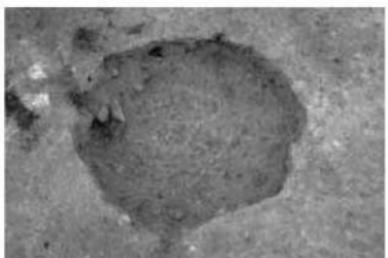


第19号土坑完掘 (北西→)

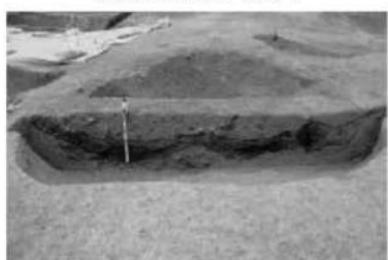
写真7 砂子瀬遺跡 土坑(4)



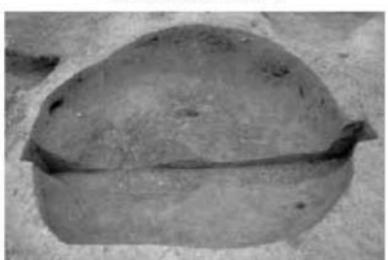
第22号土坑土層断面（南東→）



第22号土坑完掘（南東→）



第23号土坑土層断面（北西→）



第23号土坑完掘（北西→）



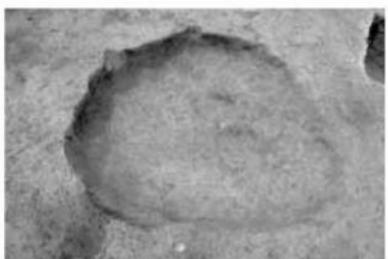
第24号土坑土層断面（南西→）



第24号土坑完掘（南西→）



第25号土坑土層断面（南東→）

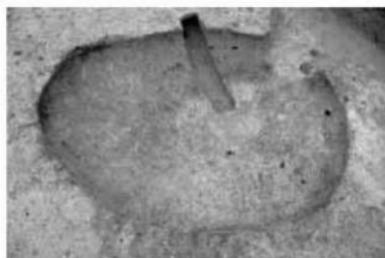


第25号土坑完掘（南東→）

写真8 砂子瀬遺跡 土坑(5)



第26号土坑土層断面（南東→）



第26号土坑完掘（南東→）



第27号土坑土層断面（南東→）



第27号土坑完掘（南東→）



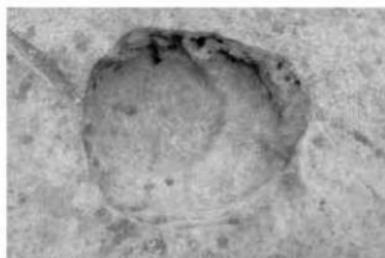
第28号土坑土層断面（南西→）



第28号土坑完掘（南西→）



第30号土坑土層断面（南西→）



第30号土坑完掘（南西→）

写真9 砂子瀬遺跡 土坑(6)



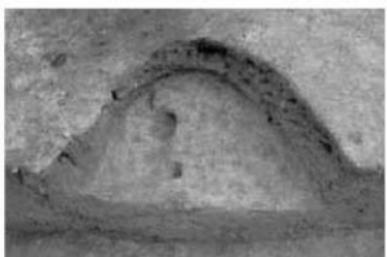
第31号土坑土層断面（南西→）



第31号土坑完掘（南西→）



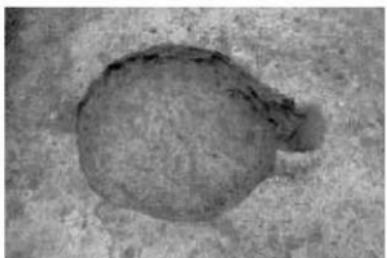
第32号土坑土層断面（北西→）



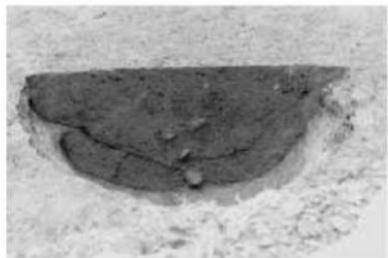
第32号土坑完掘（北西→）



第33号土坑土層断面（南西→）



第33号土坑完掘（南西→）



第34号土坑土層断面（北→）

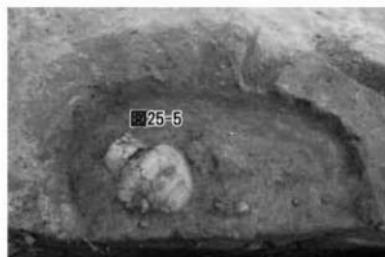


第34号土坑完掘（北→）

写真10 砂子瀬遺跡 土坑 (7)



第35号土坑土層断面（北東→）



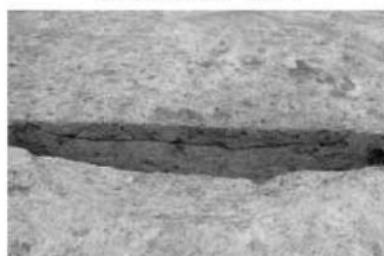
第35号土坑土器出土状況（北東→）



第36号土坑土層断面（南西→）



第36号土坑完掘（南西→）



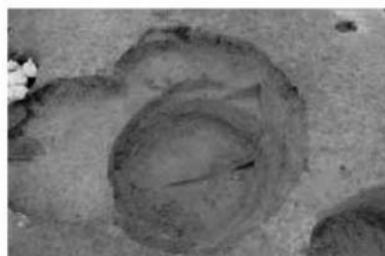
第37号土坑土層断面（北西→）



第37号土坑完掘（北西→）



第38号土坑土層断面（西→）

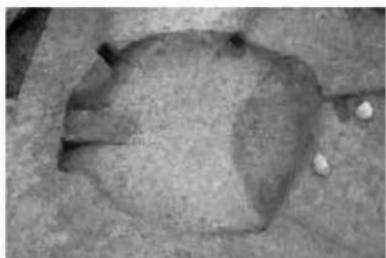


第38・54号土坑完掘（西→）

写真11 砂子瀬遺跡 土坑(8)



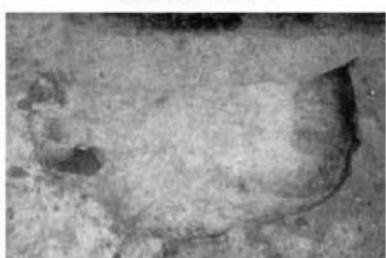
第39号土坑土層断面（西→）



第39号土坑完掘（西→）



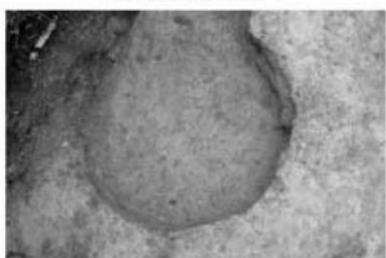
第40号土坑土層断面（南東→）



第40号土坑完掘（南東→）



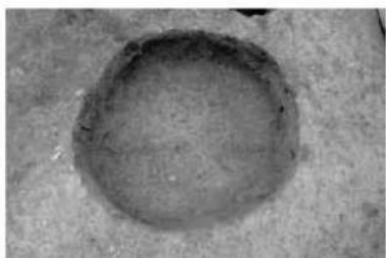
第41号土坑土層断面（北西→）



第41号土坑完掘（北西→）

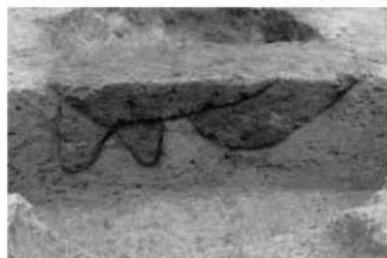


第42号土坑土層断面（北東→）



第42号土坑完掘（北東→）

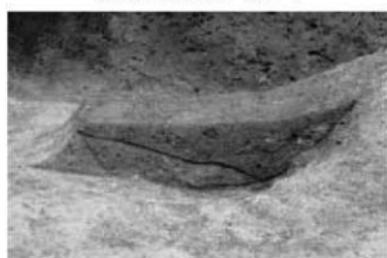
写真12 砂子瀬遺跡 土坑(9)



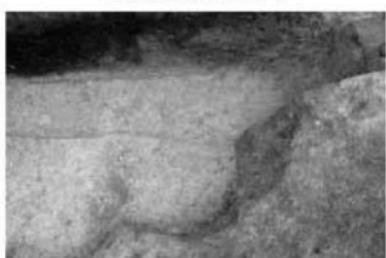
第43号土坑土層断面（南西→）



第43号土坑完掘（南西→）



第44号土坑土層断面（南東→）



第44号土坑完掘（南東→）



第45号土坑土層断面（南西→）



第45号土坑完掘（南西→）



第46号土坑土層断面A-A'（南東→）



第46号土坑土層断面B-B'（南西→）

写真13 砂子瀬遺跡 土坑(10)



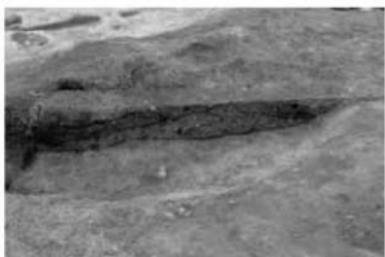
第40・46号土坑完掘（南東→）



第47号土坑土層断面（南東→）



第48号土坑土層断面（南西→）



第49号土坑土層断面（南東→）



第51号土坑土層断面（南→）



第51号土坑完掘（南→）



第52号土坑土層断面（北西→）



第52号土坑完掘（北西→）

写真14 砂子瀬遺跡 土坑 (11)



第53号土坑土層断面（南東→）



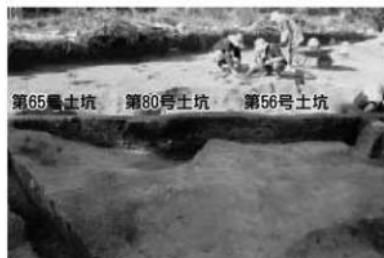
第53号土坑完掘（南東→）



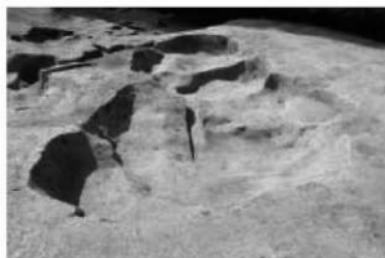
第55号土坑土層断面（南東→）



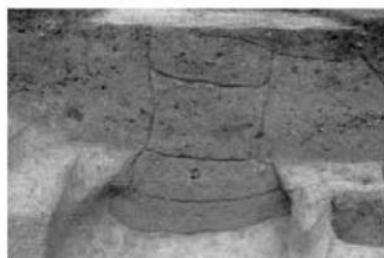
第55号土坑完掘（南東→）



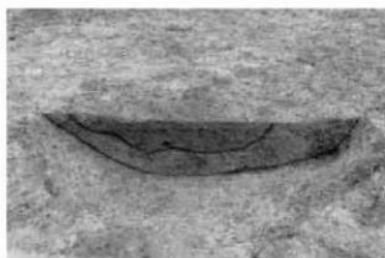
第56・65・80号土坑土層断面（南→）



第56・65・80・81・82号土坑完掘（東→）



第57号土坑土層断面（北西→）



第58号土坑土層断面（南西→）

写真15 砂子瀬遺跡 土坑 (12)



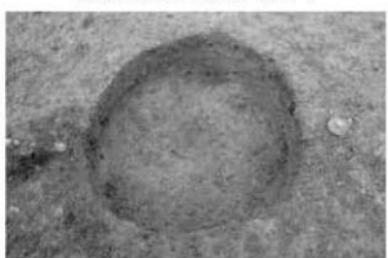
第59号土坑土層断面（南西→）



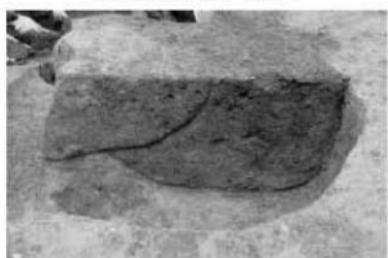
第59号土坑遺物出土状況（北西→）



第60号土坑土層断面（南西→）



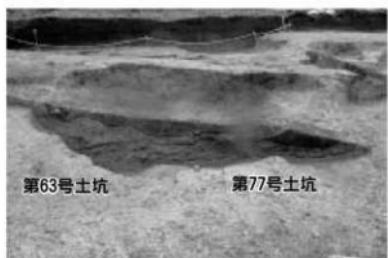
第60号土坑完掘（南西→）



第61号土坑土層断面（北西→）



第61号土坑完掘（北西→）



第63号土坑

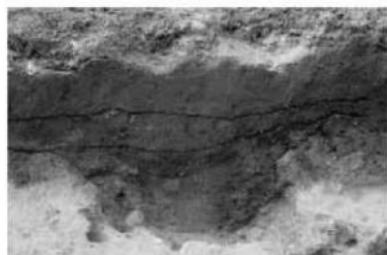
第77号土坑

第63・77号土坑土層断面（南東→）

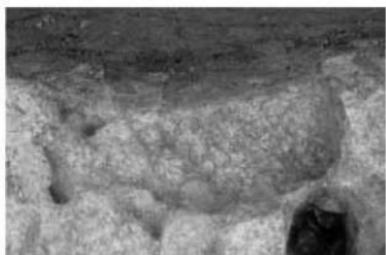


第59・63号土坑完掘（北東→）

写真16 砂子瀬遺跡 土坑 (13)



第66号土坑土層断面（南東→）



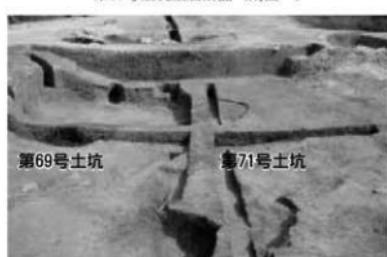
第66号土坑完掘（南東→）



第67号土坑土層断面（南西→）



第67号土坑完掘（南西→）



第69・71号土坑土層断面（北西→）



第69号土坑完掘（北→）

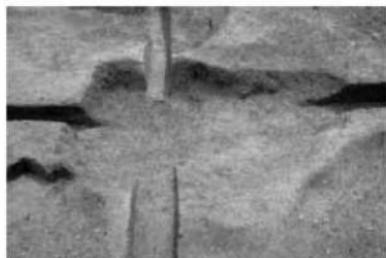


第45・71・73号土坑土層断面（南西→）



第70号土坑完掘（北→）

写真17 砂子瀬遺跡 土坑(14)



第71号土坑完掘（北西→）



第72号土坑完掘（南西→）



第72号土坑遺物出土状況（北西→）

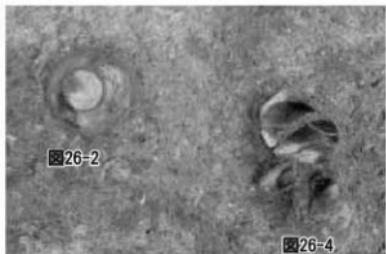
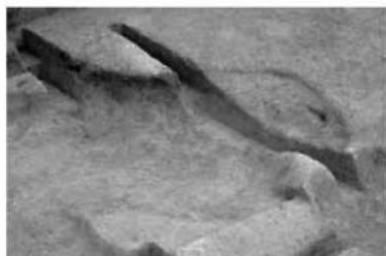


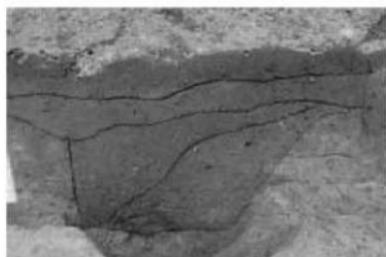
图26-2
第72号土坑遺物出土状況拡大（北西→）



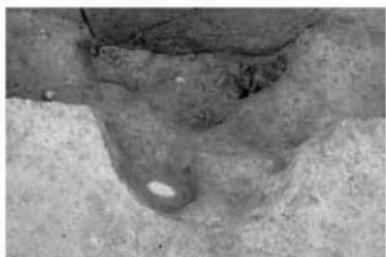
第73号土坑完掘（北西→）



第74号土坑完掘（南→）



第75号土坑土層断面（南西→）

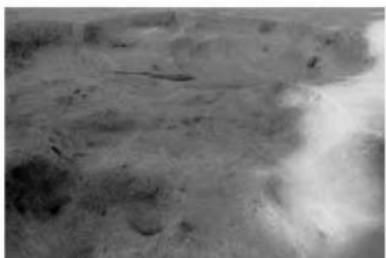


第75号土坑完掘（南西→）

写真18 砂子瀬遺跡 土坑 (15)



第76号土坑土層断面（南西→）



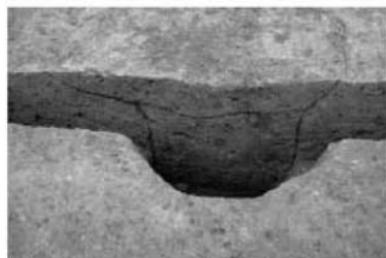
第76号土坑完掘（南西→）



第79号土坑土層断面（南西→）



第79号土坑完掘（南西→）



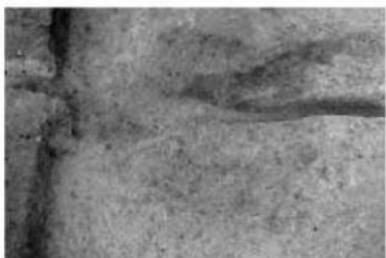
第83号土坑土層断面（南西→）



第83号土坑完掘（南西→）



第84号土坑土層断面（南西→）



第84号土坑完掘（南西→）

写真19 砂子瀬遺跡 土坑 (16)



第85号土坑土層断面（南西→）



第85号土坑完掘（南西→）



第86号土坑土層断面（南東→）



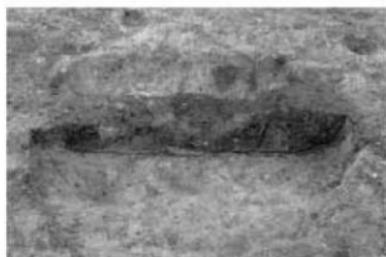
第86号土坑完掘（南東→）



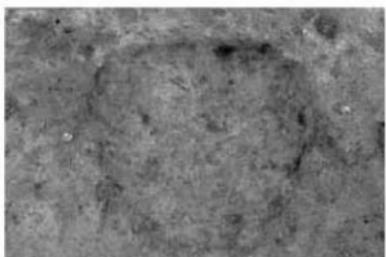
第87号土坑完掘（南東→）



第88号土坑完掘（南東→）



第89号土坑土層断面（南西→）

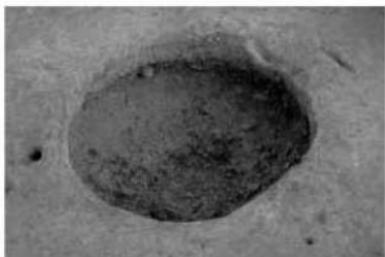


第89号土坑完掘（南西→）

写真20 砂子瀬遺跡 土坑 (17)



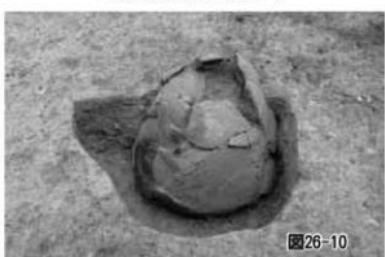
第90号土坑土層断面（北西→）



第90号土坑完掘（北西→）



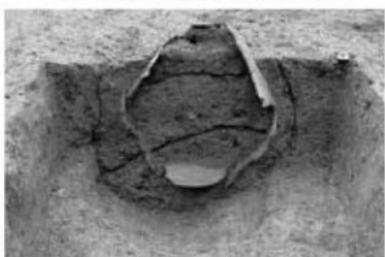
第1号土器埋設遺構検出状況（南西→）



第1号土器埋設遺構検出状況（南西→）
図26-10



第1号土器埋設遺構検出状況（南西→）



第1号土器埋設遺構土層断面（南西→）

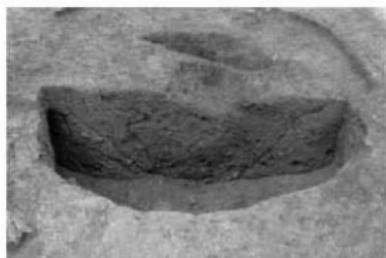


基本土層 1（南東→）



基本土層 2（北西→）

写真21 砂子瀬遺跡 土坑・埋設土器・基本土層



第0901号土坑土層断面（南東→）



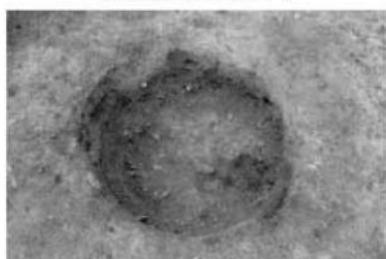
第0901号土坑完掘（南東→）



第0902号土坑完掘（南東→）



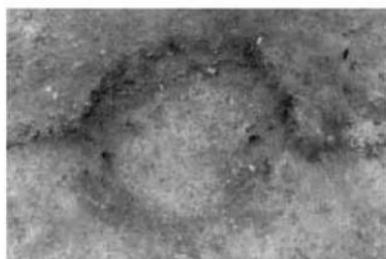
第0903号土坑土層断面（南東→）



第0903号土坑完掘（南東→）



第0904号土坑土層断面（南東→）

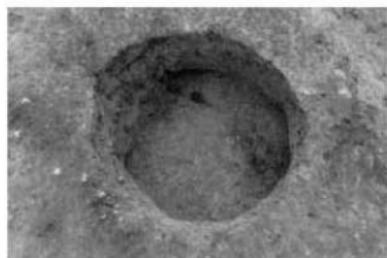


第0904号土坑完掘（南東→）



第0905号土坑土層断面（東→）

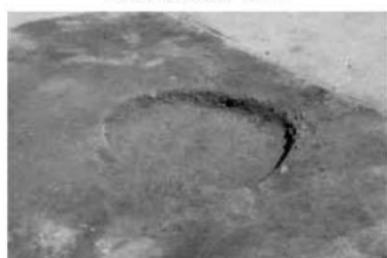
写真22 砂子瀬遺跡 土坑(1)（平成21年度調査）



第0905号土坑完掘（東→）



第0906号土坑土層断面（東→）



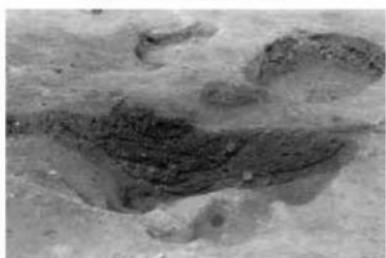
第0906号土坑完掘（南東→）



第0907号土坑土層断面（南東→）



第0907号土坑完掘（南東→）



第0908号土坑土層断面（南→）

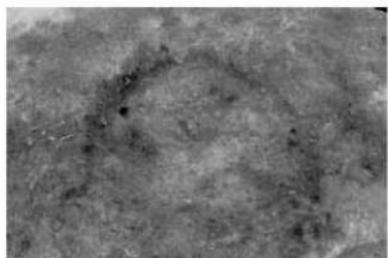


第0908号土坑完掘（南東→）



第0909号土坑土層断面（南東→）

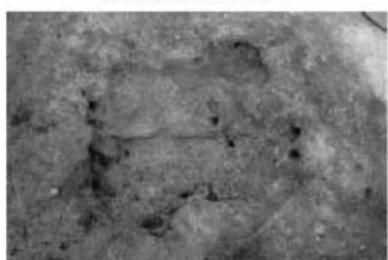
写真23 砂子瀬遺跡 土坑(2)（平成21年度調査）



第0909号土坑完掘（北東→）



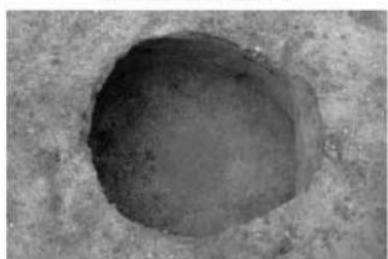
第0910号土坑土層断面（南東→）



第0910号土坑完掘（北東→）



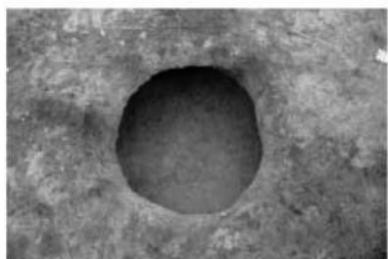
第0911号土坑土層断面（南東→）



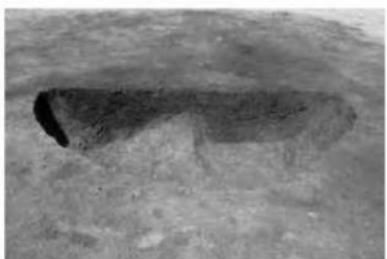
第0911号土坑完掘（南東→）



第0912号土坑土層断面（南東→）

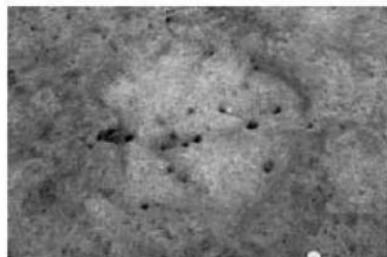


第0912号土坑完掘（南東→）

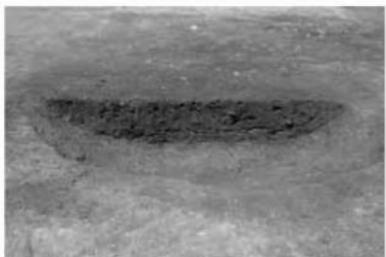


第0913号土坑土層断面（南東→）

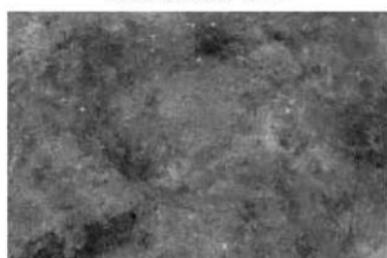
写真24 砂子瀬遺跡 土坑(3)（平成21年度調査）



第0913号土坑完掘（東→）



第0915号土坑土層断面（南東→）



第0915号土坑完掘（北東→）



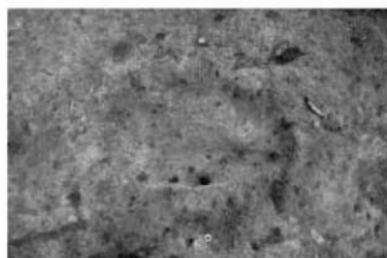
第0916号土坑土層断面（南東→）



第0916号土坑完掘（北東→）



第0917号土坑土層断面（北東→）

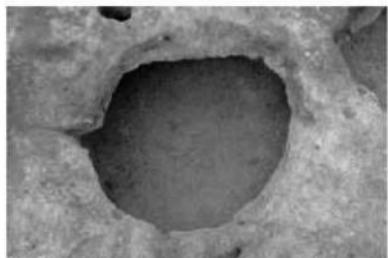


第0917号土坑完掘（北東→）



第0918号土坑土層断面（北東→）

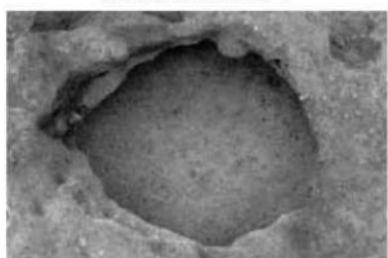
写真25 砂子瀬遺跡 土坑(4)（平成21年度調査）



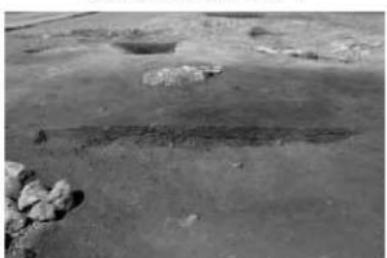
第0918号土坑完掘（北東→）



第0919号土坑土層断面（北東→）



第0919号土坑完掘（北東→）



第0901号焼土遺構土層断面（東→）



第0901号焼土遺構完掘（北東→）



第0901土層断面（北→）



第0901完掘（南→）



作業風景（南東→）

写真26 砂子瀬遺跡 土坑・焼土遺構・沢（平成21年度）

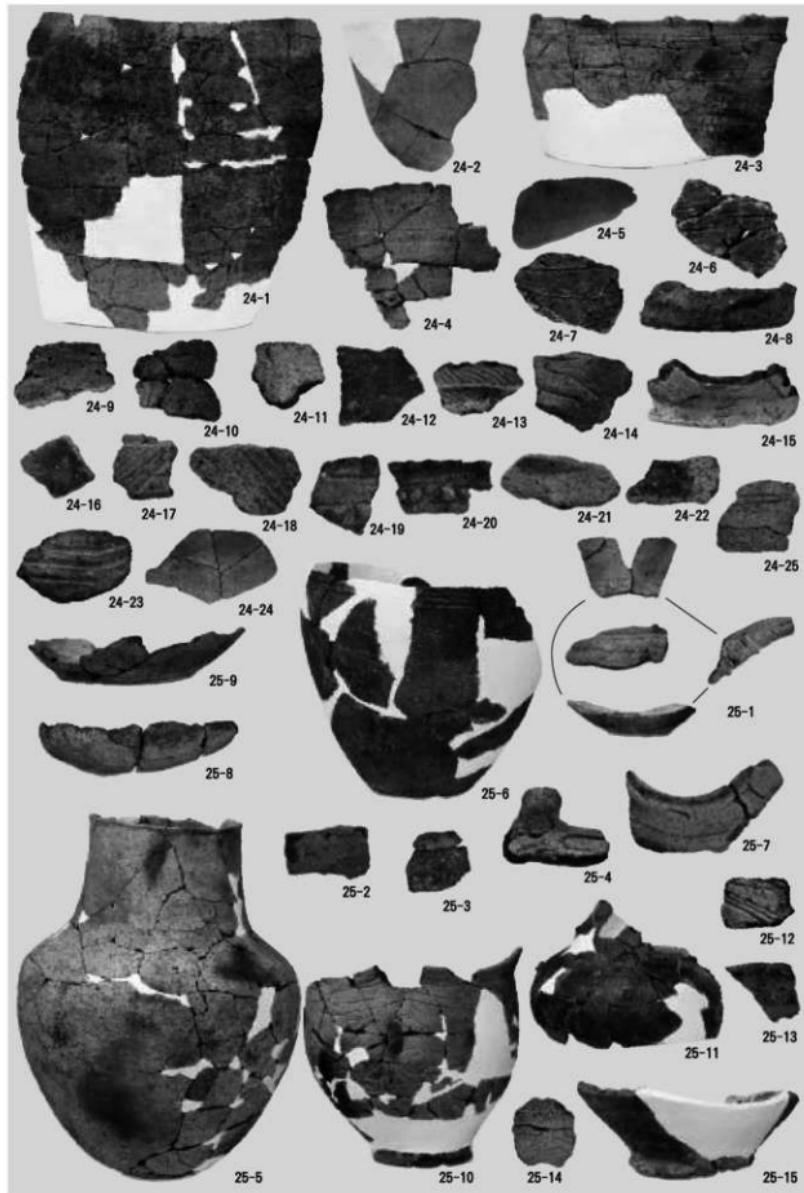


写真27 砂子瀬遺跡 出土遺物(1)

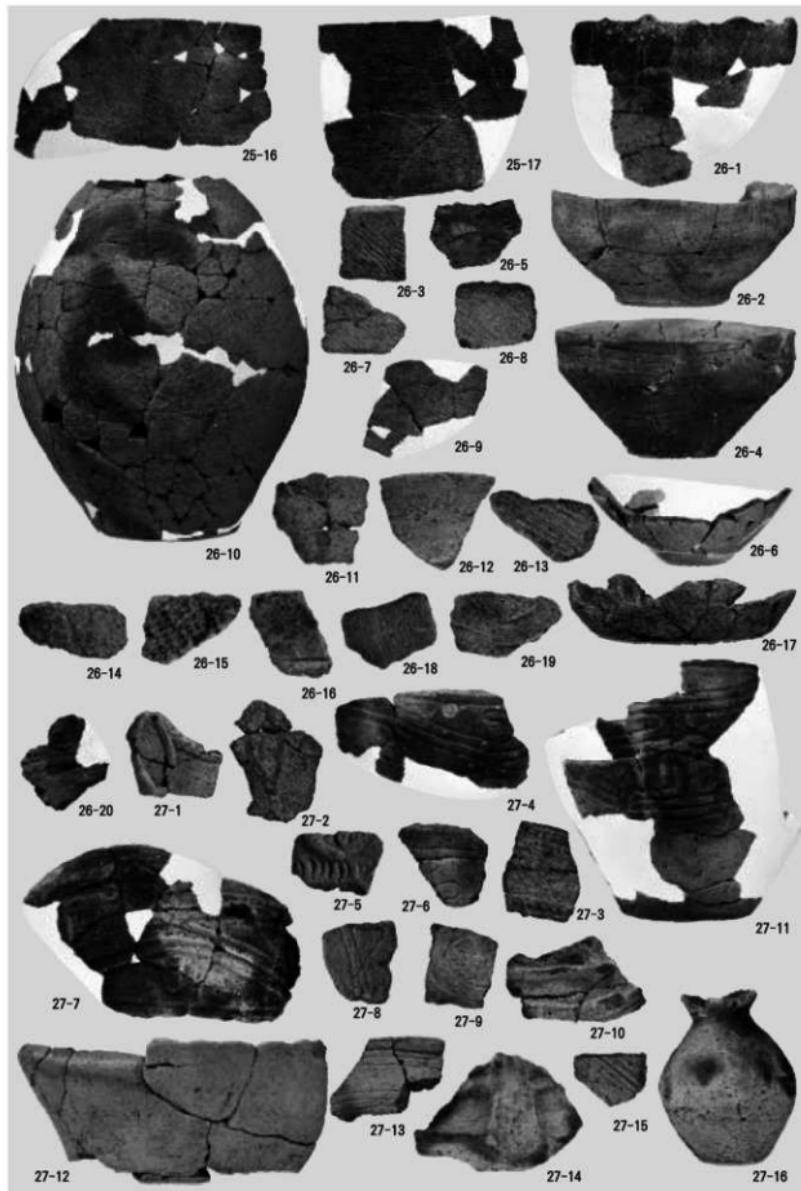


写真28 砂子瀬遺跡 出土遺物(2)

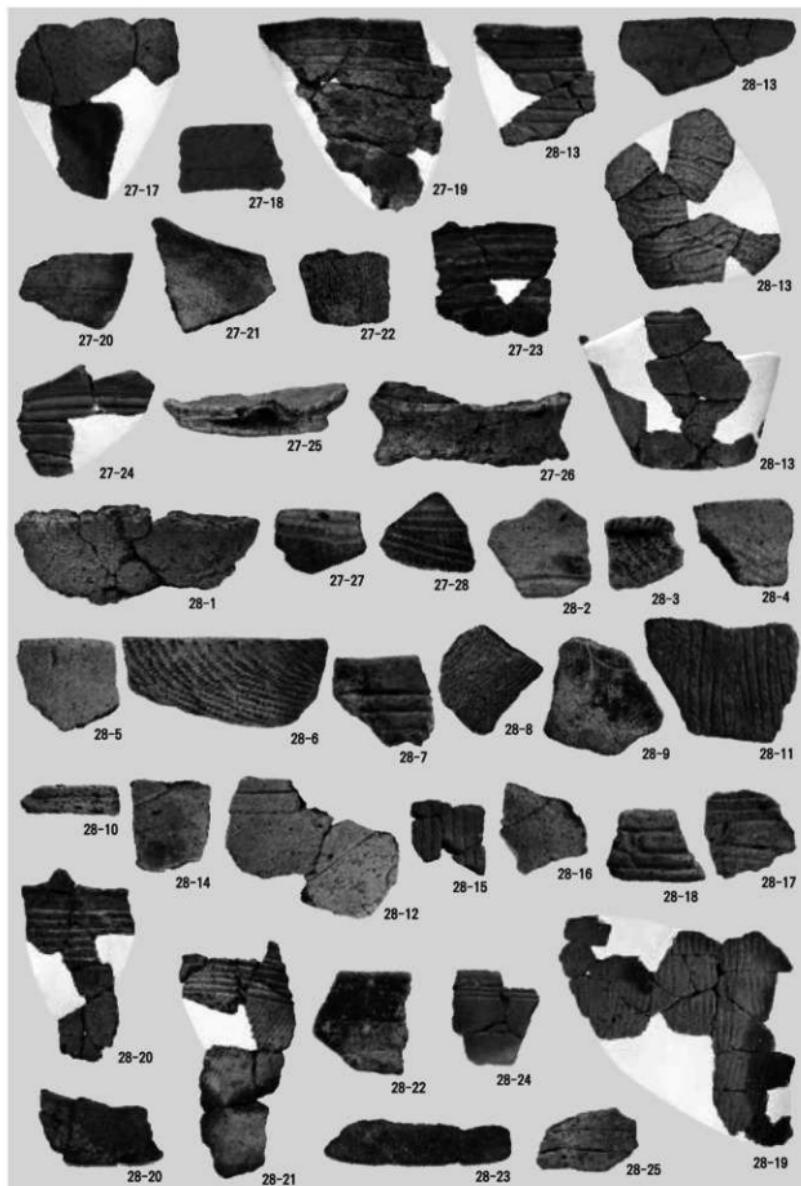


写真29 砂子瀬遺跡 出土遺物(3)

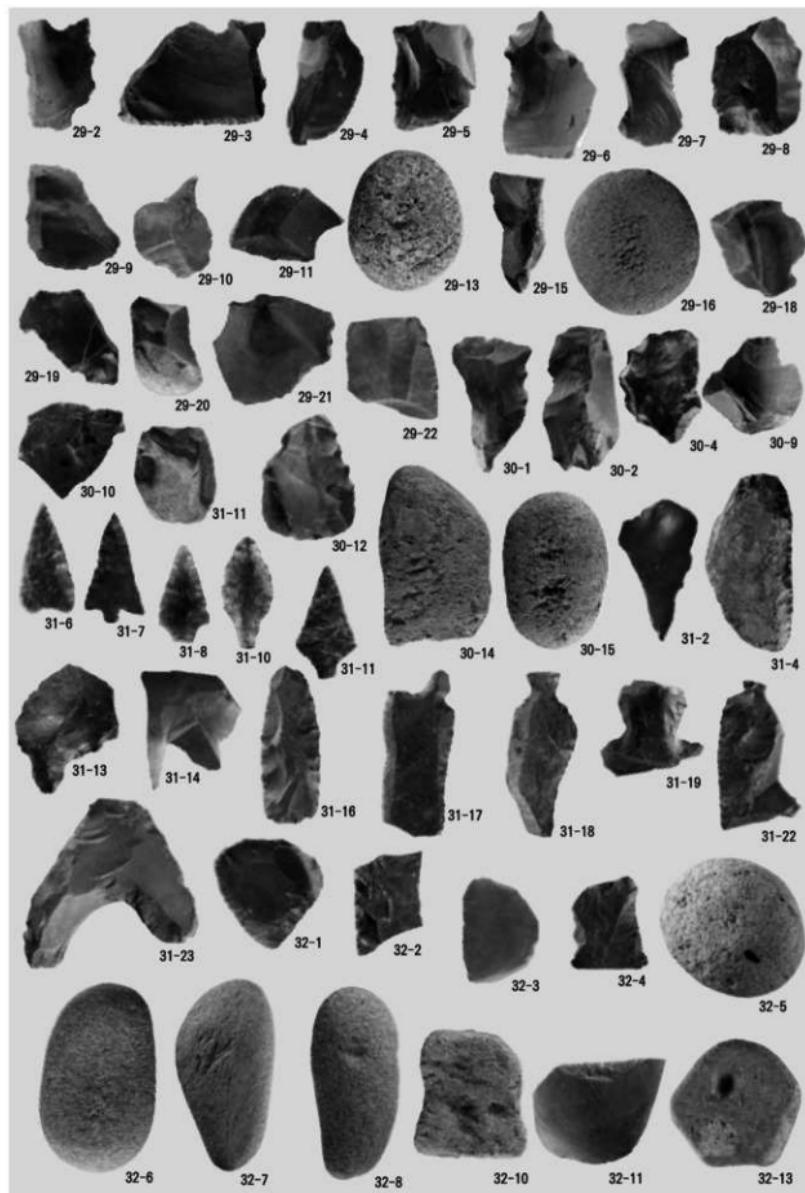


写真30 砂子瀬遺跡 出土遺物(4)



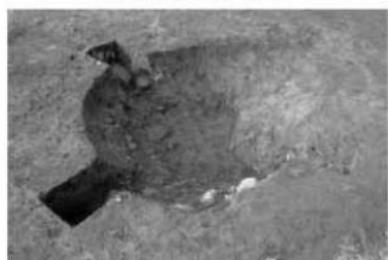
A区：調査区全景（南→）



B区：沢1・3作業風景（東→）



B区：基本層序②（北→）



A区：SK01完掘（南→）



A区：SK02完掘（南→）



B区：TR23作業風景（北→）

写真31 大川添(2) 遺跡 A区・B区



C区西：全景（作業風景）(南→)



C区東：全景（南→）



C区西：作業風景（東→）



C区東：基本層序⑦（南西→）



C区西：基本層序⑥（南→）



C区東：TR43遺物出土狀況（南東→）



C区西：LTR02完掘（西→）



C区東：TR44遺物出土狀況（南東→）

写真32 大川添(2) 遺跡 C区

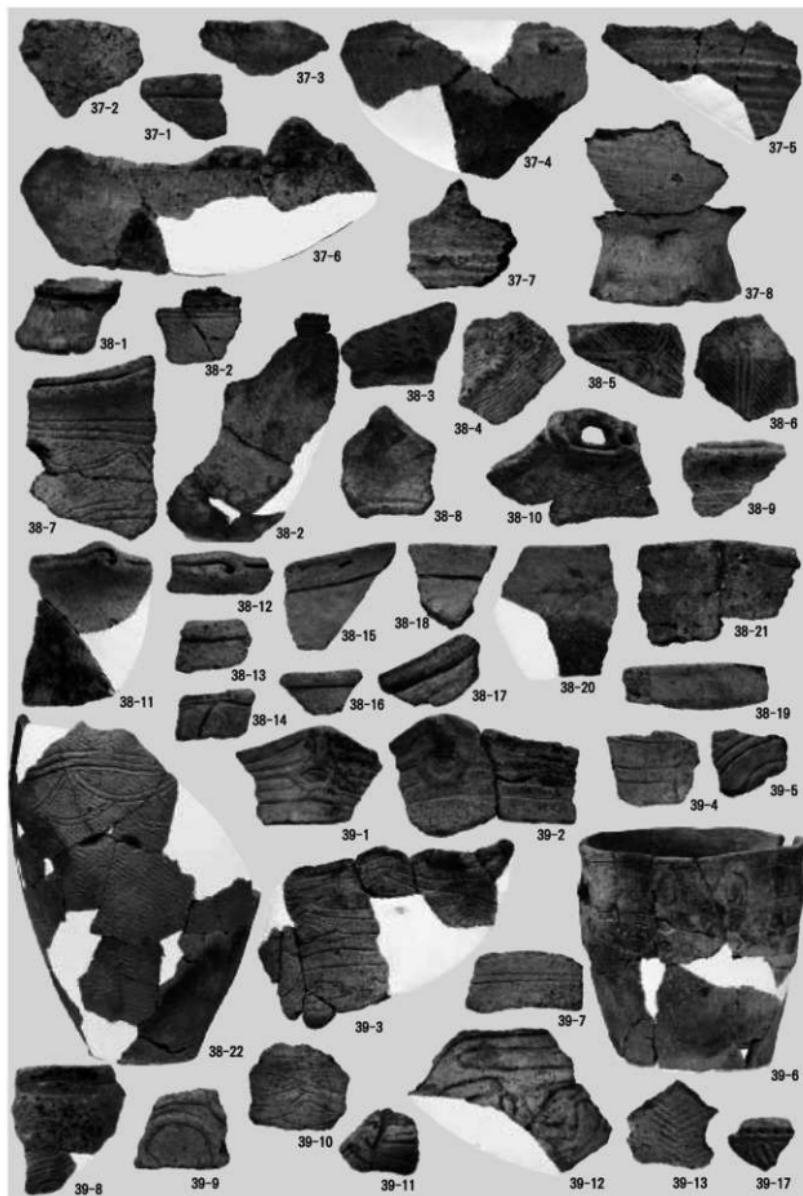


写真33 大川添(2) 遺跡 出土遺物(1)

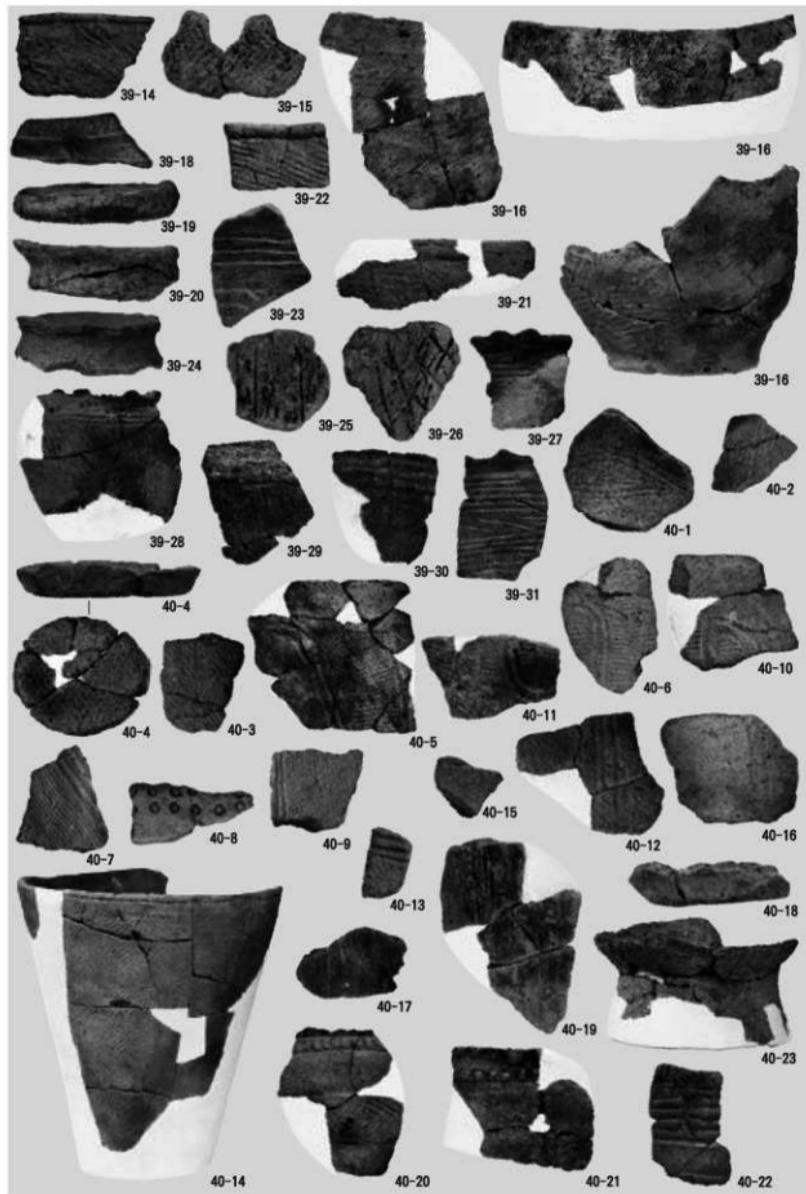


写真34 大川添(2)遺跡出土遺物(2)

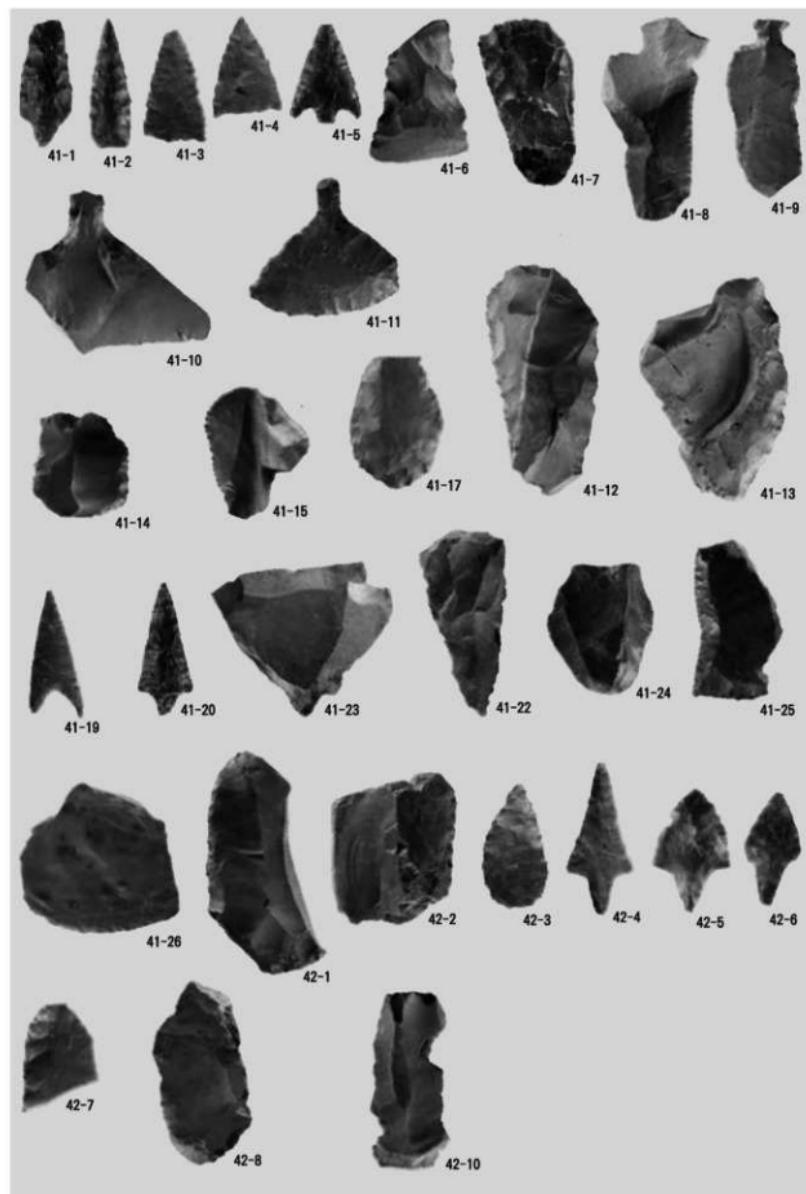


写真35 大川添(2) 遺跡 出土遺物(3)

報告書抄録

ふりがな	すなこせいせき おおかわぞえかっこにいせき					
書名	砂子瀬遺跡Ⅱ・大川添(2)遺跡Ⅱ					
副書名	津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告					
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第482集					
編著者名	中嶋友文・新山隆男・佐々木雅裕・工藤忍・佐藤純子・菅原優太					
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター					
所在地	〒038-0042 青森県青森市新城字天田内152-15 TEL:017-788-5701 FAX:017-788-5702					
発行機関	青森県教育委員会					
発行年月日	西暦 2010年3月23日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード	日本測地系 (Tokyo Datum)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
砂子瀬	青森県中津軽郡 西目屋村砂子瀬 字宮元	市町村 343008 02343	北緯 東経	(平成30年度) 20080508 ~	(平成30年度) 8,200	津軽ダム建設 事業に伴う事 前調査
			40°31'38" 140°14'48" 40°31'47" 140°14'35"	世界測地系 (JGD 2000)	20081031 (平成31年度) 20090507 ~	
大川添(2)	# 川原平 字大川添	343019	北緯 東経	20090731		
			40°31'48" 140°14'36" 40°31'57" 140°14'23"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
砂子瀬	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 土坑 土器埋設遺構 焼土遺構	1軒 100基 1基 1基	縄文土器 石器 土製品 石製品	
大川添(2)	散布地	縄文時代	土坑	2基		
要約	<p>砂子瀬遺跡</p> <p>調査の結果、遺跡南西端の丘陵北東斜面からは、後期初頭から前葉の時期の土坑群、後葉の時期と思われる竪穴住居跡や土坑等が確認され、後期後葉の時期には集落が展開していたことが明らかとなった。</p> <p>大川添(2)遺跡</p> <p>調査では、平坦部の大部分が削平されているものの、川沿いの緩斜面に遺構や遺物が残存しているため、今後も引き続き周辺の調査が必要であることが分かった。</p>					

青森県埋蔵文化財調査報告書 第482集

砂子瀬遺跡Ⅱ 大川添(2)遺跡Ⅱ

—津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 平成22年3月23日

発 行 青森県教育委員会

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森市新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702

印 刷 東奥印刷株式会社
〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目1-77
TEL 017-739-8951 FAX 017-739-8953
